

仙台市文化財調査報告書第302集

仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(2)概要報告書

2006年3月

仙台市教育委員会
仙 台 市 交 通 局

仙台市文化財調査報告書第302集

仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(2)概要報告書

2006年3月

仙台市教育委員会
仙 台 市 交 通 局

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろから多大なご協力を賜り、まことに感謝にたえません。

さて、当市では、暮らしやすく環境にやさしい新しい都市づくりを進めるため、軌道系交通機関を機軸としたまとまりのある集約型の市街地形成への転換を図っており、その主要な施策として、高速鉄道東西線プロジェクトを進めております。今回の発掘調査はそれに伴う確認・試掘調査で昨年度に続く2年次のものです。調査は昨年同様に計画路線のなかの川内地区・西公園地区を中心に行われ、近世を主とする貴重な成果が得られました。

先人の残した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ次の世代に継承していくことは、現代に生きる私たちの大きな責務であると考えております。また、文化財の保護につきましては、地域の皆様の深い御理解と御協力が必要となります。その意味でも、今回の調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、多くの方々に活用されれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行に際しまして、御協力くださいました皆様に深く感謝を申し上げる次第です。

平成18年3月

仙台市教育委員会
教育長 奥山 恵美子

例 言

1. 本書は、高速鉄道東西線建設事業及び都市計画道路川内旗立線（川内1区）の建設に伴い実施された、埋蔵文化財の確認・試掘調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は、国際航業株式会社が仙台市教育委員会の委託を受け、仙台市教育委員会の指導監督のもとに行った。
3. 本書の作成・編集・執筆は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 佐藤甲二の指導のもとに、国際航業株式会社 竹内俊之・山崎良二・土橋尚起・守谷健吾が担当した。
4. 調査及び報告書作成にあたり、下記のデジタル機器・ソフトウェアを使用した。
測量・遺構計測 ブルートレンド（福井コンピュータ）、遺物写真実測 オルソイメージヤー（国際航業）、
遺構図・遺物実測図編集 フォトショップ・イラストレーター（アドビシステムズ）
5. 本調査の実施及び報告書の作成に際し、次の諸氏・機関よりご指導、ご教示、さまざまな御協力を賜った。記して敬意を表す次第である。（敬称略順不同）。
藤沢 敏・高木暢亮・柴田恵子（東北大埋蔵文化財調査研究センター） 松木秀明（東北学院大学）
野中奈津子（東北大大学院） 佐藤 洋（仙台市博物館） 早坂義雄（宮城県樹木医会） 東北大
仙台市交通局 仙台市建設局 仙台市天文台 仙台市青葉区建設課 （財）仙台市公園緑地協会
6. 発掘調査に関わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 本書の土色は、新版標準上色帳（農林水産省農林水産技術会議事務局1998版）に準拠している。
2. 本書中の第1図は国土地理院発行の5万分の1地形図「仙台」と1万分の1地形図「青葉山」「仙台駅」を合成した。第2図は2万5千分の1地形図「仙台北部」を使用した。
3. 図中の座標値は日本測地系座標を使用した。
4. 本文図版等で使用した方位はすべて真北で統一してある。
5. 標高値は、海拔高度（T.P.）を示している。
6. 遺構図は1/60縮尺を基本とした。その他については各図のスケールを参照されたい。
7. 基本層の表記はアスファルト舗装を除き、表土層からローマ数字を用い、遺構堆積についてアラビア数字で表記した。遺構確認面を実線で、遺構が確認された層準を▲で表記した。
8. 基本層序柱状図は△を中心とした壁の基本層で合成した。
9. 遺構名の略称としてSK：土坑、SD：溝跡、P：ピット、SX：性格不明遺構を使用した。
10. 遺構図において、□は搅乱の範囲、「S」は礫を示している。
11. 遺物の登録・整理及び報告書での表示には、以下の分類と略号を使用した。
A：繩文土器 F：丸瓦・軒丸瓦 G：平瓦・軒平瓦 H：その他の瓦 I：陶器・瓦質土器
J：磁器 K：石器・石製品 N：金属製品 O：自然遺物 P：土製品 X：その他の遺物
12. 遺物実測図は原則として縮尺1/3としたが、古銭は原寸で表示した。
13. 遺物実測図において、外形線・中心線・稜線は実線、推定線は破線で、釉薬部の境は一点鎖線で表した。中心線が一点鎖線のものは、転写し図上復元したものである。
14. 遺物観察表で陶磁器類の成形技法は、大部分がクロコ成形であるため省略し、他の技法を記載した。

本文目次

I 調査の概要	1
1 調査の経緯	1
2 調査要項	2
II 立地と歴史的環境	2
1 A区	3
2 B区	4
3 C区・E区・F区・G区	4
4 D区	4
5 H区	4
III 調査の方法と経過	6
IV A区の調査成果	8
1 調査区の設定及び基本層序	8
2 確認された遺構と遺物	9
V B区の調査成果	12
1 調査区の設定及び基本層序	12
2 確認された遺構と遺物	13
VI C区の調査成果	17
1 調査区の設定及び基本層序	17
2 確認された遺構と遺物	18
VII D区の調査成果	21
1 調査区の設定及び基本層序	21
2 確認された遺構と遺物	22
VIII E区の調査成果	29
1 調査区の設定及び基本層序	29
2 確認された遺構と遺物	30
IX F区の調査成果	35
1 調査区の設定及び基本層序	35
2 確認された遺構と遺物	36
X G区の調査成果	39
1 調査区の設定及び基本層序	39
2 確認された遺構と遺物	40
XI H区の調査成果	47
1 調査区の設定及び基本層序	47
2 確認された遺構と遺物	48
XII まとめ	55

挿 図 目 次

第1図	調査区位置図	1	第26図	E区No.1 トレンチ出土遺物	32
第2図	河岸段丘分布図・調査区横断図	3	第27図	F区No.2 トレンチ平面図・断面図	33
第3図	絵図・古地図における調査区の位置	5	第28図	E区No.2 トレンチ出土遺物	33
第4図	グリッド設定図	7	第29図	E区No.3 トレンチ平面図・断面図	34
第5図	A区トレンチ配置図・基本層序柱状図	8	第30図	F区トレンチ配置図・基本層序柱状図	35
第6図	A区No.7 トレンチ平面図・断面図	9	第31図	F区No.1 トレンチ平面図・断面図	36
第7図	A区No.7 トレンチ出土遺物	10	第32図	F区No.1 トレンチ出土遺物	36
第8図	A区No.8 トレンチ平面図・断面図	11	第33図	F区No.2 トレンチ平面図・断面図	37
第9図	B区トレンチ配置図・基本層序柱状図	12	第34図	F区No.3 トレンチ平面図・断面図	38
第10図	B区No.7 トレンチ平面図・断面図	13	第35図	G区トレンチ配置図・基本層序柱状図	39
第11図	B区No.8 トレンチ平面図・断面図	14	第36図	G区No.1 トレンチ平面図・断面図	40
第12図	B区No.9 トレンチ平面図・断面図	15	第37図	G区No.1 トレンチ出土遺物	41
第13図	B区No.9 トレンチ出土遺物	16	第38図	G区No.2 トレンチ平面図・断面図	42
第14図	C区トレンチ配置図・基本層序柱状図	17	第39図	G区No.2 トレンチ出土遺物	43
第15図	C区No.6 トレンチ平面図・断面図	18	第40図	G区No.3 トレンチ平面図・断面図	44
第16図	C区No.6 トレンチ出土遺物	20	第41図	G区No.4 トレンチ平面図・断面図	45
第17図	D区トレンチ配置図・基本層序柱状図	21	第42図	G区No.5 トレンチ平面図・断面図	46
第18図	D区No.2 トレンチ平面図・断面図	22	第43図	G区No.5 トレンチ出土遺物	46
第19図	D区No.2 トレンチ出土遺物	23	第44図	H区トレンチ配置図・基本層序柱状図	47
第20図	D区No.3 トレンチ平面図・断面図	24	第45図	H区No.1 トレンチ平面図・断面図	49
第21図	D区No.3 トレンチ出土遺物	26	第46図	H区No.1 トレンチ出土遺物	50
第22図	D区No.4 トレンチ平面図・断面図	27	第47図	H区No.2 トレンチ平面図・断面図	52
第23図	D区No.4 トレンチ出土遺物	28	第48図	H区No.2 トレンチ出土遺物	54
第24図	E区トレンチ配置図・基本層序柱状図	29	第49図	前年度調査トレンチ配置図(1)	58
第25図	E区No.1 トレンチ平面図・断面図	30	第50図	前年度調査トレンチ配置図(2)	59

表 目 次

表1	調査工程表	6	表6	D区出土遺物集計表	56
表2	確認遺構数集計表	56	表7	E区出土遺物集計表	56
表3	A区出土遺物集計表	56	表8	F区出土遺物集計表	57
表4	B区出土遺物集計表	56	表9	G区出土遺物集計表	57
表5	C区出土遺物集計表	56	表10	H区出土遺物集計表	57

写真図版目次

図版1	A区	63	図版8	G区(2)	70
図版2	B区(1)	64	図版9	G区(3)・H区(1)	71
図版3	B区(2)・C区・D区(1)	65	図版10	H区(2)	72
図版4	D区(2)	66	図版11	A区・B区・C区・D区出土遺物	73
図版5	D区(3)・E区(1)	67	図版12	D区・E区・F区出土遺物	74
図版6	E区(2)・F区(1)	68	図版13	G区・H区出土遺物	75
図版7	F区(2)・G区(1)	69	図版14	H区出土遺物	76

I 調査の概要

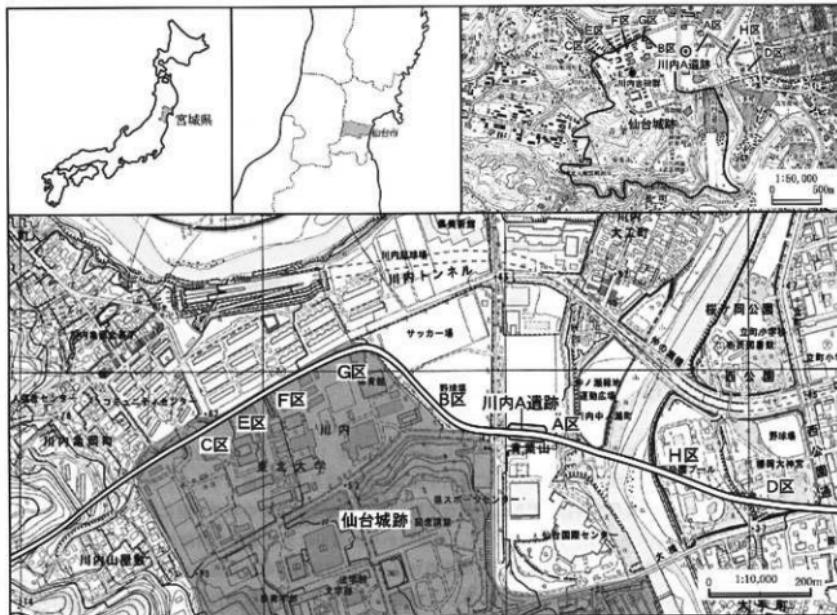
1 調査の経緯

平成11年5月、仙台市教育委員会と当時事業主管局であった仙台市都市整備局との間で、高速鉄道東西線建設事業に伴う遺跡の取り扱いについての第1回目の協議が持たれた。その後、事業主管局は仙台市交通局に移され、平成15年度より仙台市教育委員会との本格的な協議が開始された。

高速鉄道東西線事業計画予定路線内における、周知の遺跡及び遺跡外の状況把握のため確認調査及び試掘調査をまず実施し、その結果を踏まえ本調査を必要とする箇所を決定し、これを基に発掘調査を順次、事業計画に沿いながら進めて行くことが両者間で確認された。

以上の協議事項に基づき、平成16年度より確認調査及び試掘調査を開始した。平成17年度は、さらに都市計画道路川内旗立線（川内工区）の建設事業地内における確認調査もあわせて実施することとなった。

発掘調査の2年次目にあたる今年度は、仙台城跡及びその周辺地区、川内A遺跡隣接地区、西公園地区を対象地区とし、確認調査・試掘調査を実施した。確認調査は4つの区（C・E・F・G区）で、また、試掘調査は4つの区（A・B・D・H区）で行なった。確認調査・試掘調査のトレンチ総数は22箇所、総面積は421m²である。これらの内、予定路線内のものは8箇所、関連工事地内のものは3箇所、道路事業地内のものは2箇所、予定路線内と道路事業地内に重複するものは9箇所である。調査は、C区の亀岡トンネル部の確認調査を平成17年7月25日に開始し、A区の仮称国際センター駅部周辺の試掘調査を同年11月1日に終了して、今年度の野外調査を完了した。



第1図 調査区位置図

2 調査要項

遺跡名：仙台城跡（宮城県遺跡番号第01033号、仙台市文化財登録番号C-501号）、他
所在地：宮城県仙台市青葉区青葉山・川内・桜ヶ岡公園地内

調査主体：仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）

調査担当：調査係主査 佐藤甲二

調査係主査 素野裕彦

調査機関：国際航業株式会社

主任調査員 竹内俊之

調査員 山崎良二・土橋尚起・守谷健吾

調査補助員 小林孝影

計測員 佐々木亨

計測補助員 諸熊和彦・佐藤和巳

調査面積：421m²

A区（仮称国際センター駅部周辺） 28m²（川内A遺跡隣接地）

B区（扇坂トンネル部） 72m²（仙台城跡隣接地試掘調査）

C区（亀岡トンネル部） 24m²（仙台城跡確認調査）

D区（仮称西公園駅部周辺） 51m²

E区（仮称川内駅部） 72m²（仙台城跡確認調査）

F区（仮称川内駅部） 72m²（仙台城跡確認調査）

G区（扇坂トンネル部） 54m²（仙台城跡確認調査）

H区（仮称西公園駅部周辺） 48m²

調査期間：A区 平成17年10月19日～平成17年11月1日

B区 平成17年8月22日～平成17年9月2日

C区 平成17年7月25日～平成17年8月30日

D区 平成17年9月12日～平成17年9月29日

E区 平成17年7月25日～平成17年8月30日

F区 平成17年8月4日～平成17年8月30日

G区 平成17年8月29日～平成17年9月20日

H区 平成17年9月26日～平成17年10月14日

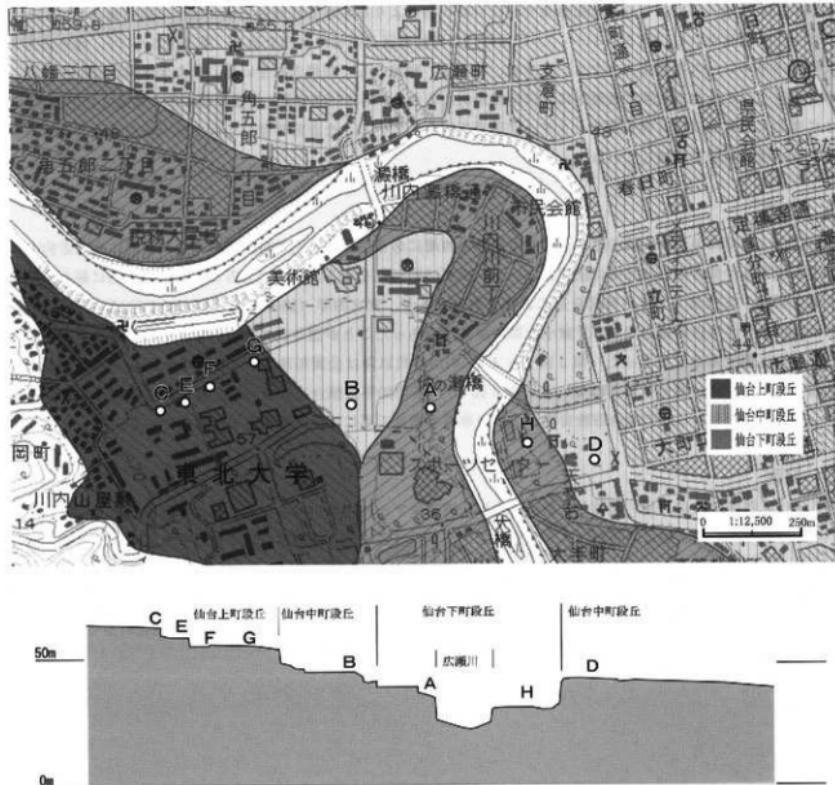
II 立地と歴史的環境

調査の対象となった仙台城跡（C・E・F・G区）とその隣接地（B区）、川内A遺跡の隣接地（A区）及び西公園地区（D・H区）は仙台市街地の西方、広瀬川中流域の河岸段丘上に位置している。河岸段丘は高位面より青葉山段丘・仙台台ノ原段丘・仙台上町段丘・仙台中町段丘・仙台下町段丘の順で5面に区分される⁽¹⁾。広瀬川右岸の調査区（C・E・F・G・B・A区）は、青葉山から広瀬川に至る東向き斜面の麓部にあたり、C・E・F・G区が仙台上町段丘面、B区が仙台中町段丘相当面、A区が仙台下町段丘面上に位置している。また広瀬川左岸の調査区（D・H区）は、仙台市街地の抜がる西端部にあたり、D区は仙台中町段丘面、H区は仙台下町段丘面上に位置している。各調査区の標高は右岸が約37m～約65m、左岸が約32m～約44mを測る。

(1) 松本秀明 2001 「仙台空中写真撮影とその記のいまむかし」 仙台市総合局

1 A区

A区は西方から川内地区を南北に分ける沢（千貫沢）の下流部北側にあたり、東側に比高差が約10mに及ぶ断崖をもつ仙台下町段丘面上に位置している。標高は約36mから約40mを測る。正保二・三年（1645・1646）の『奥州仙台城絵図』、寛文四年（1664）『仙台城下絵図』によると武家屋敷地となっており（第3図1・2）、その後の享保九年（1724）の『仙台城下絵図』、安政三・六年（1856～1859）の『安政補正改革仙府絵図』には御炭藏と記されている（第3図3・4）。17世紀代は仙台城二の丸北側に拡がる武家屋敷地の一画であり、18世紀代から幕末まで仙台藩の御用地として利用されていたようである。明治時代以降は、第二次大戦まで陸軍第二師団の施設が置かれ（第3図5・6）、戦後は米軍駐留地となる（第3図7）。昭和32年に米軍より返還された後に、昭和37年から平成11年まで仙台商業高等学校の校地として利用された（第3図8）。なお前年度に仙台市教育委員会による仙台城隣接地試掘調査の結果、A区の西側大半は川内A遺跡として遺跡登録（平成16年7月）され、今年度本調査を実施している。



第2図 河岸段丘分布図・調査区横断図⁽³⁾

(3) 仙台市史編さん委員会 1994 「仙台市史 製作編1自然」の図2-16を元に作成。作成にあたっては松本齊明氏にご教示をいただいた。

2 B区

B区は仙台城跡二の丸地区の北側、川内A遺跡の西側にあたり、仙台中町段丘相当面に位置している。標高は約47mを測る。絵図によると江戸時代を通じて地割された武家屋敷地であった。(第3図1~4)、明治時代以降は終戦まで陸軍第二師団の施設が置かれ(第3図5・6)、戦後は米軍駐留地となる(第3図7)。昭和32年、米軍より返還されて、東北大大学が移転。現在はグラウンドとして利用されている。なお前年度に仙台市教育委員会は当事業に伴い試掘調査を実施している。

3 C・E・F・G区

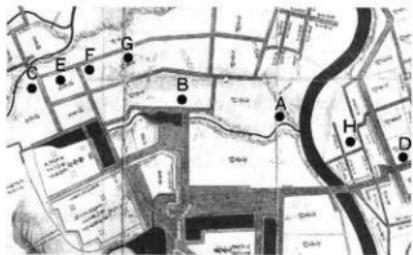
C・E・F・G区は仙台城跡範囲内の北辺部にあたり、東側に比高差が約6mに及ぶ断崖をもつ仙台上町段丘面上に位置している。調査区は現況から高低差のある平坦な4面に4区をそれぞれ設定し、確認調査を実施した。明治時代以降に盛土や削平により整地化しているが、本来は東方へ低くなる緩斜面をもつ段丘面である。C区東側で標高は約65mを測り、東に約300mのG区東側の仙台上町段丘崖線で約56mを測る。絵図によると大きく地割された仙台城二の丸北方の武家屋敷地、江戸時代初頭より幕末まで比較的上級の家臣の屋敷地として利用されていたと考えられる(第3図1~4)。明治時代以降はB区と同様の変遷を辿る(第3図5~7)。現在は東北大大学川内キャンパスの北側にあたり、駐車場、駐輪場、緑地として利用されている。また大学構内は仙台城跡二の丸地区と二の丸北方武家屋敷地区にはほぼ全域があたるため、昭和58年以降、施設整備に伴う埋蔵文化財調査は、主に東北大大学埋蔵文化財調査研究センターが調査を実施している。なお前年度にC区で仙台市教育委員会は当事業に伴い確認調査を実施している。

4 D区

D区は広瀬川に架かる大橋の北東、仙台市街地の西端にある西公園地内の南側にあたり、西側に比高差約11mの段丘崖をもつ仙台中町段丘面上に位置している。標高は約43mを測る。絵図によると仙台城大手門に続く道筋の北側に隣接する敷地で、江戸時代を通じ武家屋敷地であり、寛文四年(1664)の『仙台城下絵図』(第3図2)には仙台藩家老の白石城主である片倉小十郎の屋敷地であったことが記されている。また東側は通りを挟み、町屋敷地が展開する地区であった(第3図2~4)。明治時代以降は公園用地として利用され、昭和初期の地図には西公園ならびに公会堂と記されている(第3図6)。昭和30年に仙台市天文台が公会堂跡地に建てられ現在に至っている。なお前年度に仙台市教育委員会は当事業の関連工事に伴い試掘調査を実施している。

5 H区

H区は広瀬川の左岸、仲ノ瀬橋と大橋の間の西公園市民プール用地内にあたり、仙台下町段丘面上に位置している。標高は約32mを測る。絵図によると正保二・三年の『奥州仙台城絵図』に中間屋敷と記されており、下級の家臣の屋敷地であった(第3図1)。その後元禄年間以降に御作事方会所、御小人と記された割図が描かれており、役所関係施設と御小人衆の居住地であったことがうかがえる(第3図2~4)。明治時代以降は仲ノ町と呼称される住宅街となる(第3図5~7)。昭和37年、市民プールを含む公園として整備され現在に至っている。



1. 正保二・三年(1645・46) 奥州仙台城絵図



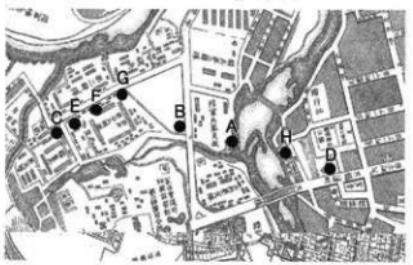
2. 宽文四年(1664) 仙台城下絵図



3. 享保九年(1724) 仙台城下絵図



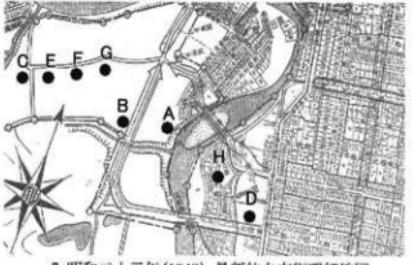
4. 安政三～六年(1856～1859) 安政補正改革仙府絵図



5. 明治三十三年(1900) 最新実測仙台市全図



6. 昭和十一年(1936) 昭和11年現在最新仙台市全図



7. 昭和二十三年(1948) 最新仙台市街明細地図



8. 昭和四十二年(1967) 国土地理院地形図

第3図 絵図・古地図における調査区の位置

(注) 第3図1～7は、今野印刷 1994 「絵図・古地図で見る仙台 第一編」・今野印刷 2005 「絵図・地図で見る仙台 第二編」 所収の絵図を用いた。

III 調査方法と経過

今年度の確認・試掘調査は、今後の本調査を見越し、調査対象区にあたる川内地区、青葉山地区、西公園地区の全域を網羅するグリッドを設定することから開始した。川内A遺跡の北西部に原点（日本測地系・X=-193400m, Y=20300m）を求め、グリッド単位は10m×10mとした。グリッドの名称は原点から、Y軸は北方指向をN、南方指向はSとし、X軸は東方向をE、西方向はWとし、原点からの方向と距離によりN1-E1グリッド（北へ0m~10m、東へ0m~10m）、S2-W2グリッド（南へ10m~20m、西へ10m~20m）等とし、表記した。

前年度の確認・試掘調査で設定したA区からD区はそのまま踏襲しつつ、調査対象範囲全域をA区からH区の8区に設定しなおした。なお同区内に前年度の調査トレンチがある場合は、そのトレンチ番号に引き継ぎ、原則として東に位置するトレンチから名称を付けた。

調査トレンチの規模は4m×6m(24m²)を基準としたが、作業有効面積、埋設管、立ち木等の関係で3m×3mから3m×8mに変更した箇所もある。表土及び盛土を重機で掘削し、その後人力による精査・遺構確認を行った。また重機が使用できない箇所では、表土から人力で調査を実施している。一部のトレンチを除き、遺構確認面で平面・断面の土層堆積状況を観察し、計測・写真撮影を行い記録した。

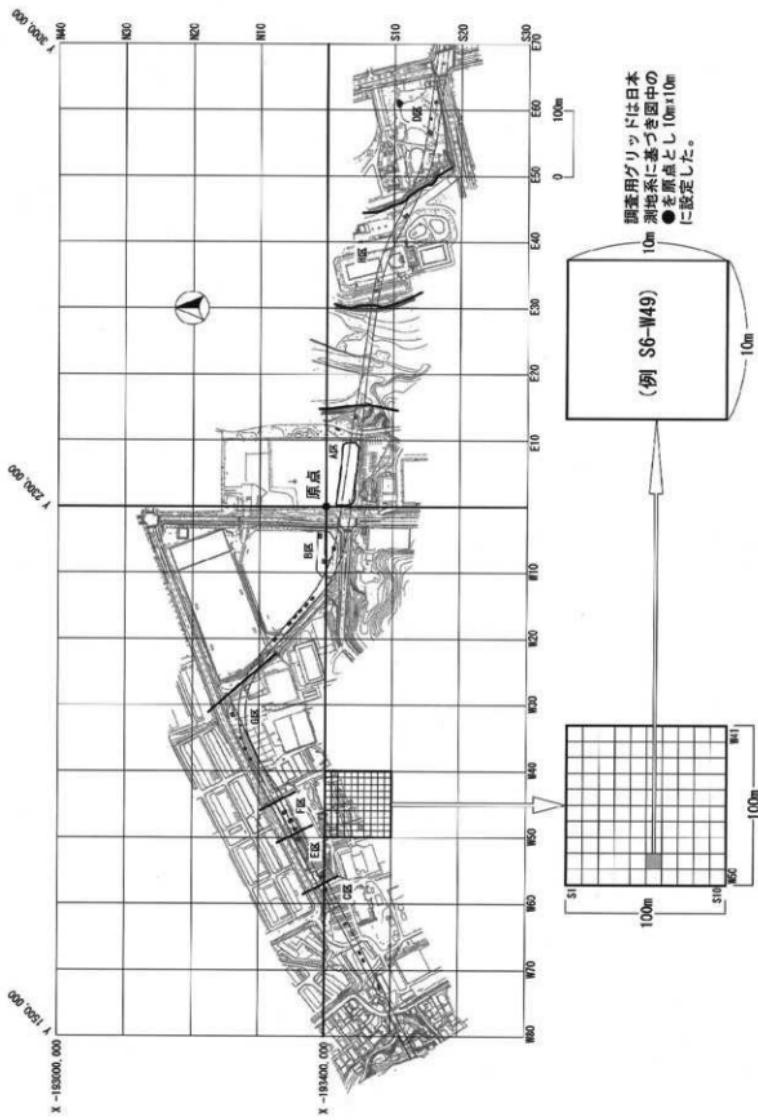
計測作業は同家座標に基づいて既知点を利用し、また使用容易な箇所に基準点を新設し、グリッドを設定した。平面図・断面図・遺物出土位置等はトータルステーションを使用し、計測データはCADソフトで作図収集を行った。また一部、デジタルカメラを用いた写真実測を併用したところもある。

遺構番号はトレンチ毎に通し番号で表記した。出土遺物は出土年月日順に番号付け、層位別に取上げ、登録を行った。報告遺物は登録番号を付記した。手実測と正射投影のデジタル画像を併用して実測図の作成を行った。

調査工程は、最初に東北大學構内B・C・E・F・G区を大学夏季休暇期間中に終了させることを目標とし着手した。次に西公園地区D・H区は市民プール営業期間終了後の9月以降に調査を行った。最後に川内A遺跡隣接地A区を調査した。また野外調査終了の翌日より本格的な整理作業に入った。

表1 調査工程表

作業内容	7月	8月	9月	10月	11月
	25 31 1	15 31 1	1 15 30 1	15 30 1 15 31 1	1
測量基準点設置	■	■	■	■	■
調査区設定	■	■	■	■	■
外輪台積等準備	■	■	■	■	■
衣笠遺跡掘削	■	■	■	■	■
遺構発見	■	■	■	■	■
分類・撮影	■	■	■	■	■
後山遺構等測量	■	■	■	■	■
調査区埋め戻し	■	■	■	■	■
アスファルト復旧	■	■	■	■	■
外輪台積・被覆整備	■	■	■	■	■
		BM			AK
C区の調査期間	H区	BM	DK区		
			GS		
				H区	



第4図 グリッド設定図

IV A区の調査成果

1 調査区の設定及び基本層序

A区は前年度に6箇所の試掘調査が実施された⁽⁴⁾。今回の調査はその東側で、広瀬川に面する段丘縁辺部の南北を通る「桜の小道」遊歩道脇の緑地内に2箇所のトレンチを設定した。トレンチ番号は前年度の試掘調査の番号を引き継ぎ、西からNo.7、No.8と名称を付けた。なお対象区は予定路線内（No.8トレンチ）及び建設に伴う下水管切り回し部分（No.7トレンチ）である。調査面積はNo.7トレンチが12m²、No.8トレンチが16m²の計28m²である。基本層序はNo.7トレンチでは大別6層（I～VI）、No.8トレンチでは4層（I～IV）から成る。表上、盛土を除く基本層の対応はなかった。

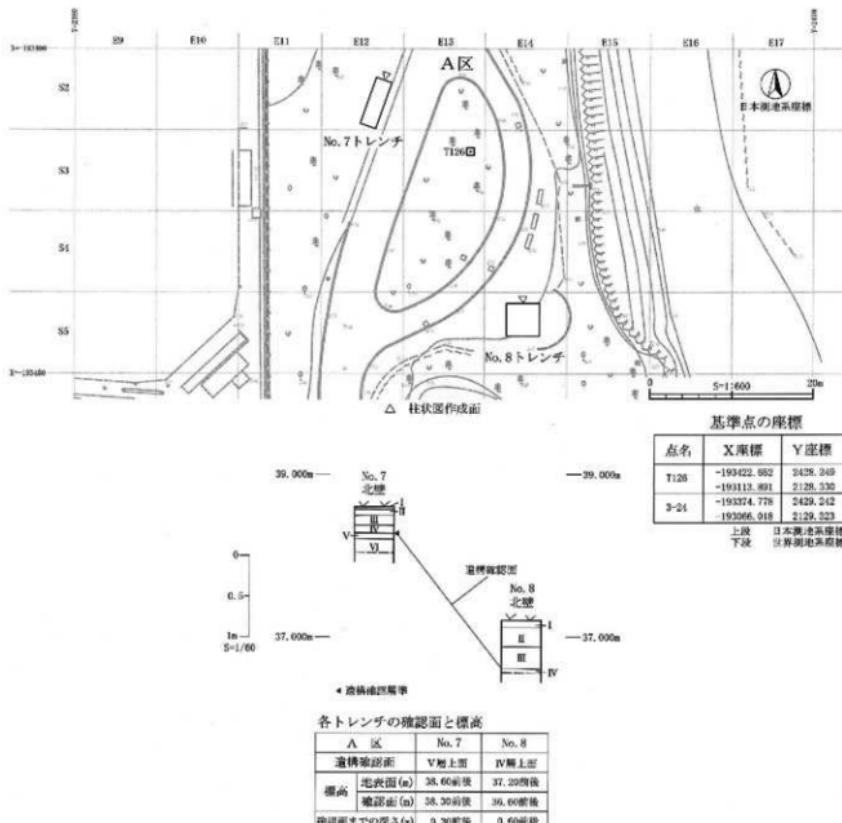


図5-4 A区トレンチ配置図・基本層序柱状図

(4) この地点は川内八道駅と登録され、当事業に伴い今年度本調査が実施された。

2 確認された遺構と遺物

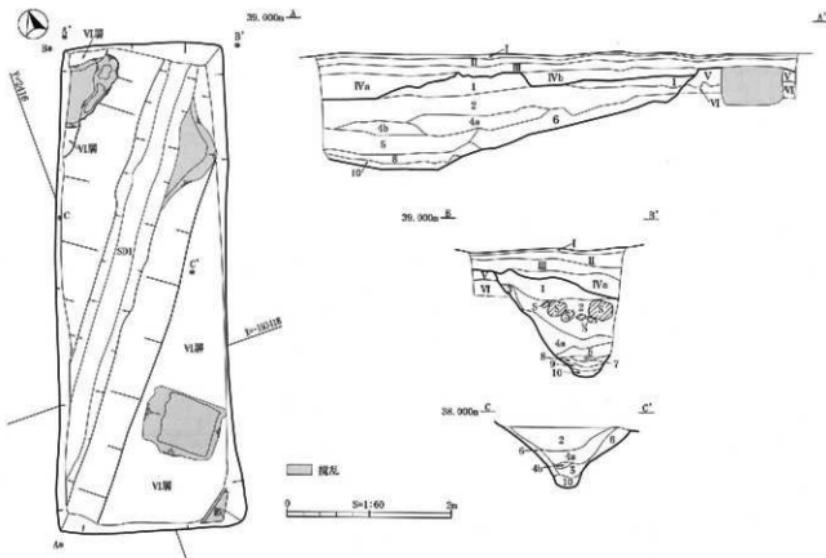
No.7 トレンチ (第6~7図、図版1-1~5)

S2-E12グリッドに位置する。トレンチは北東方向に長軸を設定し、規模は $2 \times 6\text{ m}$ の長方形で面積は 12 m^2 である。掘削深度は約1.5mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁で行った。I層表土からIV層粘土質シルトまで大別6層、細別7層からなる。I層表土からIV層まで砂礫を混入する盛土。以下、自然堆積層になり、V層は砂質シルト、VI層は粘土質シルトである。遺構確認作業はVI層上面で行い、溝跡1条を確認したが、北壁の断面観察からV層を掘り込んでいることが判明した。なお当トレンチは遺構の性格究明のため遺構の完掘まで実施した。

遺物は搅乱及び基本層、SD1堆積土1層から21点が出土した。^{(註1) (註2)} 内訳は陶器類11点、瓦片6点、縄文土器片4点である。この内、近世に属する資料は岸窯系鉄軸脚付鉢(第7図1)、大堀相馬灰釉碗(第7図2)、漁戸・美濃水滴(第7図3)が搅乱から、肥前染付瓶(第7図4)がII~IV層中から出土している。

(1) SD1 溝跡 (第6図、図版1-2~5)

トレンチのはば全域に位置する。V層上面で確認された。北東方向に直線的に延びる素掘りの溝跡で、規模は、確認長約560cm、上端幅約170cm、下端幅15~25cm、深さ約130cmを測る。主軸方位はN-37°-Eである。断面形は「V」字状を呈し、底面は平坦をなす。堆積土は大別10層、細別11層である。上位の堆積土の2層は径30cm程の円錐が多く混入していることから人為的に埋め戻された可能性がある。下位の7層~10層は砂やシルトが互層状に堆積していることから水成堆積と考えられる。遺物は1層から縄文時代中期の土器片が4点出土した。



第6図 A区No.7 トレンチ平面図・断面図

A区No.7トレンチ基本層土層記

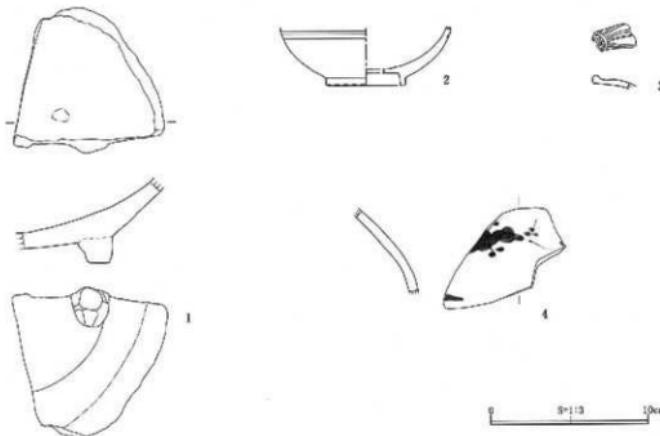
層位	土 色		土 質	土 性		備 考
	土色No.	土 色		粘 性	しまり	
I	IOYR3/3	黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	現底土。
II	SY5/4	オリーブ色	砂	なし	なし	疊土。
III	IOYR2/3	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	疊土。10cm以下の堆・1cm以下の炭化物多量。ガラス片。
IVa	IOYR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	疊土。堆。径5mm以下の白色シルト粒・黄褐色シルト粒。
IVb	IOYR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	疊土。堆多量。径5mm以下の白色シルト粒・黄褐色シルト粒・炭化物粒多量。
V	IOYR4/3	にじく青褐色	砂質シルト	なし	あり	自然堆積物。
VI	IOYR5/6	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積物。

A区No.7トレンチ遺構堆積土層記

遺構名	層位	土 色		土 質	土 性		備 考
		土色No.	土 色		粘 性	しまり	
SD1	1	IOYR3/3	黄褐色	砂質シルト	なし	なし	疊・径1~2cm黄褐色シルトブロック少量。
	2	IOYR4/4	褐色	砂質シルト	なし	あり	現底土上。径30cm以下の堆。堆縁・移動・径5mm以下の黄褐色シルト較多量。
	3	IOYR4/2	灰褐色	砂質シルト	なし	なし	細縫少量。
	4a	IOYR5/4	にじく青褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径3~4cm黄褐色シルトブロック多量。径5mm以下の暗褐色シルト較少量。
	4b	IOYR5/2	灰褐色	砂質シルト	なし	なし	径5mm以下の暗褐色シルト較多量。
	5	IOYR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	径5mm以下の黄褐色シルト較少量。
	6	IOYR4/2	灰褐色	砂質シルト	なし	なし	細縫少量。
	7	IOYR5/2	灰褐色	砂	なし	ややあり	風分の沈着少量。
	8	IOYR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	径5mm以下の焼土粒・炭化物粒少量。
	9	IOYR5/2	灰褐色	砂	なし	ややあり	風分の沈着少量見られる。
	10	IOYR4/2	灰褐色	シルト	あり	あり	径1~2cmの黄褐色シルトブロック・径5mm以下の暗褐色シルト粒多量。

(2) 遺構の確認面と時期

構跡は基本層VI層上面で確認されたが、本来は基本層V層から掘りこまれていることが判明した。またトレンチ外へ延びることが予想される。また、堆積土から判断できる遺物が出土していないが、遺構の時期は近代以降の遺物の混入がないことや、周辺地区（川内A遺跡）の状況から、近世以前の可能性が考えられる。



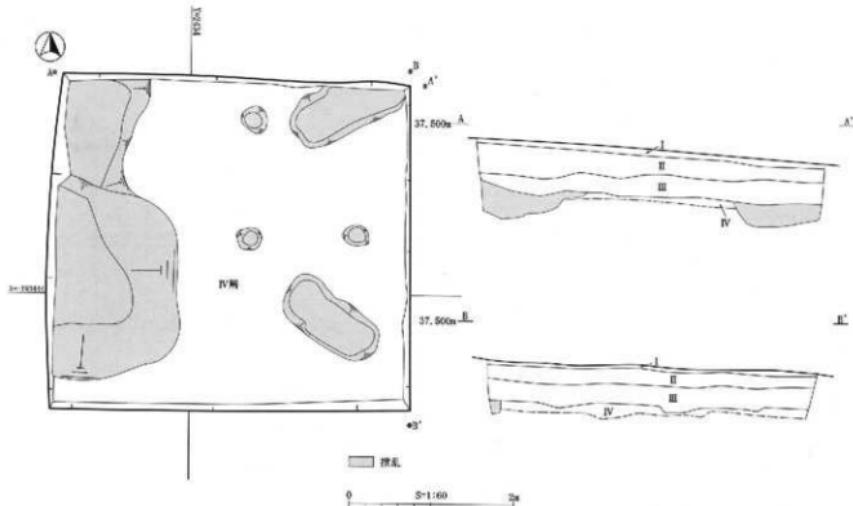
A区No.7 トレンチ陶器類観察表

開版番号	登録番号	出土地点	層位	器種	部位	法長 (cm)		産 地	時 期	備 考	写真 図版
						口径	底径				
第7図1	J-1	挖孔	陶器	脚付鉢	底部	-	(5.3)	岸窯系	17C後半	灰釉。内面目跡あり。	図版J-1
第7図2	J-2	挖孔	陶器	碗	体部～底部	(4.8)	(3.6)	大庭相馬	18C	灰釉。外縁沈線1条。	図版J-2
第7図3	J-3	挖孔	陶器	水滴	注口～体部	-	(0.9)	瀬戸・美濃	17C中～後	灰釉・絞形・型つくり。内面布目調。	図版J-3
第7図4	J-1	H-古削	陶器	瓶	体部	-	(6.0)	肥前	17C後半	朱彩。梅枝文。	図版J-4

第7図 A区No.7 トレンチ出土遺物

No. 8 トレンチ (第8図、図版1-6~8)

S5-E14グリッドに位置する。トレンチの規模は4×4mの方形で面積は16m²である。掘削深度は約0.6mを測る。基本層序の作成は北壁、東壁で行った。I層表上からIII層までは炭化物、砂、細礫、砾を混入する盛土。IV層は砂礫（段丘礫層）である。遺構の確認作業はIV層上面で行ったが、遺構の確認及び遺物の出土はない。また、基本層IV層は近代以降に搅乱を多く受けており、段丘礫層上位に堆積する粘土質シルトは削平されたものと考えられる。



A1)No.8 トレンチ基本層土層記

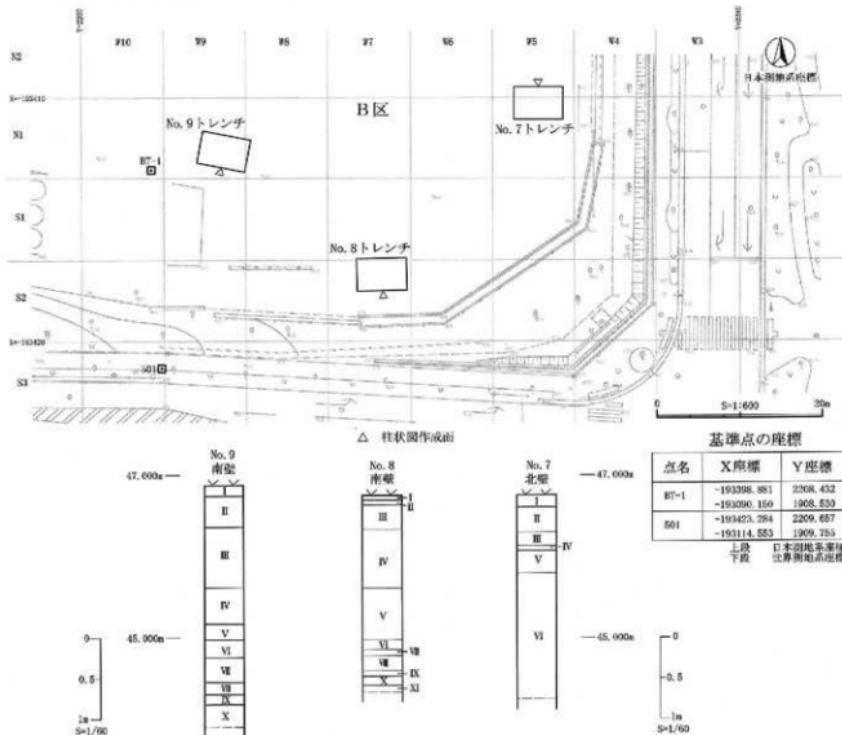
層位	土色		土質	土性		備考
	土色No.	土色		粘性	しまり	
I	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	塊表土。
II	5Y5/4	オリーブ色	砂	なし	ややあり	盛土。
III	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	透土。径3cm以下の細礫多量。炭化物少量。
IV	7.5YR5/6	明褐色	砂礫	なし	なし	自然埋積層（段丘礫層）。径10cm以下の礫多量。

第8図 A区No. 8 トレンチ平面図・断面図

V B区の調査成果

1 調査区の設定及び基本層序

B区は前年度に6箇所の試掘調査が実施された。今回の調査はその南東側で、坂北側の東北大学川内キャンパスグラウンドに3箇所のトレンチを設定した。トレンチ番号は前年度の試掘調査の番号を引き継ぎ、東からNo.7～No.9と名称を付けた。なお対象区は予定路線内（No.8 トレンチ）及び関連工事に伴う部分（No.7・No.9 トレンチ）である。調査面積は各トレンチ24m²で計72m²である。基本層序はNo.7 トレンチでは6層（I～VI）、No.8 トレンチでは11層（I～XI）、No.9 トレンチでは10層（I～X）から成る。表土、盛土層を除く基本層の対応はなかった。



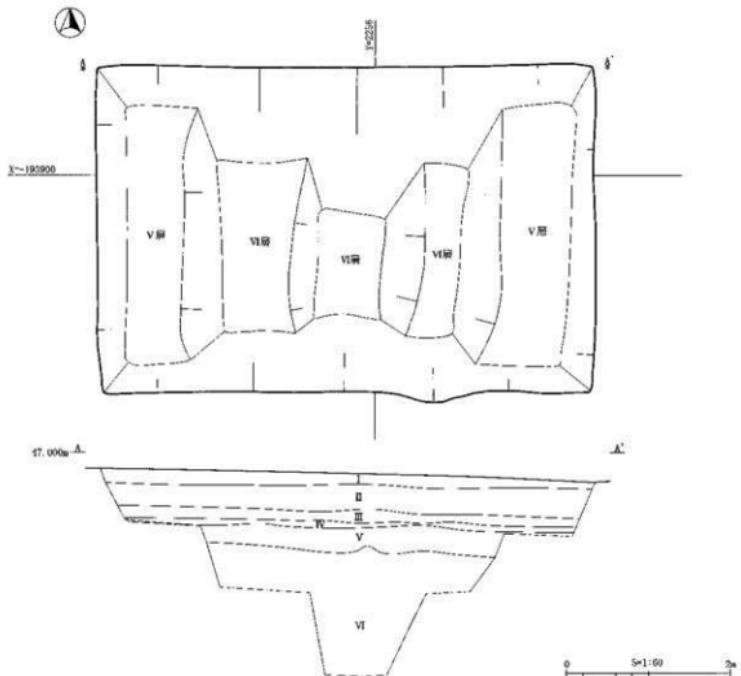
各トレンチの確認面と標高			
B区	No.7	No.8	No.9
確認面	—	—	—
地表面(m)	(E.70以前)	(E.70以後)	(E.70以後)
標高	—	—	—
確認面(m)	—	—	—
確認面までの深さ(m)	—	—	—

第9図 B区トレンチ配置図・基本層序柱状図

2 確認された遺構と遺物

No.7 トレンチ (第10図、図版 2-1~3)

N 1・2-W 5 グリッドに位置する。トレンチは東西方向に長軸を設定し、規模は 4×6 m の長方形で、面積は 24m^2 である。掘削深度は約 2.5m を測る。基本層序の作成は北壁で行った。I 層から IV 層までがグラウンド整地土、V 層から VI 層は近現代の礫、レンガ片、コンクリート塊、鉄屑、ガラス片、炭化物等を多量に混入する堅土である。VI 層は安全の確保から掘りぬくことはできなかったため、遺構確認面まで到達していない。基本層からの遺物の出土はない。



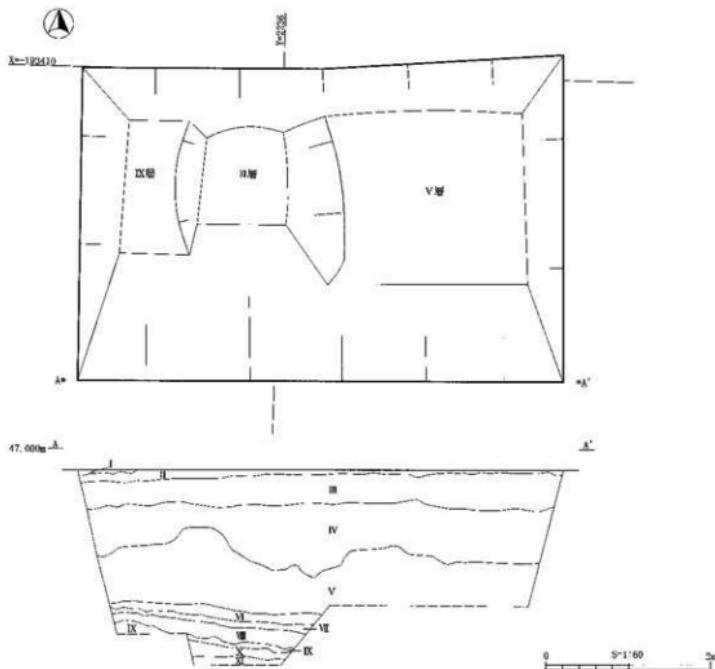
BizNo.7 トレンチ基本層上層記

層位	土色 土色 No.	土質	粘性	性 しまり	備考
I	25YR5/2	灰褐色	砂	なし	ややあり グラウンド整地土。
II	25YR5/2	灰褐色	砂	なし	あり グラウンド整地土。
III	25Y5/3	黄褐色	砂	なし	あり グラウンド整地土。
IV	25YR5/2	灰褐色	砂	なし	あり グラウンド整地土。
V	10YR2/1	黑色	砂質	なし	ややあり 堅土。
VI	75YR3/2	墨褐色	砂質	あり	あり 堅土。レンガ。コンクリート塊。鉄屑。ガラス片。炭化物。

第10図 B 区No.7 トレンチ平面図・断面図

No. 8 トレンチ (第11図、図版2-4~6)

S1・2・W7グリッドに位置する。トレンチは東西方向に長軸を設定し、規模は4×6mの長方形で、面積は24m²である。掘削深度は約2.4mを測る。基本層序の作成は南壁で行った。I層表土からIV層までがグラウンド整地土、V層からXI層までNo.7 トレンチ同様の盛土である。XI層は安全の確保から掘りぬくことはできなかったため、造構確認面まで到達していない。遺物はIII層から陶磁器片が3点出土している。



B区No.8 トレンチ基本附土層計記

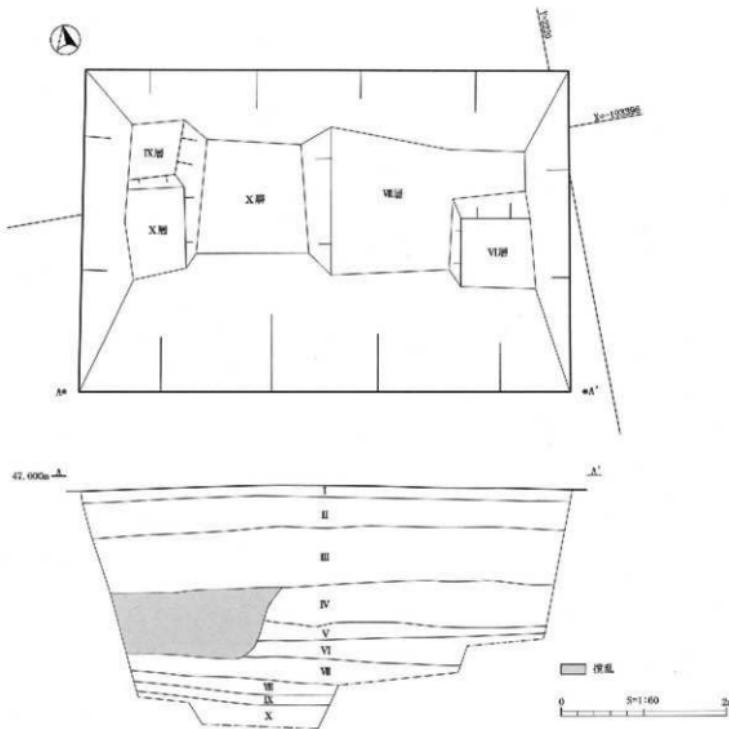
層位	土色No.	土色	土質	特 性	備 考
I	25Y5/2	暗灰黄色	砂	なし	ややあり グラウンド整地土。
II	25Y5/2	暗灰黄色	砂	なし	あり グラウンド整地土。
III	25Y6/6	明黄褐色	砂	なし	あり グラウンド整地土。
IV	10YR2/1	黒色	砂礫	ややあり	ややあり グラウンド整地土。
V	7.5YR3/2	黒褐色	砂礫	あり	あり 敷上。レンガ。コンクリート塊。鉄屑。ガラス片。炭化物。
VI	7.5YR4/4	褐色	砂泥	あり	あり 瓦土。
VII	7.5YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり 瓦土。粗砂粒。
VIII	10YR5/6	黄褐色	シルト	ややあり	ややあり 程5~10cmの礫多量。
IX	10YR6/1	褐色	砂	なし	なし。 程5~10cmの礫多量。
X	10YR6/1	褐色	砂礫	なし	ややあり 瓦土。程10~15cmの礫層。黄褐色シルト較。炭化物較。
XI	7.5YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり 敷上。程5~10mmの炭化物多量。

第11図 B区No.8 トレンチ平面図・断面図

No. 9 トレンチ (第12~13図、図版2~7~8、図版3~1)

N1~W8・9グリッドに位置する。トレンチは東西方向に長軸を設定し、規模は4×6mの長方形で、面積は24m²である。掘削深度は約3.4mを測る。基本層序の作成は南壁で行った。I層、II層まではグラウンド整地土。III層はNo.7・No.8トレンチ同様の盛土で、IV層以下は流入と考えられる砂礫を多量に含む層となる。X層まで掘り下げたが、以下は安全の確保より掘り下げなかった。遺構確認面は検出されず不明である。なおIX層では植物遺体が多量に含まれる。

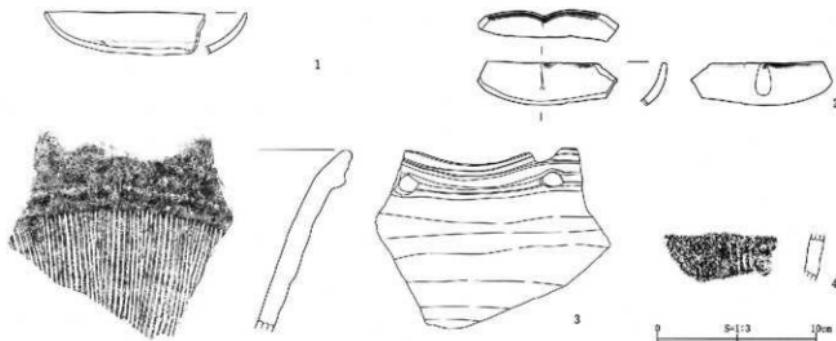
遺物は31点出土したが全てIX層出土である^{[24]~[26]}。内訳は陶磁器類18点、瓦片2点、縄文土器片9点で、縄文時代から近代以降の遺物が混在する。磁器・陶器には、近世の肥前染付皿(第13図1)、肥前青磁皿(第13図2)、產地不明鉄釉搖鉢(第13図3)が、縄文土器には前期のもの(第13図4)が認められる。



第12図 B区No. 9 トレンチ平面図・断面図

B区No.9 トレンチ基本層土層記

層位	土色		土質	土性		備考
	上色No.	下色		粘り	しまり	
I	25Y4/3	オリーブ色	砂	なし	ややあり	グラウンドセメント土。
II	25Y5/2	暗灰黄色	砂	なし	あり	グラウンドセメント土。下部に砂。
III	10YR2/1	黒褐色	砂	なし	なし	透土。コンクリート塊。レンガ片。鉄屑多量。
IV	10YR3/1	黒褐色	砂礫	なし	なし	直径10~15cmの塊。砂粒多量。
V	5B3/1	暗青灰色	砂質シルト	あり	あり	径1~10cmの塊多量。
VI	5B2/1	青黒色	砂質シルト	あり	あり	径3~10cmの塊・径1mm以下のシルト粒多量。
VII	5B3/1	暗青灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	径1cmの塊・径1mm以下のシルト粒多量。
VIII	5G4/1	暗緑灰色	粘土質シルト	あり	あり	径1~5cmの塊少々。径1mm以下のシルト粒多量。
IX	5B4/1	暗青灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	植物遺存多量。径3~5cmの塊多量。
X	5B7/1	明青灰色	粘土質シルト	あり	あり	径3~5cmの塊多量。



B区No.9 トレンチ陶磁器観察表

図版番号	登録番号	出土地點	種別	器種	部位	法量(cm)		産地	時期	備考	写真 図版
						口徑	底径				
第13図1	J-2	瓦屑	磁器	直	口縁部～体部	(13.8)	—	(2.5)	肥前	17C. 染付。油刷文?見込一重周輪。	図版1-5
第13図2	J-3	瓦屑	磁器	直	口縁部～体部	—	—	(2.3)	肥前	17C半?	形押し成形。青磁釉。口輪。 図版1-6
第13図3	I-4	瓦屑	陶器	横斜	口縁部(?)	—	—	(11.4)	不明	18C? 灰釉。肩目7条。	図版1-7

B区No.9 トレンチ織文土器観察表

図版番号	登録番号	出土地點	種別	器種	部位	外面	内面	時期	備考	写真 図版
第13図4	A-1	瓦屑	織文土器	深鉢	胴部	—	—	織文前期	機縫合。内外面ともに非施している。器底?	図版1-8

第13図 B区No.9 トレンチ出土遺物

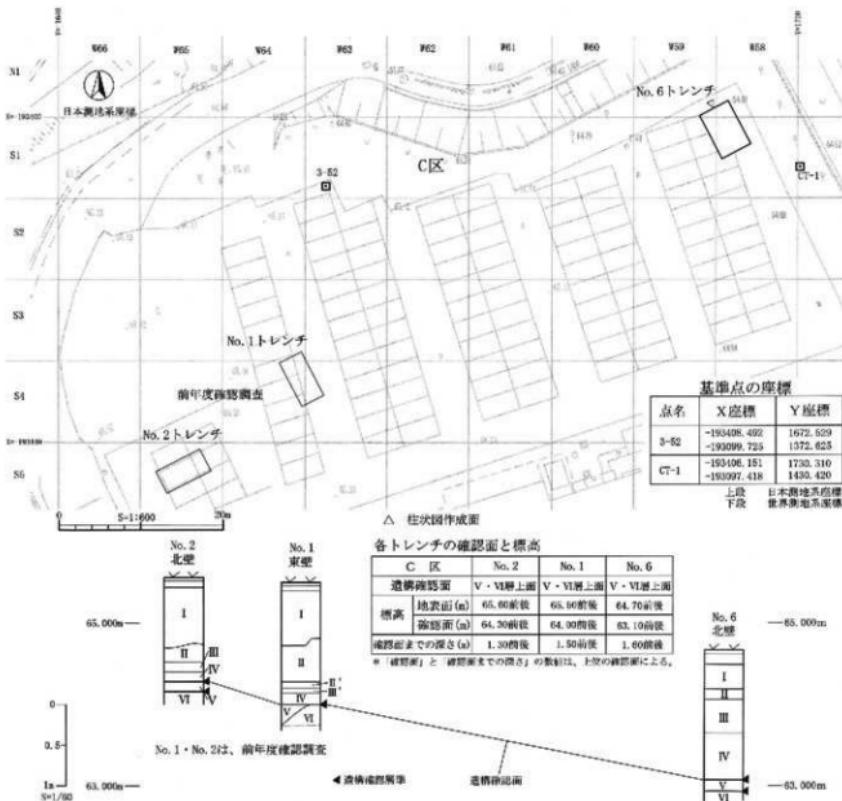
VI C区の調査成果

1 調査区の設定及び基本層序

C区は前年度に5箇所の確認調査が実施された。今回の調査はその東側で、東北大學国際交流センターの北側の駐車場に1箇所のトレンチを設定した。トレンチ番号は前年度の確認調査の番号を引き継ぎ、No. 6と名称を付けた。なお対象区は予定路線内と道路建設事業地が重複する部分である。調査面積は24m²である。基本層序はアスファルト舗装・碎石敷きを除き、大別6層（I～VI）から成る。表土、近代以降の盛土・整地土以外で、前年度調査されたNo. 1トレンチとの基本層の対応は以下の通りである。

No. 6 トレンチ基本層V層 ⇄ No. 1 トレンチ基本層V層

No. 6 トレンチ基本層VI層 ⇄ No. 1 トレンチ基本層VI層



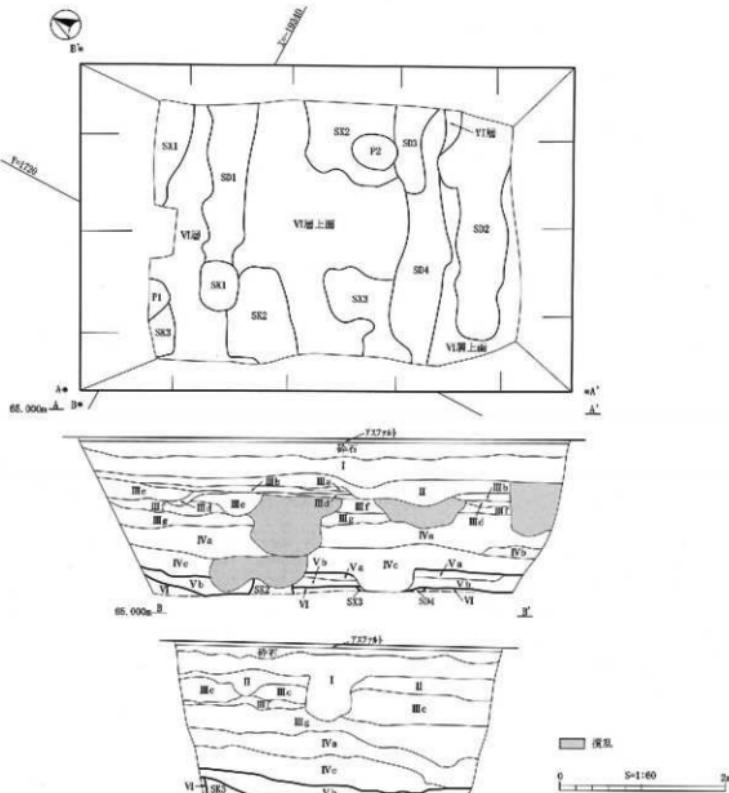
第14図 C区トレンチ配置図・基本層序柱状図

2 確認された遺構と遺物

No.6 トレンチ (第15~16図、図版3-2~6)

N1-W58-S1-W59グリッドに位置する。トレンチは北西方向に長軸を設定し、規模は $4 \times 6\text{ m}$ の長方形で面積は 24 m^2 である。掘削深度は約1.9mを測る。基本層序の作成は北壁と西壁で行った。I層盛土からVI層粘土質シルトまで大別6層、細別15層からなる。I層・II層は盛土。III層は細別7層で、円碟、レンガ片、炭化物が混入する近代の整地土。IV層は細別3層で、瓦片が混入する近代の整地土。V層は細別2層からなる炭化物を少量含む近世の整地土。VI層から粘土質シルトの自然堆積層となる。遺構確認作業はVI層上面で行い、土坑3基、溝跡4条、ピット2基、性格不明遺構3基を確認した。遺構確認面は、壁面観察でV層上面から掘りこむ遺構を確認したため、基本層V層上面と基本層VI層上面とした。

遺物は陶器類38点が出土した(図版3-2~6)。全て基本層からの出土である。この内、近世に属する資料は肥前染付盃(第16図1)、肥前染付皿(第16図2)、瀬戸・美濃染付小碗(第16図3)がIII層から、志野織部鉄絵皿(第16図4)がV層から出土している。



第15図 C区No. 6 トレンチ平面図・断面図

C16No.6トレンチ本底土層注記

層位	土色		土質 粘性	性 しより	備 考
	土色No.	十色			
I	2.5Y3/3	褐色オーライト色	粘土質シルト	なし	なし 壁上。黄褐色シルトブロック。瓦砾。
II	10YR2/1	黒色	砂質シルト	ややなし	盛土。炭化物層。焼土。径10cm以下の礫。
IIIa	2.5Y5/6	黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし 壁上。近代。レンガ片・砂粒・中礫少量。
IIIb	10Y3/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	あり 壁上。近代。砂質中量。小礫・炭化物粒少量。
IIIc	7.5Y3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり 壁上。近代。径5mm以下の炭化物粒少量。中礫中量。鉄分の沈着が見られる。
IVd	2.5Y5/6	黃褐色	粘土質シルト	ややあり	あり 壁上。近代。砂粒・中礫少量。
Ve	10Y3/3	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり 壁上。近代。砂粒・炭化物粒・小礫少量。
VI	10Y3/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	あり 壁上。近代。径5mm以下の炭化物シルトブロック・砂粒・炭化物粒・小礫多量。
VIIa	10YR4/2	にじく黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり 壁上。近代。径5mm以下の炭化物粒・小礫少量。近代瓦片の瓦片少量。
VIIb	10Y3/3	暗褐色	砂質シルト	ややなし	なし 壁上。近代。1cm以下の炭化物粒・砂粒・鐵礫・鐵礫微量。
VB	10YR4/2	灰暗褐色	粘土質シルト	ややあり	あり 壁上。近代。1cm以下の炭化物少量。砂粒・鐵礫・鐵礫微量。
VC	10YR2/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	あり 壁上。近代。燒造跡確認。1cm以下の炭化物少量。
VD	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり 壁上。近代。燒造跡確認。1cm以下の炭化物少量。
VE	2.5Y2/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	なし 壁上。近代。燒造跡確認。1cm以下の炭化物少量。
VI	10YR3/3	にじく黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし 自然地盤層。遺構確認。灰分の沈着少。

(1) SK1～SK3 土坑（第15図、図版3-6）

SK1はトレンチ中央北に位置する。VI層上面で確認した。南側でSK2、東側でSD1を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約60cm、短軸約46cmを測る。堆積土は粘土質シルトである。遺物の出土はない。またSK2との切合い関係から本来はV層上面で確認できる。

SK2はトレンチ中央西に位置する。VI層上面で確認した。西壁の断面観察によりV層から掘り込んでいることが判明した。北側でSK1に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約120cm、短軸約76cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は炭化物、砂粒を含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

SK3はトレンチ北西隅に位置する。VI層上面で確認した。東側でP1に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約52cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は鉄分を多量に含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

(2) SD1～SD4 溝跡（第15図、図版3-6）

SD1はトレンチ北に位置する。VI層上面で確認した。西側でSK1に切られる。東西方向の溝跡で、規模は確認長約194cm、幅40～54cmを測る。さらにトレンチ外へ延びる。堆積土は鉄分を含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

SD2はトレンチ南に位置する。VI層上面で確認した。北側でSD4を切る。東西方向の溝跡で、規模は確認長約270cm、幅54～90cmを測る。さらにトレンチ外へ延びる。堆積土は砂質シルトである。遺物の出土はない。

SD3はトレンチ中央東に位置する。VI層上面で確認した。北側でP2に切られ、SX2を切る。西側でSD4を切る。東西方向の溝跡で、規模は確認長約108cm、幅約40cmを測る。さらにトレンチ外へ延びる。堆積土は炭化物を多量に含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

SD4はトレンチ中央南に位置する。VI層上面で確認した。東側でSD3、南東側でSD2に切られ、北側でSX3を切る。東西方向の溝跡で、規模は確認長約316cm、幅40～60cmを測る。さらにトレンチ外へ延びる。堆積土は砂粒を含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

(3) P1・P2 ピット（第15図、図版3-6）

P1はトレンチの北に位置する。VI層上面で確認した。西側でSK3を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の径約50cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は粘土質シルトである。遺物の出土はない。

P2はトレンチ中央東に位置する。SD3・SX2の遺構の平面形の内側で確認した。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約58cm、短軸約42cmを測る。堆積土は砂質シルトである。遺物の出土はない。

(4) SX1～SX3 性格不明遺構（第15図、図版3-6）

SX1はトレンチ北に位置する。VI層上面で確認した。平面形は不明で、規模は上端の長軸約130cm、短軸約42cmを測り、さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は炭化物を含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

SX 2 はトレンチ東に位置する。VI層上面で確認した。南側でSD 3、P 2 に切られる。平面形は不明で、規模は上端の長軸約102cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は鉄分を多く含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

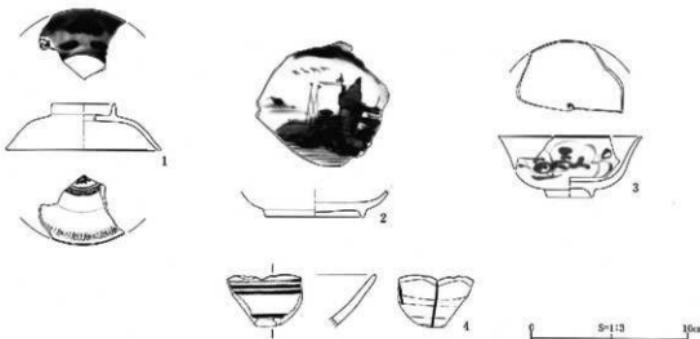
SX 3 はトレンチ中央西側に位置する。VI層上面で確認した。南側でSD 4 に切られる。平面形は不明で、規模は上端の長軸約92cm、短軸約56cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は砂粒を含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

C区No.6 トレンチ周辺堆積土層記述

遺構名	層位	土色	土質	土性	しまり	備考
SK1	確認面	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり にぶい黄褐色粘土質シルトブロック少量。
SK2	確認面	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	ややあり	なし 径3cm以下の炭化物・砂粒少量。
SK3	確認面	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし 径10cm以下の黒褐色シルトブロック少量。鉄分の沈着が多量見られる。
SD1	確認面	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり 鉄分の沈着少量。
SD2	確認面	25Y3/3	断オーリーバイ	砂質シルト	ややあり	ややあり 径3cm以下の黄褐色粘土質シルトブロック多量。
SD3	確認面	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり 径3cm以下の黄褐色粘土質シルトブロック・径2~5mm炭化物粒多量。
SD4	確認面	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	なし 暗褐色シルト・砂粒少量。
P1	確認面	10YR4/1	灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり 径3cm以下の褐色シルト・粒少量。
P2	確認面	25Y3/3	断オーリーバイ	砂質シルト	ややあり	なし 径3cm以下のにぶい黄褐色粘土質シルト多量。
SX1	確認面	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	ややあり	あり 径2~3mmの炭化物粒少量。
SX2	確認面	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	ややなし 鉄分の沈着多量。
SX3	確認面	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	なし 暗褐色シルト・砂粒少量。

(5) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層V層上面・基本層VI層上面で12基を確認した。V層は、出土遺物が全て近世の遺物で、近代以降の遺物を混入しないことから近世の整地土である。遺構確認面は基本層V層上面・基本層VI層上面の2面で近世の遺構面と考えられる。遺構の確認状況からNo.6 トレンチ周辺の遺構密度は高いと推測される。



C区No.6 トレンチ出土陶器観察表

団版番号	登録番号	出土地点	種別	器種	部位	法面 (cm)	底径	高さ	産地	時期	備考	写真	図版
第16図1	J-1	Ⅳ層	遺構	壺	天井部-1縁部	(3.6)	(9.6)	2.9	鹿嶺	18C半-19C前半	索付、外削草文。内削茎文。見达子有。鶴山口-9		
第16図2	J-5	Ⅳ層	遺構	皿	底部	-	(1.7)	6.2	鹿嶺	18C中-後半	索付。見达荷蘭山水文。		
第16図3	J-6	Ⅳ層	遺構	小碗	口縁部-底部	(8.9)	(2.6)	3.9	蘆屋・美濃	19C前半	索付。外削草文。		
第16図4	J-5	V層	陶器	皿	口縁部-全体	(12.2)	-	(3.2)	美濃	17C前半	志野模様灰釉組。		

第16図 C区No.6 トレンチ出土遺物

VII D区の調査成果

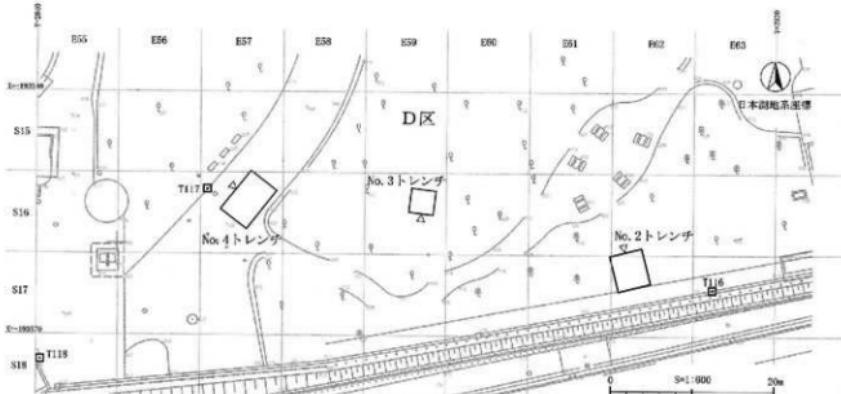
1 調査区の設定及び基本層序

D区は前年度に1箇所の試掘調査が実施された。今回の調査はその南側で、仙台市天文台前から大町交番裏手までの範囲に3箇所のトレーンチを設定した。トレーンチ番号は前年度の試掘調査の番号を引継ぎ、東からNo.2～No.4と名称を付けた。なお対象区は予定路線内である。調査面積はNo.2トレーンチが18m²、No.3トレーンチが9m²、No.4トレーンチが24m²の計51m²である。基本層序はNo.2トレーンチでは大別14層（I～XIV）、No.3トレーンチでは13層（I～ XIII）、No.4トレーンチでは9層（I～IX）から成る。表土、盛土を除く基本層の対応は以下の通りである。

No.2トレーンチ基本層X層↔No.4トレーンチ基本層VII層

No.2トレーンチ基本層XI層↔No.4トレーンチ基本層V層

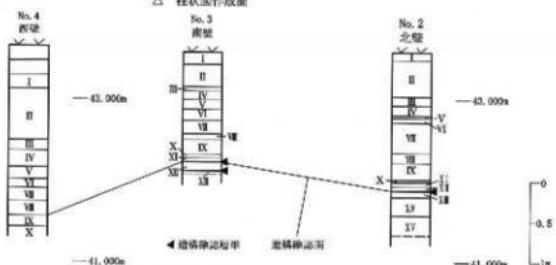
No.2トレーンチ基本層XII層↔No.3トレーンチ基本層X層↔No.4トレーンチ基本層IX層



基準点の座標

点名	X座標	Y座標
T116	-193564.268	2922.389
	-193556.510	2922.154
T117	-193552.063	2900.820
	-193523.394	2900.888
T118	-193573.084	2840.509
	-193561.325	2840.578

上段 日本国地図
下段 世界地図
日本測地系座標
世界測地系座標



各トレーンチの確認面と標高

	D-EK	No.2	No.3	No.4
透視面認定面	E1層上面	H1層上面	I1層上面	
地質面(m)	43.00前後	43.00前後	43.00前後	
標高(m)	41.90前後	42.30前後	41.50前後	
確認面までの厚さ(m)	1.70前後	1.50前後	2.10前後	

*「確認面」と「確認面までの厚さ」の範囲は、上の地図面図による。

第17図 D区トレーンチ配置図・基本層序柱状図

2 確認された遺構と遺物

No. 2 トレンチ (第18~19図、図版3-7~8、図版4-1~2)

S16・17-E62グリッドに位置する。トレンチは北方向に長軸を設定し、規模は $4 \times 4.5m$ の長方形で、面積は $18m^2$ である。掘削深度は約1.7mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁で行った。I層表土からⅩ層砂礫まで大別14層、細別18層からなる。I層は表土。II層からⅩ層まではレンガ片、礫を多量に含む盛土、Ⅺ層、Ⅻ層は近代建物基礎に伴う整地土。X層～Ⅹ層までは粘土質シルトの自然堆積層。Ⅹ層は砂礫（段丘礫層）で、トレンチ北側に $1 \times 1m$ のサブトレンチを設定し確認した。遺構確認作業はX層上面で行ったが遺構の確認はなく、さらに下層のXI層上面、XII層上面と確認し、Ⅹ層上面で性格不明遺構1基を確認したが、西壁の断面観察からXII層を掘り込んでいることが判明した。なお、遺構は年代及び性格究明のため一部掘り下げた。

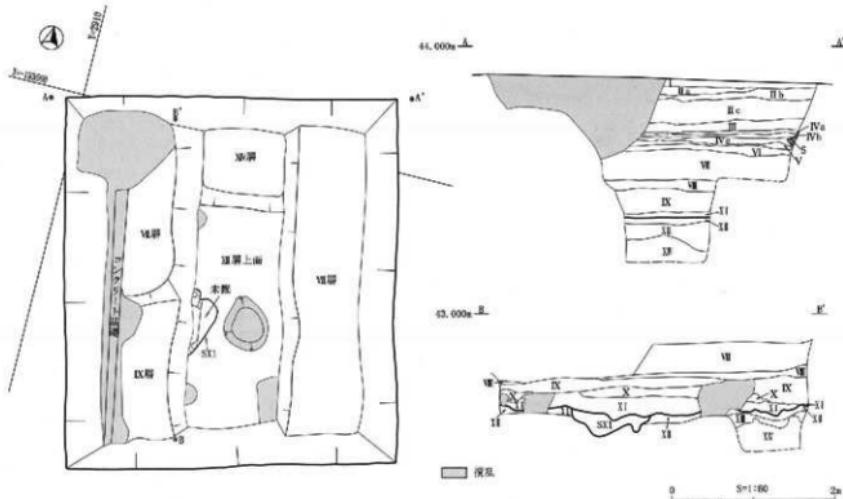
遺物は396点出土した^{(18)~(20)}。全て基本層出土である。内訳は陶磁器類383点、瓦片5点、石製品1点、金属製品3点、自然遺物1点、土製品1点、縄文土器片1点、その他1点である。この内、近世に属する資料は肥前染付長皿（第19図1）がI層、肥前染付皿（第19図2）、漸戸・美濃鉢（第19図3）、志野丸皿（第19図4）がII層、岸窯系擂鉢（第19図5・6）がVI層、切込碗（第19図7）がⅩ～Ⅺ層、美濃青織部大鉢（第19図8）がIX層から出土している。

(1) SX1 性格不明遺構 (第18図、図版4-1)

SX1はトレンチ中央に位置する。Ⅹ層上面で確認し、西壁の断面観察からXII層を掘り込んでいることが判明した。平面形は不明で、規模は上端の長軸約80cm、深さ約30cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。壁面は緩やかに立ち上がり、底面は起伏が多い。堆積土は単層の粘土質シルトである。遺物の出土はない。

(2) 遺構の確認面と時期

SX1は基本層Ⅹ層上面で確認したが、本来は基本層Ⅹ層上面から掘り込まれていることが判明した。遺構の時期は遺構堆積土、上層の基本層X層～Ⅹ層からも判断できる遺物が出土していないが、近世以降の遺物の混入がないことから近世以前の可能性が考えられる。



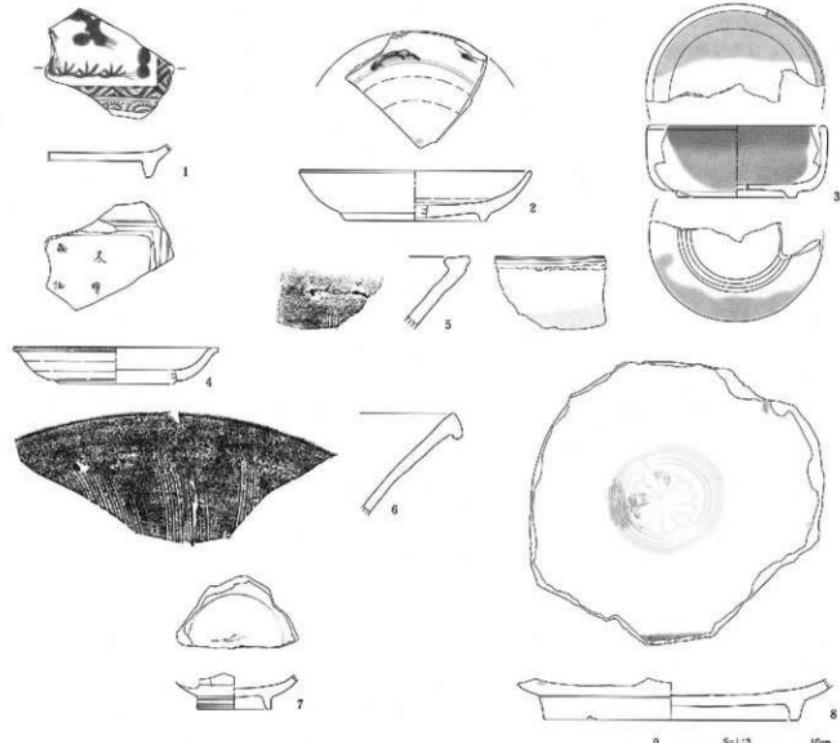
第18図 D区No. 2 トレンチ平面図・断面図

DKNo.2トレンチ基本剖面記

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No.	土色		粘性	しまり	
I	25Y4/2	暗灰褐色	砂質シルト	なし	なし	現表土。
IIa	25Y6/1	黃褐色	砂	なし	あり	盛土。黄褐色砂質シルトブロック少量。鐵中層。
IIb	25Y5/3	黃褐色	砂	なし	あり	盛土。レンガ断片多量。
IIIc	25Y4/2	暗灰褐色	砂質シルト	なし	なし	盛土。鐵多量。
III	25Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	なし	盛土。径5mm以下の粘土粒・大礫多量。
IVa	75Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	ややあり 盛土。大礫少量。
IVb	10YR3/1	黑褐色	砂質シルト	なし	なし	ややあり 盛土。砂粒・細礫少量。
IVc	75Y4/4	褐色	砂質シルト	なし	なし	ややあり 盛土。砂粒・細礫少量。
V	25Y5/2	暗灰褐色	砂	なし	なし	ややあり 盛土。鐵多量。
VI	10YR3/1	黑褐色	砂質シルト	なし	なし	ややあり 盛土。砂粒・細礫多量。
VII	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	ややあり 盛土。砂粒・中礫多量。
VIII	25Y4/3	オリーブ褐色	砂	なし	なし	あり 新造土。近代。細礫多量。近代建物基盤に伴う壁地層。
IX	25Y4/1	黃褐色	砂質シルト	なし	なし	あり 新造土。近代。砂粒多量。レンガ片・細礫多量。
X	10YR3/2	黑褐色	砂質シルト	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の黄褐色シルト粒散在。
XI	75YR2/3	暗褐色	砂質シルト	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の褐色シルト・褐色シルト粒少量。
XII	75Y6/6	褐色	砂質シルト	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の褐色シルト粒多量。径5mm以下の明褐色シルト粒少量。
XIII	10YR6/6	明黄色褐色	粘土質シルト	あり	あり	スコリア鉱微量。
XIV	25Y5/3	黃褐色	砂質	なし	なし	自然堆積層(段丘面)。

DKNo.2トレンチ遺構堆積土層性記

遺構名	層位	土色		土質	土性		備考
		土色No.	土色		粘性	しまり	
SX1	I	75YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	径5mm以下の黄褐色シルトブロック多量。



第19図 D区No.2 トレンチ出土遺物

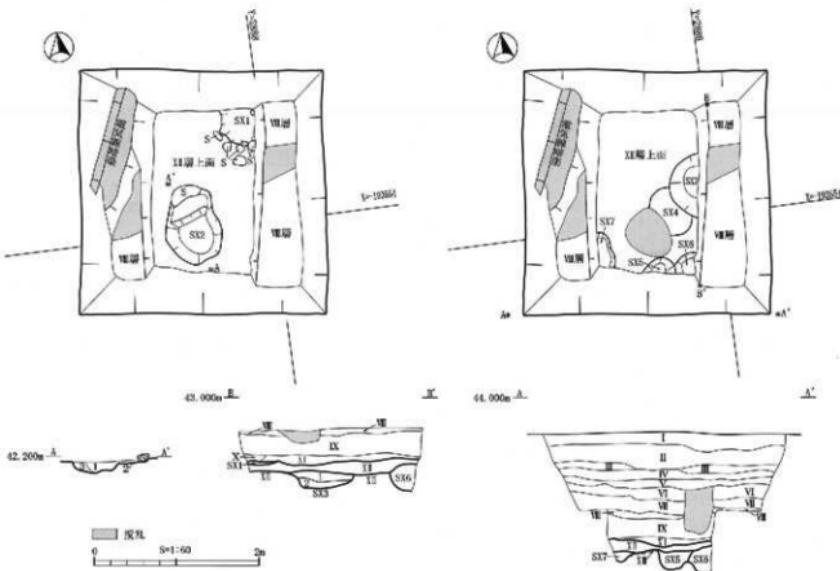
D区No.2 トレンチ出土陶器観察表

国版番号	登録番号	遺構・層位	種別	器種	部位	法量(cm)			産地	時期	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
第19区1	J-7	I層	磁器	瓶	底部	—	—	(2.1)	肥前	19C前半	セラミクス。口付有り。青白釉太腹瓶(1)。手造白(2)。	国版I-10
第19区2	J-8	II層	磁器	瓶	口縁部～底部	(14.0)	3.1	(8.6)	肥前	18C	セラミクス。口縁部有り。青白釉(1)。手造白(2)。	国版I-14
第19区3	J-6	II層	陶器	鉢	口縁部～底部	(10.7)	4.5	(7.2)	直戸・美濃	近世	片身輪。内外面買入。被熱板あり。	国版I-15
第19区4	J-7	II層	陶器	丸皿	口縁部～台形	(1.26)	—	(2.3)	美濃	17C	志野焼。口縁。内外面買入。	国版I-16
第19区5	J-8	II層	陶器	壺鉢	口縁部～底部	(2.66)	—	(4.9)	伊那系	17C前半	壺目5条。口縁部内外面施物。	国版I-17
第19区6	J-9	VI層	陶器	壺鉢	口縁部～底部	(3.40)	—	(6.4)	伊那系	17C後半～18C初	鉢物。壺目7条。	国版I-18
第19区7	J-9	Ⅷ層	陶器	壺鉢	天井部～底部	—	(4.6)	(2.2)	切込	19C前半	朱付。見込松葉文。	国版I-19
第19区8	J-10	Ⅸ層	陶器	大鉢	底部	—	15.6	(2.6)	美濃	17C前半	青磁足大鉢。印文(曳舟)。6瓣蓮頭。志野焼。	国版I-20

No.3 トレンチ (第20~21図、図版4~3~7)

S 16~E 59グリッドに位置する。トレンチの規模は3×3mの正方形で、面積は9m²である。掘削深度は1.5mを測る。基本層序の作成は南壁、東壁で行った。I層～II層は表土及び細礫を多量に含む盛土。III層は砾を多量に含む整地土。IV層はレンガ片、瓦片を含む近代以降の盛土。V層は炭化物を含む近代以降の整地土。VI層・VII層は砾を多量に含む盛土。VIII層は砾、炭化物を含む近代以降の整地土。IX層は砾、炭化物を含む盛土。X層～XII層は砾を少量含む近世の整地土。XIII層は粘土質シルトの自然堆積層である。遺構確認作業はXII層上面及びXIII層上面で行い、XII層上面で性格不明遺構2基、XIII層上面で性格不明遺構5基の計7基を確認した。XIII層上面遺構のうち、壁面にかかる遺構は、断面で堆積状況を確認するため掘り上げた。

遺物は264点出土した(図版4~5)。全て基本層出土である。内訳は陶器類224点、瓦片16点、石製品1点、金属製品2点、自然遺物20点、その他1点である。この内、近世に属する資料は肥前染付碗(第21図1)、肥前染付皿(第21図2)、大堀相馬灰釉皿(第21図3)がIII層、肥前青緑釉皿(第21図4)がVI層、瓦質土器擂鉢(第21図5)がIV層、銅製煙管吸口(第21図6)、土人形(第21図7)、砥石(第21図8)、寛永通宝(第21図9)がI層から出土している。



第20図 D区No.3 トレンチ平面図・断面図

(1) SX1 性格不明遺構 (第20図、図版4-5)

SX1はトレンチ北東隅に位置する。Ⅲ層上面で確認した。平面形は不明瞭であったが、礫、骨粉、炭化物の分布している範囲を遺構として取り扱った。規模は、上端の長軸約46cm、短軸40cmを測る。さらにトレンチの外へ拡がる。堆積土は单層のシルトで、堆積土が薄く明確な掘り込みは確認することはできなかった。礫はSX1外周部に集中しており、配石を伴う遺構の可能性がある。遺物の出土はない。

(2) SX2 性格不明遺構 (第20図、図版4-6)

SX2はトレンチ中央部に位置する。Ⅲ層上面で確認した。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約96cm、短軸約67cm、深さ13cmを測る。底面は丸形を呈し部分的に起伏を持つ。北側は浅く平坦である。堆積土は3層からなり、1層は礫、炭化物、骨粉を含む砂質シルト。2層は1層に比べ炭化物が少量で砂質シルトである。3層は炭化物を少量含むシルトである。北側上端で径約35cmの自然礫が壁面に沿うように確認した。配石を伴う遺構の可能性がある。遺物の出土はない。

(3) SX3～SX7 性格不明遺構 (第20図、図版4-7)

SX3はトレンチ中央東側に位置する。Ⅲ層上面で確認した。南側でSX4を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約80cm、短軸約33cm、深さ21cmを測る。さらにトレンチ外に拡がる。堆積土は2層からなり、1層は砂質シルトで、2層は1層よりやや色調の明るい砂質シルトである。遺物の出土はない。

SX4はトレンチ中央に位置する。Ⅲ層上面で確認した。東側でSX3に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約60cm、短軸約21cmを測る。堆積土は砂質シルトである。遺物の出土はない。壁面にかかる遺構のため掘り上げは行っていない。

SX5はトレンチ南側に位置する。Ⅲ層上面で確認した。東側でSX6を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約30cm、短軸約20cmを測る。さらにトレンチ外に拡がる。堆積土は砂質シルトである。遺物の出土はない。

SX6はトレンチ南東に位置する。Ⅲ層上面で確認した。西側でSX5に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約30cm、短軸約27cm、深さ31cmを測る。堆積土は大礫を含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

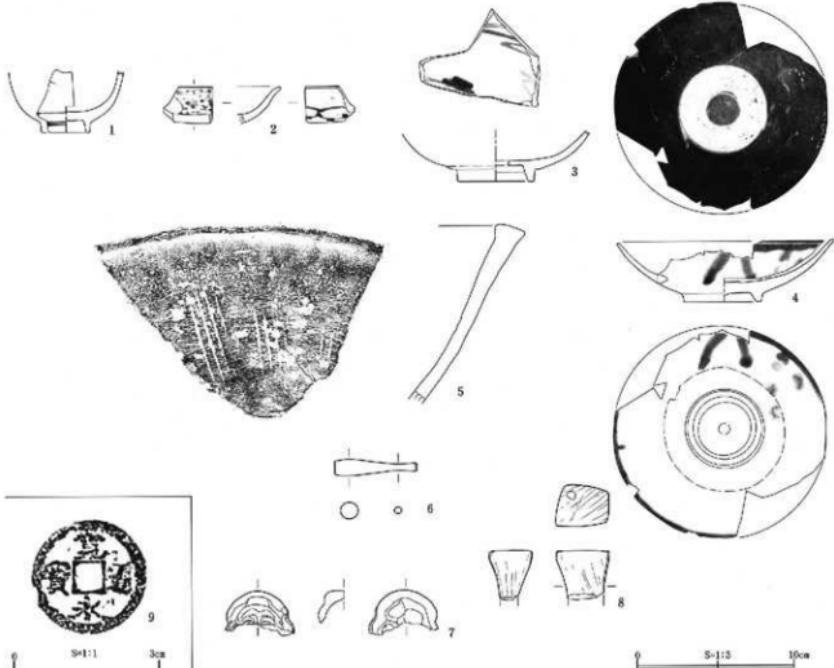
SX7はトレンチ南西に位置する。Ⅲ層上面で確認した。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約50cm、短軸約20cm、深さ13cmを測る。堆積土は单層で炭化物少量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

DENo.3トレンチ基本出土記述表

層位	土 色			土 質		土 性		備 考
	土色No.	十 色	土 質	粘性	しまり			
I	25YR6/6	暗赤褐色	砂 質	なし	あり	現実上。黒褐色色砂質シルトブロック多量。		
II	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	盛土。深5mm以下の砂上部・炭化物多量。大一中細少量。砂・繊維多量。		
III	5Y4/1	灰色	砂	なし	あり	現実上。近代。深~2cmの處で認められた砂地層。		
IV	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	現実上。深1cm程度の地上・炭化物多量。施設。近代の瓦。レンガ片。		
V	10YR3/1	黑褐色	砂質シルト	なし	あり	現実上。近代。深5mm以下の炭化物少量。		
VI	10YR4/2	灰黃褐色	砂質シルト	なし	ややあり	現実上。鐵~大礫多量。		
VII	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	砂。砂紋。繊維。深1cm程度の炭化物少量。		
VIII	2.5Y5/6	黃褐色	砂質シルト	なし	ややあり	現実上。近代。深5mm以下の黒褐色色砂質シルト粒多量。繊維、炭化物多量。		
IX	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややなし	あり	現実上。深5mm以下の黒褐色シルト・中細少量。往10mm程度の炭化物・小礫少量。		
X	10YR4/3	灰褐色	砂質シルト	なし	なし	現実上。近世。往5mm程度の黃褐色シルト粒少量。		
X I	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	現実上。近世。往20mm程度の黃褐色シルトブロック・砂粒・繊維少量。		
X II	10YR3/2	黑褐色	シルト	あり	あり	現実上。近世。往5mm以下の黃褐色シルト粒少量。		
XIII	7.5YR6/6	褐色	勤土質シルト	あり	あり	現実上。近世。往5mm以下の黃褐色シルトブロック多量。		

DENo.3トレンチ遺構堆積土土質記述表

遺構名	層位	土 色			土 質		土 性		備 考
		土色No.	十 色	土 質	粘性	しまり			
SX1	繊維層	10YR3/4	暗褐色	シルト	ややあり	ややあり	骨粉・中細・往10mm程度の炭化物多量。		
	1	10YR2/1	褐色	砂質シルト	なし	なし	現(季代)少量。往10mm炭化物多量・骨粉多量。		
SX2	2	10YR2/1	黑色	砂質シルト	なし	なし	繩(季代)少量。往5mm炭化物少量・骨粉多量。		
	3	10YR3/2	黑褐色	シルト	ややあり	なし	往5mm 黄褐色シルト粒多量。		
SX3	1	10YR2/1	褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	往5mm以下の黄褐色シルト粒少量。		
	2	10YR3/1	黑褐色	砂質シルト	なし	なし	往5mm以下の黄褐色シルト粒少量。		
SX4	繊維層	10YR3/2	黑褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	3cm以下の黄褐色シルトブロック多量。		
SX5	繊維層	10YR2/2	黑褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	往5~20mm黄褐色シルトブロック少量。		
SX6	繊維層	10YR4/2	灰黃褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	大礫。		
SX7	繊維層	10YR2/2	黑褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物粒微量。		



D区No.3トレンチ出土陶器類検索表

図版番号	登録番号	出土地点	種別	器種	部位	法量(cm)	产地	時期	備考	写真 図版
第21図1	J-10	三層	縦器	小鏡	体部～底部	- (3.0) (3.8)	肥前	18C	朱行。外面草文・圓文。	図版2-1
第21図2	J-11	三層	縦器	皿	口縁部～体部	- (2.3)	肥前	17C末～18C初	朱行。唐草文。	図版2-2
第21図3	I-11	三層	陶器	皿	体部～底部	(4.8) (3.2)	大隅松島	19C前半	鉄鋸。内面沈鐘1条。	図版2-3
第21図4	I-12	三層	縦器	皿	口縁部～体部	13.6 4.6 3.9	肥前	17C後半	青銅鏡。此の内銘無し。外面灰地。	図版2-4
第21図5	I-13	三層	青銅器	橫棒	口縁部～体部 (26.8)	- (11.1)	在地系?	17C	獨目4枚。表面有り。外泊口鏡下附子手。図版2-5	

D区No.3トレンチ出土陶器類検索表

図版番号	登録番号	出土地点	種別	器種	部位	材質	法量(cm)	重量	時期	備考	写真 図版
第21図6	N-1	I層	焼管	吸口	銅製	5.1	0.8	1.2	0.3	近世	図版2-6

D区No.3トレンチ出土土器類検索表

図版番号	登録番号	出土地点	種別	器種	法量(cm)	重量(g)	時期	備考	写真 図版
第21図7	P-1	I層	土器	人形	(2.8) (4.3) (1.6)	(7.3)	近世?	燒。大里火、模作りの面部。内面に指印跡。	図版2-7

D区No.3トレンチ出土石製品検索表

図版番号	登録番号	出土地点	種別	石質	法量(cm)	重量(g)	時期	備考	写真 図版
第21図8	K-1	I層	砾石	凝灰岩	(3.1) (3.3)	2.7	近世	4面に使用痕・擦痕。	図版2-8

D区No.3トレンチ出土残荷査定表

図版番号	登録番号	出土地点	種別	法量(cm)	重量(g)	時期	備考	写真 図版	
第21図9	N-2	I層	寛永通宝	2.4 0.6 0.1	3.9	1636～1659	近世	古銭水。	図版2-9

第21図 D区No.3 トレンチ出土遺物

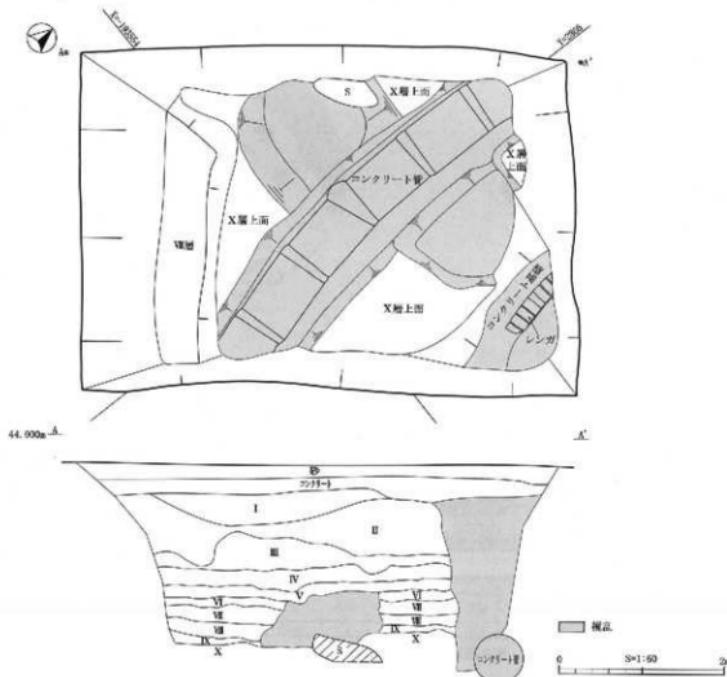
(4) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層Ⅹ層上面・基本層Ⅺ層上面の2面で7基を確認した。基本層Ⅹ層・Ⅺ層の出土遺物は全て近世の遺物で、近代以降の遺物を混入しないことから基本層Ⅹ層・Ⅺ層・Ⅻ層の各層は近世の整地土と考える。従って、基本層Ⅹ層上面の遺構は近世に属する。また、基本層Ⅺ層上面の遺構は近世以前に属すると考えられる。遺構の確認状況からNo.3 トレンチ周辺の遺構密度は高いと推測される。

No.4 トレンチ (第22~23図、図版4~8、図版5~1~2)

S16-E57グリッドに位置する。トレンチは北東方向に長軸を設定し、規模は $4 \times 6\text{ m}$ の長方形で面積は 24 m^2 である。掘削深度は約2.2mを測る。基本層序の作成は西壁で行った。I層からⅢ層が瓦礫を含む盛土、以下、自然堆積層となる。Ⅳ層は褐色シルトを含む粘土、V層は細繊維を含む粘土質シルト、VI層は黒褐色シルト粒を含む粘土質シルト、Ⅶ層は黄褐色シルト、褐色シルトを少量含む粘土質シルト、Ⅷ層は橙色シルト、黄褐色シルトを含む粘土質シルト、Ⅸ層は暗褐色シルトを多量に含む粘土質シルトである。遺構確認作業はⅣ層からⅧ層の各層上面で行ったが遺構は確認されなかった。

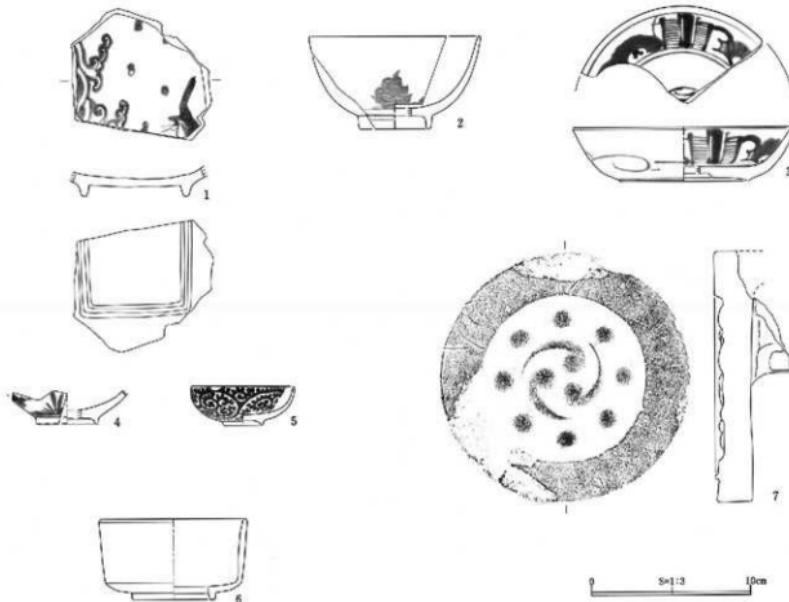
遺物は83点出土している。擾乱及び基本層からの出土である。内訳は陶磁器類71点、瓦片11点、石製品1点である。この内、近世に属する資料は肥前染付長皿 (第23図1) がI層~Ⅲ層、肥前染付碗 (第23図2)、瀬戸・美濃染付皿 (第23図3)、肥前染付碗 (第23図4)、肥前染付小壺 (第23図5)、大堀相馬鉄軸半筒碗 (第23図6)、連珠三巴文軒丸瓦 (第23図7) がⅢ層から出土している。



第22図 D区No.4 トレンチ平面図・断面図

D区No.4トレンチ基本層上層土記

剖位	土色		土質	土性		備考
	土色No.	土色		粘性	しまり	
I	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	盛土。瓦砾。
II	7.5YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	盛土。瓦砾。
III	7.5YR2/1	黒色	粘土	あり	あり	盛土。瓦砾。
IV	7.5YR2/1	黒色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の灰褐色シルト粒多量。
V	7.5YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の黄褐色粘土質シルト粒多量。細縫少量。
VI	7.5YR5/6	明褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の無筋陶シルト粒多量。
VII	7.5YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の褐色シルト粒・径5mm以下の黄褐色シルト粒・褐色シルト粒微量。
VIII	7.5YR2/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の無筋褐色シルト粒多量。
IX	7.5YR6/6	褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。径5mm以下の褐色シルト粒多量。径5mm以下の明褐色シルト粒少量。スコリア散在量。
X	10YR6/6	明褐色	粘土質シルト	あり	あり	



D区No.4トレンチ出土陶器観察表

国版番号	登録番号	出土地点 番号	遺構・層位	種別	器種	部位	法量(cm)			産地	時期	備考	写真 図版
							口径	底径	高さ				
第23図1	J-12	1~Ⅲ層	縦剖	縦剖	長直	体部~底部	—	—	(2.3)	肥前	18C後半?	兔付。貼付高台。	図版12-10
第23図2	J-13	Ⅲ層	縦剖	縦剖	直	口縁部~底部	(10.4)	5.8	(4.2)	肥前	18C前半?	兔付。草花文。高台裏一重團輪。	図版12-11
第23図3	J-14	Ⅲ層	縦剖	縦剖	直	口縁部~底部	(13.7)	3.4	(7.8)	高戸・美濃	19C前半	兔付。蛇の目高台。外面所草文。	図版12-12
第23図4	J-15	Ⅲ層	縦剖	縦剖	直	体部~底部	—	(4.0)	(2.1)	肥前	18C	兔付。草花文。	図版12-13
第23図5	J-16	Ⅲ層	縦剖	縦剖	小平	14.5×6形	6.4	2.5	2.4	肥前	18C前半	兔付。蜻蛉草。	図版12-14
第23図6	J-14	Ⅲ層	縦剖	縦剖	半筒碗	口縁部~底部	(9.0)	5.0	(5.0)	大堀相馬	19C	無輪。	図版12-15

D区No.4トレンチ出土製品觀察表

国版番号	登録番号	出土地点 番号	種別	文様	法量(cm)			重要 (g)	時期	備考	写真 図版	
					直徑	周	高さ					
第23図7	F-1	Ⅲ層	新丸瓦	連續三巴文	15.6	2.5	0.5	22	624.6	近世	左巻き。	図版12-16

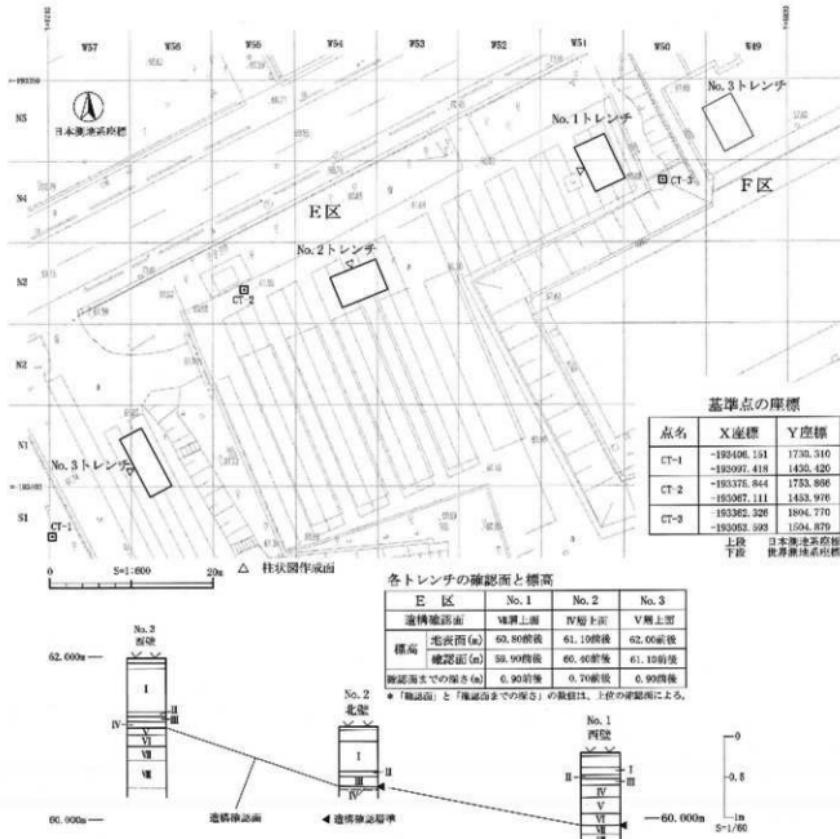
第23図 D区No.4 トレンチ出土遺物

VIII E区の調査成果

1 調査区の設定及び基本層序

E区は東北大学学生実験棟北側の駐輪場内に3箇所のトレンチを設定した。トレンチ番号は東からNo.1～No.3と名称を付けた。なお対象区は予定路線内（No.3トレンチ）および予定路線内と道路建設事業地が重複する部分（No.1トレンチ・No.2トレンチ）である。調査面積はNo.1トレンチが24m²、No.2トレンチが24m²、No.3トレンチが24m²の計72m²である。基本層序はアスファルト舗装・碎石敷きを除き、No.1トレンチでは8層（I～VII）、No.2トレンチでは4層（I～IV）、No.3トレンチでは8層（I～VII）から成る。近代以降の盛土、整地上を除く基本層の対応は以下の通りである。

No.1トレンチ基本層Ⅶ層 ⇄ No.2トレンチ基本層Ⅳ層 ⇄ No.3トレンチ基本層V層



第24図 E区トレンチ配置図・基本層序柱状図

2 確認された遺構と遺物

No.1 トレンチ (第25~26図、図版5-3~7)

N4・5-W51グリッドに位置する。トレンチは北西方向に長軸を設定し、規模は $4 \times 6\text{ m}$ の長方形で面積は 24 m^2 である。掘削深度は約1.1mを測る。基本層序の作成は北壁・西壁で行った。I層～V層は盛土。VI層は細礫少量、炭化物少量含む近世の整地土。VII層・VIII層は粘土質シルトの自然堆積層である。またVII層はVIII層上位の漸移層である。遺構確認作業は遺構プランが明確なVII層上面で行った。壁の断面観察でVII層漸移層上面から振りこむ遺構を確認したため、遺構確認面はVII層とした。VII層上面で確認される遺構も、本来の掘り込み面はVII層上面であると考える。遺構はピット9基、性格不明遺構4基を確認した。

遺物は陶器類が基本層及びSX2・3・4確認面から38点出土した(図版5-3~5)。近世に属する資料は志野丸皿(第26図1)、瀬戸・美濃灰釉鉢(第26図2)、肥前系灰釉陶器蓋(第26図3)がI層から、肥前染付小皿(第26図4)がVII層から出土している。

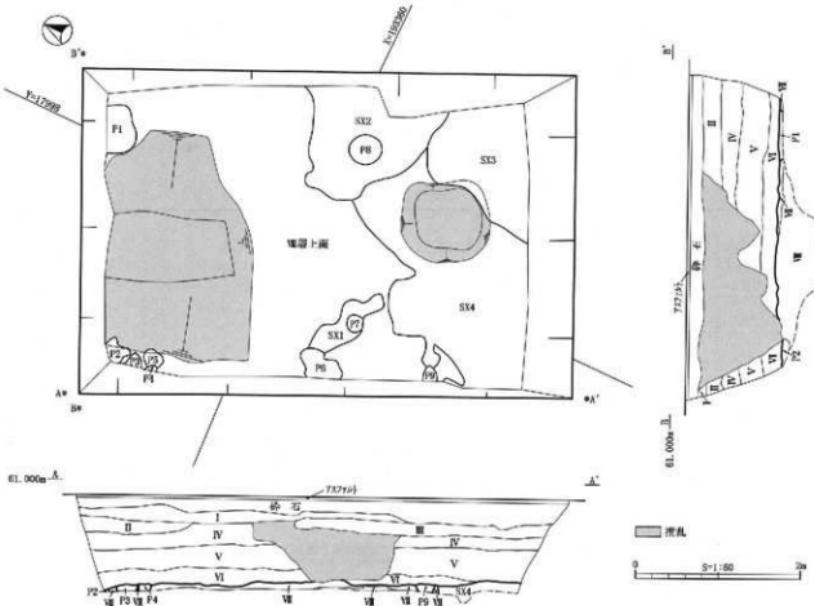


Fig No.1 トレンチ基本層土層記述

層位	土色	土質	土性	備考
	土色No.	土色	粘性 ややあり	
I	25Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	盛土。細礫・砂粒多量。
II	25Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	ややあり あり 盛土。1cm以下の炭化物ブロック。レンガ片少量。
III	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり あり 盛土。黄褐色シルトブロック多量。径5mm以下の炭化物粒・焼土粒。
IV	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	ややあり なし 盛土。黄褐色シルトブロック多量。レンガ片・炭化物ブロック少量。
V	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	ややあり ややあり なし 黄褐色シルトブロック。径5mm以下の焼土粒・炭化物粒・中礫少量。砂粒多量。
VI	10YR4/2	灰褐色	砂質シルト	あり あり 整地上。近世。砂粒多量。炭化物粒・細礫少量。
VII	7.5YR4/4	褐色	粘土質シルト	あり あり 自然堆積層。遺構確認面。
VIII	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり 自然堆積層。

第25図 E区No.1 トレンチ平面図・断面図

E[No.]トレンチ遺構地盤上層記述

遺構名	層位	土色		土質	性 質 し ま り	備 考
		下 土 色 No.	上 色 No.			
P1	確認面	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	あり やあり	鉄粒、炭化物少量。
P2	確認面	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし あり	径1~2cm褐色シルトブロック少量。
P3	確認面	10YR4/2	灰褐色	砂質シルト	あり あり	径5~10mmの炭化物粒少量。
P4	確認面	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	あり あり	径5~10mmの炭化物粒少量。
P5	確認面	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし あり	径1cmの褐色シルトブロック少量。
P6	確認面	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし やあり	径5~5mm炭化物粒少量。
P7	確認面	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし あり	径2~5mmの褐色シルト粒・徑2~5mmの炭化物少量。
P8	確認面	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり ややなし	径2~5mmの褐色シルト粒多量、鉄分。
P9	確認面	7.5Y3/3	暗褐色	シルト	あり あり	径5~10mm褐色粘土質シルトブロック少量。
SX1	確認面	2.5Y4/3	オーブ風呂	粘土質シルト	ややあり ややあり	径3~5mm炭化物粒多量。
SX2	確認面	2.5Y4/3	オーブ風呂	砂質シルト	なし あり	部分の沈分量。
SX3	確認面	2.5Y4/3	オーブ風呂	粘土質シルト	なし なし	径3~10mm褐色粘土質シルトブロック多量。
SX4	確認面	7.5Y3/3	暗褐色	シルト	ややあり なし	灰オーブ粘土質シルトブロック多量。

(1) P1～P9 ピット (第25図、図版5-7)

P1はトレンチの北、Ⅶ層上面で確認した。平面形は梢円形で、規模は上端の長軸約60cm、短軸約30cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は炭化物を含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

P2～P5はトレンチ北西隅、Ⅶ層上面で確認した。P2はP3を切り、P4はP5を切る。平面形は梢円形で、規模は径約10cm～26cmを測る。P2、P3、P4はトレンチ外へ拡がる。堆積土はいずれも砂質シルトで、P3、P4は炭化物を含む。遺物の出土はない。

P6はトレンチの西、Ⅶ層上面で確認した。東側でSX1を切る。平面形は梢円形で、規模は上端の長軸約56cm、短軸約32cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は炭化物を含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

P7はトレンチの中央西、SX1の遺構の平面形内で確認した。平面形は梢円形で、規模は径約20cmを測る。堆積土は炭化物を含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

P8はトレンチの中央東、SX2の遺構の平面形内で確認した。平面形は梢円形で、規模は径約40cmを測る。堆積土は鉄分を含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

P9はトレンチの西、Ⅶ層上面で確認した。東側でSX4を切る。平面形は梢円形で、規模は上端の長軸約16cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土はシルトである。遺物の出土はない。

(2) SX1～SX4 性格不明遺構 (第25図、図版5-7)

SX1はトレンチ中央西、Ⅶ層上面で確認した。西側でP6、遺構内をP7に切られる。平面形は梢円形で、規模は上端の長軸約101cm、短軸約22cmを測る。堆積土は炭化物を含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

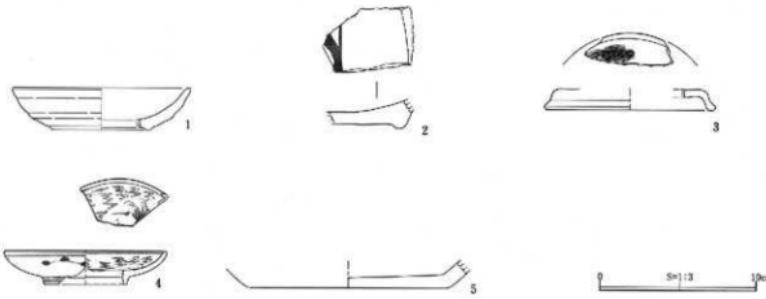
SX2はトレンチの東、Ⅶ層上面で確認した。南側でSX4を切り、SX3に切られ、遺構内をP8に切られる。平面形は不明で、規模は上端の長軸約150cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は鉄分を多く含む砂質シルトである。遺物は確認面から近世の陶器片が3点出土した。

SX3はトレンチの南東、SX2、SX4の遺構の平面形内で確認した。北側でSX2、西側でSX4を切る。平面形は不明で、規模は上端長軸約124cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は粘土質シルトである。遺物は確認面から近世の陶磁器片が5点、土師質瓦片 (第26図5) が1点出土している。

SX4はトレンチ中央南、Ⅶ層上面で確認した。西壁の断面観察からⅦ層を掘り込んでいることが判明したため、本来の遺構確認面はⅦ層上面である。東側でSX2、SX3、西側でP9に切られる。平面形は不明で、規模は上端の長軸約250cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土はシルトである。遺物は確認面から近世の陶磁器片が5点、土師質瓦片 (第26図5) が1点出土している。

(3) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層Ⅶ層上面で13基を確認した。基本層Ⅶ層の出土遺物は近世の遺物のみで近代以降の遺物が混入しないことから近世の整地土と考える。また、遺構確認面の基本層Ⅶ層上面は、遺構から出土した遺物より、近世の遺構面と考えられる。遺構の確認状況からNo.1トレンチ周辺の遺構密度は高いと推測される。



E区No.1 トレンチ出土陶器・土器観察表

図版番号	登録番号	出土地点	種別	器種	部位	法量(cm)		産地	時期	備考	写真版
						口径	底径				
第26周1	I-15	I層	陶器	丸皿	口縁部～底部	(11.1)	(6.2)	(2.6)	米澤	17C	志野釉。
第26周2	I-16	I層	陶器	皿	底部	—	(13.2)	(1.8)	米澤	17C中頃	灰釉。鉄継。目跡あり。
第26周3	I-17	I層	陶器	蓋	口縁部	—	(10.6)	(1.3)	肥前系	17C後半？	灰釉。上彩有須絵。透明釉。
第26周4	I-18	SX4	土器	蓋	小皿	口縁部～底部	(10.1)	(5.0)	21	19C前半	染付。海浜文。
第26周5	I-18	SX4	土器	蓋	底部	—	(12.2)	(1.7)	在地系	近世	—

第26図 E区No.1 トレンチ出土遺物

No.2 トレンチ（第27～28図、図版5～8、図版6～1～3）

N3～W53・54グリッドに位置する。トレンチは北東方向に長軸を設定し、規模は4×6mの長方形で面積は24m²である。掘削深度は約1.0mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁を行った。I層盛土。II層からIII層が細繊維が多く含む近代以降の整地土。IV層から粘土質シルトの自然堆積層となる。III層上面で根固め石を伴う建物跡を確認した。この建物跡は東北大埋蔵文化財調査研究センターのこれまでの調査事例⁽³⁾から陸軍第二師団の施設の基礎である。遺構確認作業はIV層上面で行った。遺構はピット15基、性格不明遺構1基を確認した。遺物は搅乱から近世の磁器を2点出土したのみである^{(3)～(5)}。この内1点は肥前染付壺（第28図1）である。

(1) P1～P15 ピット（第27図、図版6～3）

トレンチ内の搅乱を除く範囲、IV層上面で確認した。切り合ピットは4基で、P2はP3、P6はP7を切る。平面形は梢円形で、規模は上端の直径約20cm～50cmを測る。建物跡や柱列跡を構成するピットは認められない。堆積土は色調の違いはあるが粘土質シルトで、P2は炭化物を含み、P4、P5、P8、P15は鉄分を多く含む。遺物の出土はない。

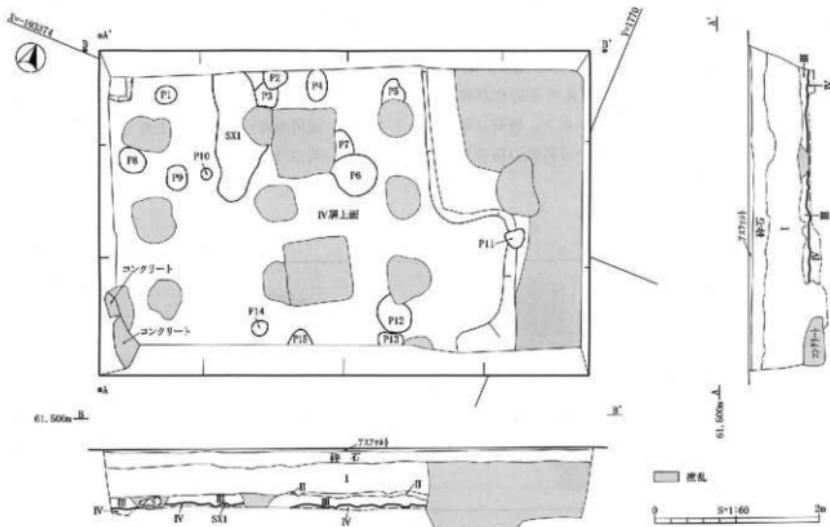
(2) SX1 性格不明遺構（第27図、図版6～3）

SX1はトレンチ中央北、IV層上面で確認した。東側でP3を切る。平面形は梢円形で、規模は上端の長軸約158cm、短軸約60cmを測る。さらにトレンチ外へ拡がる。堆積土は粘土質シルトである。遺物の出土はない。

(3) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層IV層上面でピット15基、性格不明遺構1基を確認した。これらの遺構は近代整地土である基本層III層を掘り込まないことや、基本層IV層はNo.1 トレンチ基本層Ⅲ層上面に対応することから近世の遺構と考えられる。

(3) 佐藤敦氏（東北大埋蔵文化財調査研究センター）のご教示による。第二師団関連の遺物基層は、東北大埋蔵文化財調査研究センター 2000 「東北大埋蔵文化財調査年報」 13 P.79～71に解説がある。



E区No.2トレンチ基本層下層計記

層位	土色		土質	粘性	しまり	備考
	上色No.	上色				
I	2SY3/3	赤褐色シルト	粘土質シルト	あり	なし	盛土。径1~2cm黄褐色シルトブロックを層間に多量・瓦礫。
II	75YR4/6	褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	變地土。近代。径1~2cm黄褐色シルトブロック・砂粒・細繊多量。炭化物粒微量。
III	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	變地土。近代。砂粒多量。炭化物粒微量。細繊多量。
IV	10YR4/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。

E区No.2トレンチ遺構兼崩土層計記

遺構名	層位	土色		土質	粘性	しまり	備考
		土色No.	上色				
P1	確認面	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径2cm以下の灰白色シルトブロック少量。
P2	確認面	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	炭化物粒多量。
P3	確認面	10YR4/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径1~3mmの灰白色シルト粒多量。
P4	確認面	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径2cm以下の黄褐色シルトブロック少量。鉄分の沈着多量。
P5	確認面	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径3~5mmの灰白色シルト粒多量。鉄分の沈着多量。
P6	確認面	10YR4/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径3~5mmの灰白色シルト粒多量。
P7	確認面	10YR4/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径3~5mmの褐色シルト粒少量。
P8	確認面	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径1~3mmの灰白色粒少。鉄分の沈着多量。
P9	確認面	10YR2/2	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径1cm以上のにじみ黄褐色シルトブロック少量。
P10	確認面	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径2cm以上のにじみ黄褐色シルトブロック少量。
P11	確認面	10YR2/2	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	径3cm以下の黄褐色シルトブロック少量。
P12	確認面	10YR4/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径1~3mmの灰白色シルト粒少。
P13	確認面	10YR4/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径2cm以下にじみ黄褐色シルトブロック少量。
P14	確認面	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径2cm以下にじみ黄褐色シルトブロック少量。
P15	確認面	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径1cm以下の暗褐色シルト粒少量。鉄分の沈着多量。
SX1	確認面	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径1~2cm黄褐色シルトブロック少量。

第27図 E区No.2トレンチ平面図・断面図



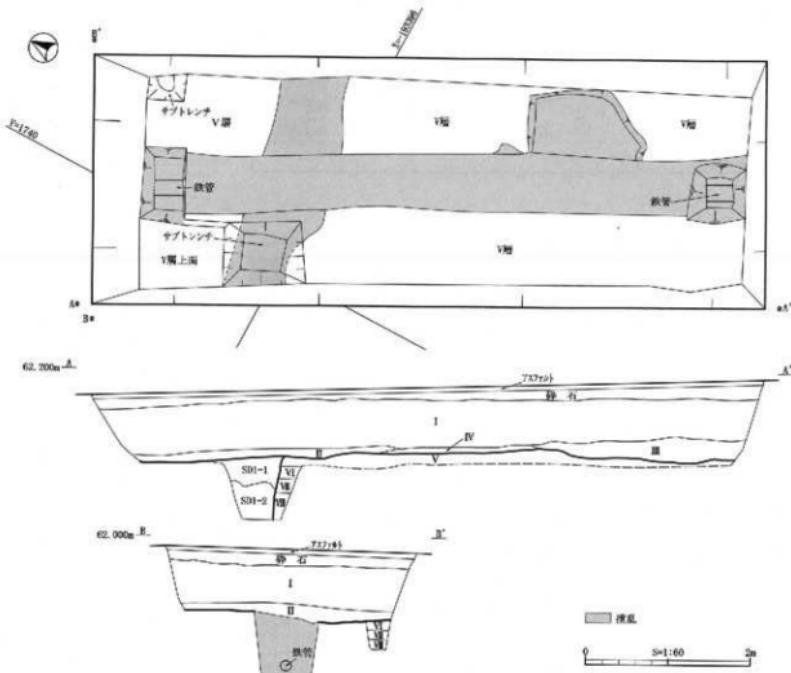
E区No.2トレンチ出土陶器継表

国版番号	登録番号	出土場所	種別	器種	部位
術28図 1	J-18	遺構・崩土	遺構	遺構	口縁部・側部
法量(cm)	底径	高さ	時 期	備 考	写真 国版
口径(底径)(mm)	(3.3)	肥薄	18c	朱付。外腹墨弁文。	圖版12-2

第28図 E区No.2トレンチ出土遺物

No. 3 トレンチ (第29図、図版6-4~6)

N-1-W56グリッドを中心として位置する。トレンチは北西方向に長軸を設定し、規模は $3 \times 8\text{ m}$ の長方形で面積は 24 m^2 である。掘削深度は約1.1mを測る。基本層序の作成は北壁・西壁で行った。I層からIII層までが盛土。IV層がNo.2トレンチIII層に対応する近代以降の整地土、以下、自然堆積層となり、V層は粘土質シルト。VI層は砂質シルト。VII層は粘土質シルト。VIII層は砂質シルトである。遺構確認作業はV層上面で行ったが、遺構の確認はない。遺物は基本層IV層から近世の磁器片を1点、擾乱から明治時代以降の磁器を5点出土したのみである (図7-35)。



E区No.3トレンチ基本層上層計記

層位	土色	土質	土性 粘性 しまり	備考
I	上色No. 5Y3/1 オリーブ色	粘土質シルト	ややあり なし	盛土。瓦礫・砾多量。
II	2.5Y5/4 黄褐色	粘土質シルト	あり あり	盛土。砾塊化七ブロック・細礫多量。
III	7.5YR3/4 細褐色	粘土質シルト	あり あり	盛土。1cm以下の黄褐色シルトブロック・燒土・炭化物多量。
IV	7.5YR4/3 土褐色	粘土質シルト	あり あり	整地土。近代。瓦礫・砂粒少量。
V	10YR4/3 にい黄褐色	粘土質シルト	あり あり	自然堆積層。鐵分の沈着多量。
VI	10YR4/2 灰黃褐色	砂質シルト	ややあり あり	自然堆積層。
VII	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	あり あり	自然堆積層。
VIII	10YR4/2 單灰黃色	砂質シルト	なし あり	自然堆積層。

第29図 E区No.3 トレンチ平面図・断面図

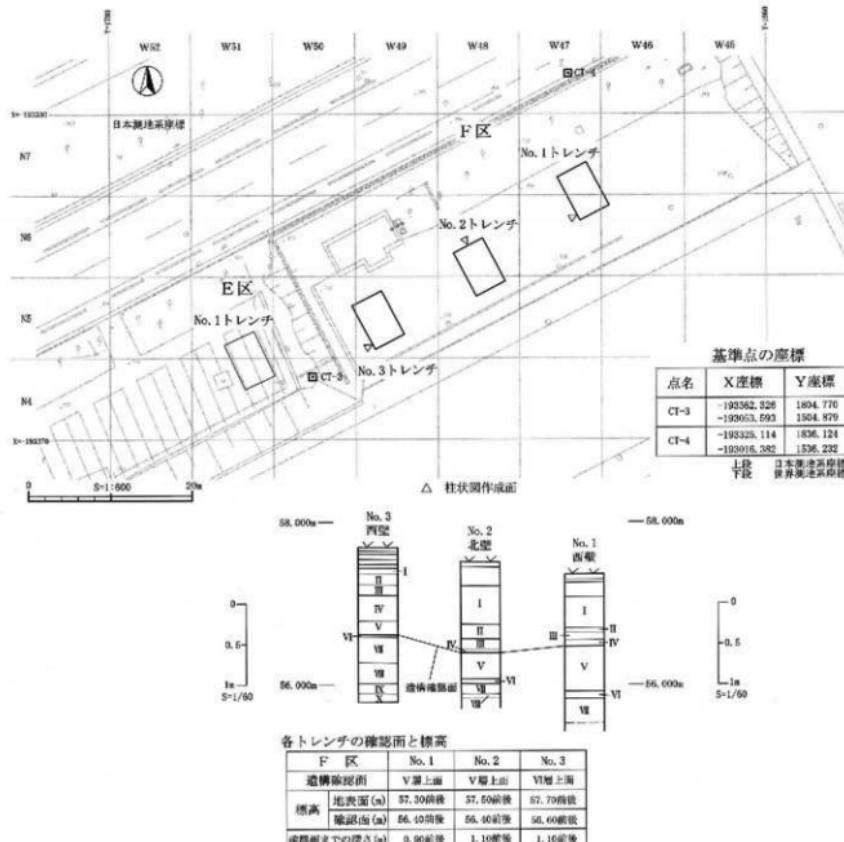
IX F区の調査成果

1 調査区の設定及び基本層序

F区は東北大学マルチメディア棟の北側駐輪場内に3箇所のトレンチを設定した。トレンチ番号は東からNo.1～No.3と名称を付けた。なお対象区は予定路線内と道路建設事業地が重複する部分である。調査面積は各トレンチとも24m²の計72m²である。基本層序はアスファルト舗装・碎石敷きを除き、No.1トレンチでは7層（I～VII）、No.2トレンチでは8層（I～VIII）、No.3トレンチでは10層（I～IX）から成る。近代以降の盛土、整地土を除く基本層の対応は以下の通りである。

No.1トレンチ基本層V層 ⇄ No.2トレンチ基本層V層 ⇄ No.3トレンチ基本層VI層

No.1トレンチ基本層VII層 ⇄ No.2トレンチ基本層VII層 ⇄ No.3トレンチ基本層X層

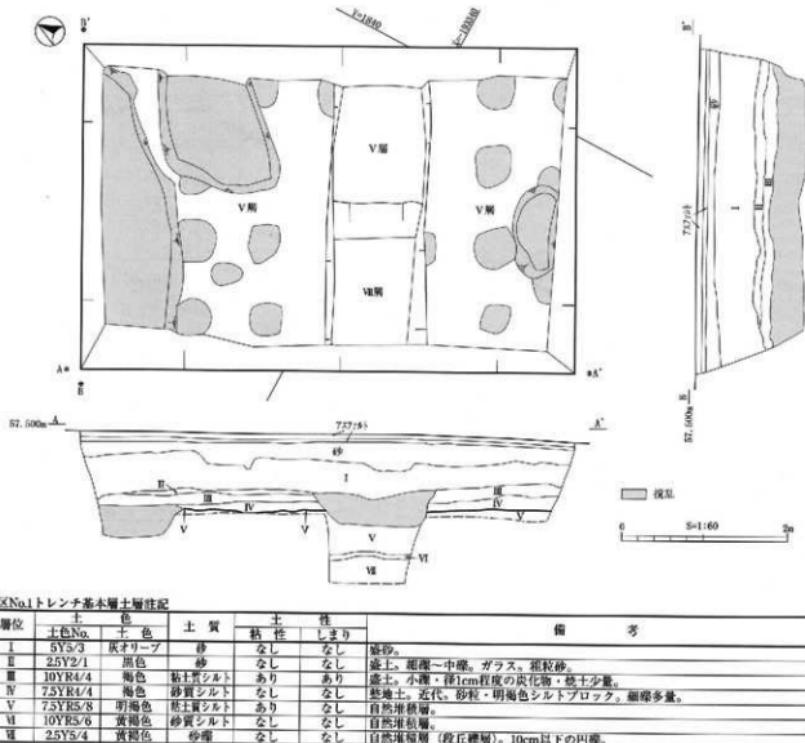


第30図 F区トレンチ配置図・基本層序柱状図

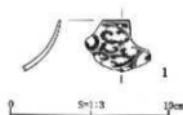
2 確認された構造と遺物

No.1 トレンチ (第31図、図版6-7~8、図版7-1)

N 6・7-W47グリッドに位置する。トレンチは北西方向に長軸を設定し、規模は $4 \times 6\text{ m}$ の長方形で、面積は 24 m^2 である。掘削深度は約 0.9 m を測る。基本層序の作成は北壁、西壁で行った。I層は盛砂、II層からIV層までは近代以降の盛土で以下、自然堆積層となり、V層は粘土質シルト、VI層は砂質シルト、VII層は砂疊（段丘疊層）である。なおIV層上面でE区No.2 トレンチ同様の根固め石を伴う建物跡の基礎を確認した。遺構確認作業はV層上面で行ったが遺構の確認はない。遺物は搅乱と基本層IV層から近世と近代の陶磁器片が4点出土したのみである⁽²⁸⁻²³⁷⁾。この内1点は近世の肥前染付小碗（第32図1）である。



第31図 F区No.1 トレンチ平面図・断面図



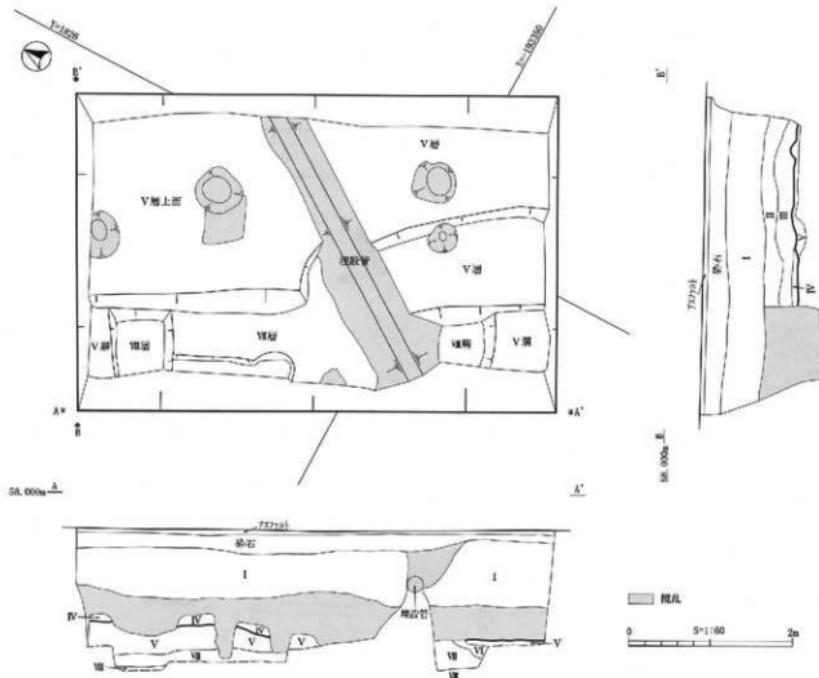
F区No.1 トレンチ出土器物観察表

図版番号	登録番号	出土地点	種別	器種	部位
第32図1	L19	淀川	遺物	小碗	口縁部～全体
			法長(cm)	深さ	
			11.5	(3.6)	淀川

第32図 F区No.1 トレンチ出土遺物

No.2 トレンチ (第33図、図版 7-2~3)

N5・6-W48グリッドに位置する。トレンチは北西方向に長軸を設定し、規模は $4 \times 6\text{ m}$ の長方形で面積は 24 m^2 である。掘削深度は約1.1mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁で行った。I層～Ⅲ層までは近代以降の盛土、IV層は近代の整地土、以下、自然堆積層となり、V層は粘土質シルト、VI層は粒子の粗い砂層、VII層は砂質シルト、VIII層は砂礫（段丘礫層）である。遺構確認作業はV層上面で行ったが遺構の確認はない。遺物は擾乱と基本層I層から近世と近代以降の磁器片が8点出土したのみである（図版7-37）。



F区No.2トレンチ基本層土層記

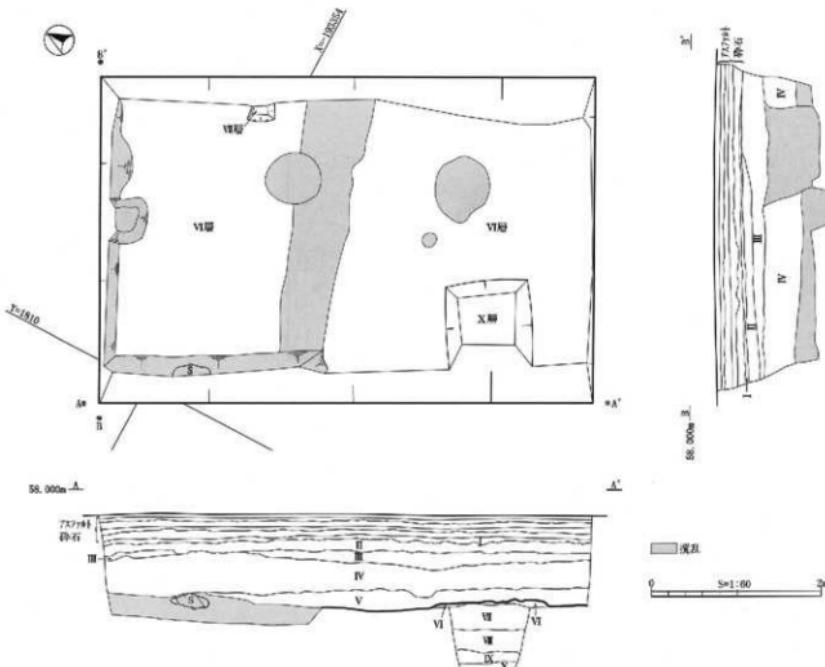
層位	土色		土質	土性		備考
	上色No.	下色		粘性	しまり	
I	10YR2/1	黒色	砂質シルト	なし	なし	盛土。砂礫・ガラ多量。
II	10YR2/1	黒色	シルト	あり	ややあり	擾乱。レンガ片・砂粒多量。
III	5Y4/3	暗オリーブ	粘土質シルト	あり	あり	擾乱。砂粒多量。
IV	7SYR6/8	褐色	粘土質シルト	あり	なし	整地上。近代。砂粒少量。塵。褐色シルトブロック多量。
V	7SYR5/8	明褐色	粘土質シルト	あり	なし	自然堆積層。
VI	7SYR5/6	明褐色	砂	なし	あり	自然堆積層。やや粒子の粗い砂。
VII	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	なし	自然堆積層。
VIII	25Y5/4	黄褐色	砂礫	なし	なし	自然堆積層（段丘礫層）。10cm以下の円礫。

第33図 F区No.2 トレンチ平面図・断面図

No. 3 トレンチ (第34図、図版 7-4~5)

N 5-W49・50グリッドに位置する。トレンチは北西方向に長軸を設定し、規模は 4×6 mの長方形で面積は 24m^2 である。掘削深度は約1.2mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁で行った。I層～IV層までは近代以降の盛土、V層は近代の整地土、以下、自然堆積層となり、VI層～Ⅹ層は粘土質シルト、Ⅺ層は砂質シルト、X層は砂礫（段丘疊層）である。遺物は基本層より24点出土した。^{(註1) (註2)} 内訳は近代以降を主とする陶磁器類23点、その他1点である。

なおトレンチ北西角から北へ1mの地点で、アスファルト舗装の陥没により近世の井戸跡1基が発見されている。



F区No.3トレンチ基本層上層計記

層位	土色			土質	土性	しまり	備考
	土色No.	土色	土質				
I 5Y3/2	オリーブ黒	砂質シルト	ややあり	なし	盛土	砂粒・炭化物粒・繊維多量。	
II 10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	盛土	砂土・砂土ブロック・小砾・炭化物粒微量。	
III 5Y4/3	暗オリーブ	粘土質シルト	ややあり	ややあり	盛土	瓦粒・レンガ片・砂粒・炭化物粒多量。	
IV 5Y3/2	オリーブ黒	砂質シルト	なし	あり	盛土	炭化物と共に赤褐色シルトの反覆に堆積。小砾多量。	
V 7.5YR5/6	明褐色	泥土質シルト	ややあり	あり	盛土	古代・上部に褐色多量。灰色軽土質シルトの反覆状現れ。	
VI 7.5YR6/8	褐色	泥土質シルト	あり	なし	なし	自然堆積層。砂粒微。	
VII 7.5YR5/8	明褐色	粘土質シルト	あり	なし	なし	自然堆積層。	
VIII 7.5YR5/8	明褐色	粘土質シルト	あり	なし	なし	自然堆積層。	
IX 10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	なし	なし	なし	自然堆積層。	
X 25Y5/4	黄褐色	砂礫	なし	ややあり	なし	自然堆積層(段丘疊層)。10cm以下の円礫。	

第34図 F区No.3 トレンチ平面図・断面図

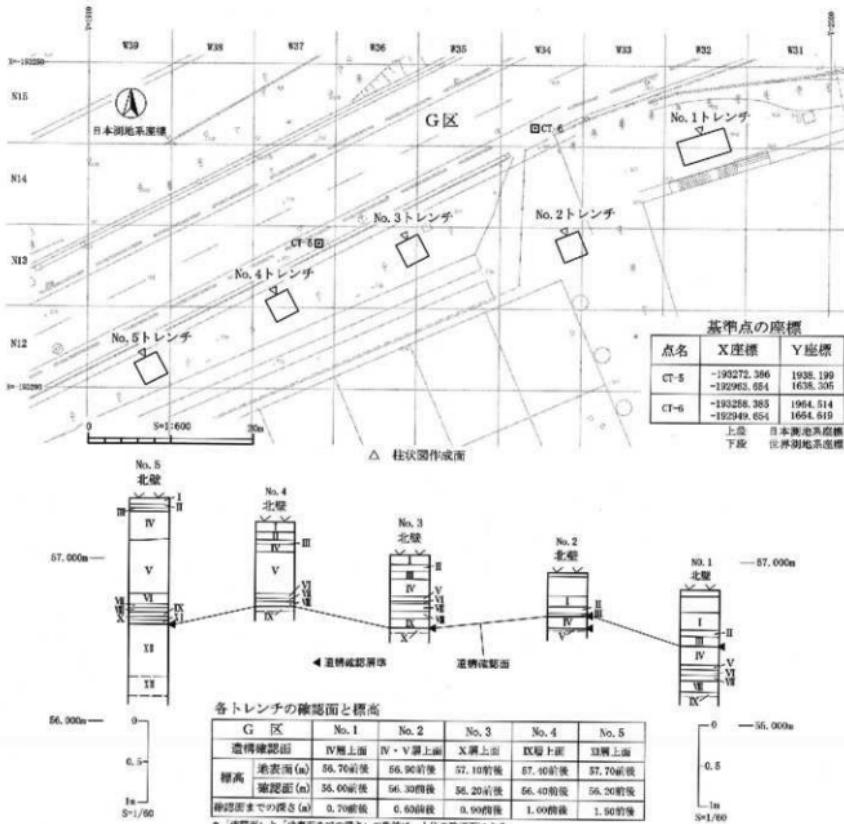
X G区の調査成果

1 調査区の設定及び基本層序

G区は東北大学川内体育馆の周辺と市道沿いの緑地帯に5箇所のトレンチを設定した。トレンチ番号は東からNo.1～No.5と名称を付けた。なお対象区は予定路線内と道路建設事業地が重複する部分（No.2・No.4・No.5トレンチ）及び道路建設事業地内（No.1・No.3トレンチ）である。調査面積はNo.1トレンチが18m²、No.2～5トレンチが各9m²の計54m²である。基本層序はNo.1トレンチでは大別9層（I～IX）、No.2トレンチでは5層（I～V）、No.3トレンチでは10層（I～X）、No.4トレンチでは9層（I～IX）、No.5トレンチでは13層（I～XIII）から成る。表土、近代以降の盛土・整地土を除く基本層の対応は以下の通りである。

No.2トレンチ基本層IV層⇒No.3トレンチ基本層IX層

No.1トレンチ基本層II層⇒No.2トレンチ基本層V層⇒No.3トレンチ基本層X層⇒No.4トレンチ基本層II層⇒No.5トレンチ基本層XII層



第35図 G区トレンチ配置図・基本層序柱状図

2 確認された遺構と遺物

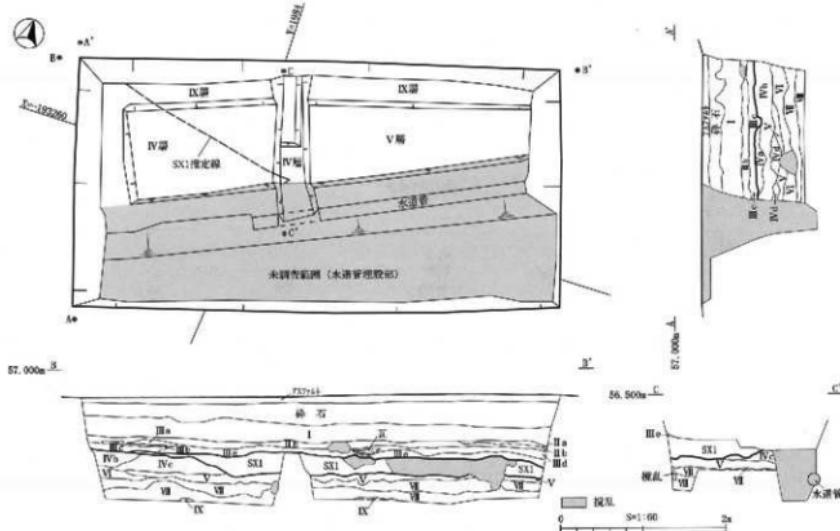
No.1 トレンチ (第36~37図、図版7-6~8、図版8-1~2)

N14・15・W32グリッドに位置する。トレンチは東西方向に長軸を設定し、規模は3×6mの長方形で面積は18m²である。掘削深度は約1.3mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁で行った。I層は盛土からIX層粘土質シルトまで大別9層、細別17層からなる。I層は細礫、炭化物を含む盛砂。II層は細別2層からなり、細礫多量、中礫、炭化物含む盛土。III層は細別5層からなり、棟瓦を伴う近代以降の整地土。IV層は細別4層からなり、炭化物、焼土多量に含む近世の整地土。V層～Ⅷ層は中礫、炭化物を含む近世の整地土。IX層から粘土質シルトの自然堆積層となる。遺構確認作業はIV層上面で行ったが遺構の確認は出来なかった。トレンチ中央に南北ベルトを設定し、さらにV層上面・Ⅷ層上面まで掘り下げた。北壁及び南北ベルトの断面観察から、IV層を掘り込んでいる性格不明遺構1基を確認した。Ⅷ層以下の土層堆積状況の観察は北側・西側に設定したサブトレンチで行い、IX層を確認した。

遺物は搅乱及び基本層、SX1堆積土から211点が出土した^(図版8-1)。内訳は陶磁器類164点、瓦片41点、石製品1点、金属製品2点、その他3点である。この内、近世に属する資料は瀬戸・美濃白磁紅皿(第37図1)が搅乱から、肥前染付皿(第37図2)がIII層、肥前染付合子蓋(第37図3)、信楽鉄釉二耳壺(第37図4)がIV層、焼塙壺(第37図5)、岸窯系鉄釉搖鉢(第37図6)がV層、肥前染付碗(第37図7)がVI層から出土している。

(1) SX1 性格不明遺構 (第36図、図版7-7)

平面での遺構プランが不明瞭であったため確認に至らなかった。南北ベルトと北壁の断面観察からIV層を掘り込んでいることが判明した。遺構の上端を推定するとトレンチの北側大半を占め、さらにトレンチ外へ拡がる。平面形は不明で、規模は確認長軸約490cm、深さ約25cmを測る。底面は平坦であると考えられる。堆積土は単層で中礫少量、炭化物粒を多く含む砂質シルトである。遺物は近世の陶磁器片が8点出土した。



第36図 G区No.1 トレンチ平面図・断面図

G区No.1トレンチ基本層土層記

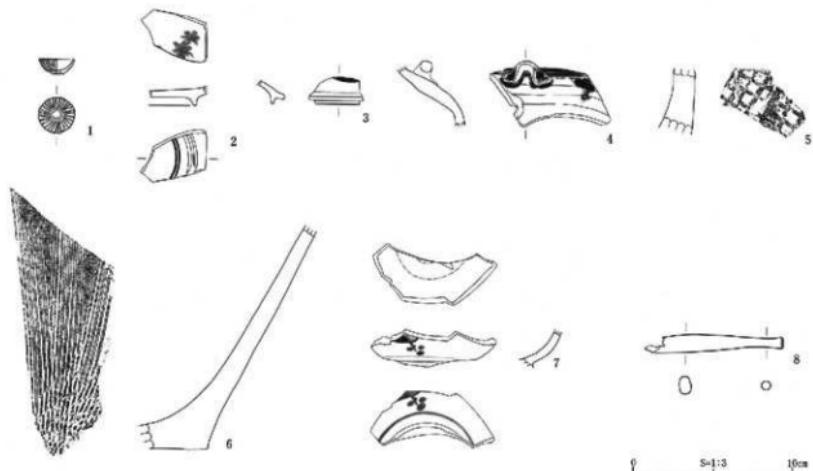
層位	土色	土質	土性	性	備考
	上色No.	下色		粘性	しまり
I	NI5/0	黒褐色	砂	なし	あり 盛砂。細繊・炭化物・莎多目。
IIa	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり 盛土。径1~3cm黃褐色シルトブロック・細繊多量。
IIb	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり 盛土。径5mm以下の炭化物粒少量。中繊少量。
IIIa	10YR3/3	暗褐色	シルト	なし	ややあり 砂地土。近代以前。炭化物粒・燒土粒・細繊微量。
IIIb	25Y5/4	黄褐色	砂	なし	なし 砂地土。古代以前。細繊多量。
IIIc	10YR3/2	黑褐色	粘土質シルト	なし	あり 砂地土。近代以前。砂粒多量。
IIId	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 砂地土。近代以前。砂粒多量。近代以降の瓦。
IIIe	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	なし	あり 砂地土。近代以前。砂粒多量。炭化物粒微量。底分の沈着量。
IVa	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり 砂地土。近世。径1~3cm黄褐色シルトブロック多量。
IVb	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり 砂地土。近世。砂粒多量。
IVc	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	ややあり 砂地土。近世。径5mm以下の炭化物粒多量。铁の沈着量。
IVd	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり 砂地土。近世。径5mm以下の炭化物粒・燒土粒多量。
V	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし 砂地土。近世。径5mm以下の炭化物粒微量。中繊少量。
VI	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	なし 砂地土。近世。砂粒多量。
VII	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	あり	あり 砂地土。近世。径5mm以下の炭化物粒微量。中繊少量。
VIII	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	なし 砂地土。近世。砂粒多量。
IX	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	あり	あり 自然堆積層。

G区No.1トレンチ遺構面積土層記

遺構名	層位	土色	土質	土性	性	備考
		上色No.	下色		粘性	しまり
SX1	遺構面	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	中繊少量。炭化物粒多量。

(2) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層IV層上面で性格不明遺構1基を確認した。基本層IV層からは近代以降の遺物の混入がないことや遺構から出土した遺物から、遺構確認面である基本層IV層上面は、近世の遺構面と考える。



G区No.1トレンチ出土陶磁器・土器観察表

図版番号	登録番号	出土場所	種別	器種	部位	法量(cm)			産地	時期	備考	写真 図版
						口径	底径	高さ				
第37図 1	J-20	西端	縦槽	紅皿	不定	2.1	0.9	0.8	轍戸・美濃	19C中期	白磁輪。輪郭し成形。	図版11-1
第37図 2	J-21	Ⅲ層	縦槽	皿	底部	-	-	(1.2)	肥前	18C	束付。見込み草花文。高台浜二重巻瓶。	図版13-2
第37図 3	J-22	Ⅳ層	縦槽	合子盞	天井部	-	-	(1.5)	肥前	17C後~18C	束付。	図版13-3
第37図 4	L-19	Ⅴ層	陶器	二耳盞?	体部	-	-	(2.9)	信楽?	18C	鉢輪。	図版13-4
第37図 5	I-20	Ⅴ層	十字貫土器	深腹盤	体部	-	-	(4.0)	在施渠	17C	外削ぎ子タスキ目。手づくは、二太過熱脇なし。	図版13-5
第37図 6	I-21	Ⅴ層	陶器	縦槽	体部~底部	-	-	(14.0)	岸施渠	17C後~18C初	鉢輪。額口9条。	図版13-6
第37図 7	J-23	Ⅴ層	縦槽	碗	体部	-	-	(2.2)	肥前	18C	束付。草花文。移日直。	図版13-7

G区No.1トレンチ出土金属品観察表

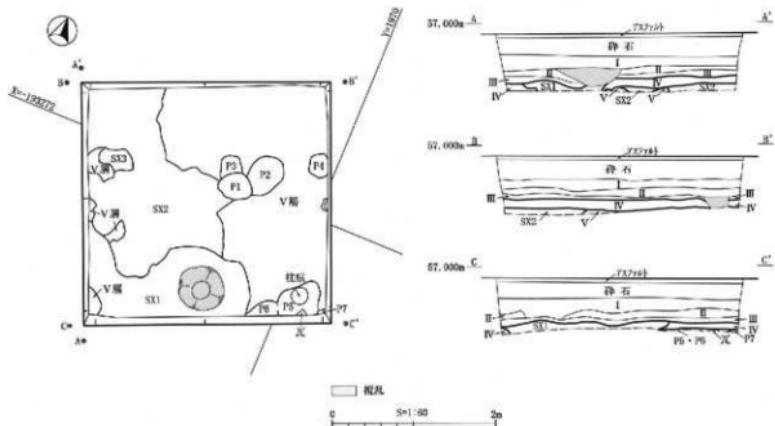
図版番号	登録番号	出土場所	種類	部位	材質	法量(cm)			重量(g)	時間	備考	写真 図版	
						全長	首半径	最大径					
第37図 8	N-3	I層	管	吸口	鋼製	8.3	-	1.1	0.3	6.6	近世		図版13-8

第37図 G区No.1 トレンチ出土遺物

No.2 トレンチ (第38~39図、図版 8 - 3 ~ 6)

N13-W33・34グリッドに位置する。トレンチは $3 \times 3\text{ m}$ の方形で面積は 9 m^2 である。掘削深度は約 0.7 m を測る。基本層序の作成は南壁、東壁、西壁で行った。I層は盛土、II層は円礫、鉄屑を多量に含む盛土、III層は砾を多量に含む近代以降の整地土、IV層は黄褐色シルトブロック、炭化物少量を含む近世の整地土、V層から粘土質シルトの自然堆積層である。遺構確認作業はV層上面で行った。確認した遺構はピット7基、性格不明遺構3基である。壁の土層断面観察でIV層上面から掘りこむ遺構を確認したため、遺構確認面はIV層上面とV層上面とした。

遺物は基本層及びSX1・P1確認面から35点が出土した^{[49] [57]}。内訳は陶磁器類32点、瓦片1点、金属製品1点、土製品1点である。この内、近世に属する資料は岸窯系攝鉢（第39図-1）がI層、瀬戸・美濃灰釉小坏（第39図-2）がIV層から出土している。



G区No.2 トレンチ基本層土層記載

層位	上色			土質	土性	しまり	備考
	上色No.	土色	土質				
I	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	盛土。	
II	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	盛土。径3~4cmの円礫・針金・鉄屑多量。	
III	10YR4/4	褐色	シルト	あり	あり	整地土。近代。上部はII層の耕作層で混入。	
IV	10YR4/3	〔ぶい〕青褐色	砂質シルト	あり	ややあり	整地土。近世。黄褐色シルトブロック。径2~3mm炭化物粒少量。	
V	10YR5/6	黄褐色	シルト	あり	ややあり	自然堆積層。	

G区No.2 トレンチ遺構層土層記載

遺構名	層位	上色			土質	上性	結性	しまり	備考
		上色No.	土色	土質					
P1	確認面	10YE3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	あり	あり	黄褐色シルト粒少量。
P2	確認面	10YR4/3	〔ぶい〕青褐色	砂質シルト	ややあり	あり	あり	あり	径2~3mm炭化物粒少量。
P3	確認面	10YR4/3	〔ぶい〕青褐色	砂質シルト	ややあり	あり	あり	あり	径2~5mm黄褐色シルト粒少量。
P4	確認面	10YR4/3	〔ぶい〕青褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	あり	あり	径2~5mm黄褐色シルト粒・炭化物粒少量。
P5	確認面	10YE3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	あり	あり	径2~3mm褐色シルト粒・炭化物粒少量。
P5付近	確認面	25Y5/1	黄褐色	法土質シルト	あり	ややあり	あり	あり	径3~5cm褐色シルト粒・炭化物粒少量。
P6	確認面	10YE3/4	暗褐色	砂質シルト	あり	あり	あり	あり	径1~3mm褐色シルト粒・炭化物粒少量。
P7	確認面	10YR4/3	〔ぶい〕青褐色	砂質シルト	なし	ややあり	あり	あり	径2~5mm黄褐色シルト粒少量。
SX1	確認面	5Y4/1	灰色	シルト	あり	なし	なし	なし	径3~10mm炭化物粒多量。褐色土ブロック含む。
SX2	確認面	10VR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	あり	あり	径2~5mm炭化物粒多量。
SX3	確認面	10YR4/3	〔ぶい〕青褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	あり	あり	径2~5mmの褐色シルト長少量。

第38図 G区No.2 トレンチ平面図・断面図

(1) P1～P7 ピット (第38図、図版8-6)

P1～P4はトレンチの中央～中央東に位置する。V層上面で確認した。P1は東側でP2、北側でP3、西側でSX2を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約42cm、短軸約36cmを測る。堆積土は砂質シルトである。遺物は確認面から近世の丸瓦片1点、焼塙壺（第39図5）1点が出土した。P2は西側でP1に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約48cm、短軸約38cmを測る。堆積土は炭化物少量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。P3は南側でP1に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約24cmを測る。堆積土は砂質シルトである。遺物の出土はない。P4は平面形が楕円形で、規模は上端の長軸約28cmを測る。堆積土は炭化物少量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

P5はトレンチ南に位置する。V層上面で確認した。柱痕跡をもつ柱穴である。P6との切り合い関係は不明瞭であった。東側でP7を切る。平面形は不明で、規模は上端の長軸約60cmを測る。堆積土は炭化物粒少量含む砂質シルトである。柱痕跡の平面形は円形で、規模は直径約20cmを測る。堆積土は炭化物粒少量含む粘土質シルトである。遺物の出土はない。

P6、P7はトレンチ南に位置する。V層上面で確認した。P6は西側でSX1に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約30cmを測る。堆積土は炭化物少量含む砂質シルトである。P7は西側でP5に切られる。平面形は不明で、規模は上端の長軸約10cmを測る。堆積土は炭化物粒少量含む砂質シルトである。ともに遺物の出土はない。

(2) SX1～SX3 性格不明遺構 (第38図、図版8-6)

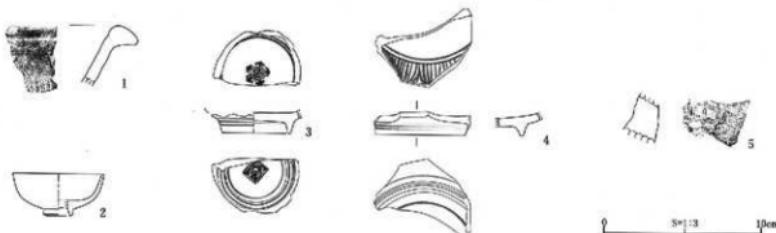
SX1はトレンチ南に位置する。壁の土層断面観察からIV層を掘り込んでいることが判明した。東側でP6、北側でSX2を切る。平面形は不明で、規模は上端の長軸約196cmを測る。堆積土は炭化物多量に含むグライ化したシルトである。遺物は確認面から近世の陶器類6点が出土した。内2点は、肥前染付碗（第39図3）、肥前染付皿（第39図4）である。

SX2はトレンチ中央西に位置する。V層上面で確認した。東側でP1、南側でSX1に切られ、西側でSX3を切る。平面形は不明で、規模は上端の長軸約232cmを測る。堆積土は炭化物多量に含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

SX3はトレンチ西に位置する。V層上面で確認した。周囲をSX2に切られる。平面形は不明で、規模は上端の長軸約44cmを測る。堆積土は砂質シルトである。遺物の出土はない。

(3) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層IV層上面と基本層V層上面で計10基を確認した。基本層IV層の出土遺物は、全て19世紀～幕末に属し、基本層IV層上面で確認したSX1の出土遺物は近世の遺物のみであることから、基本層IV層は近世の整地土と考える。遺構確認面は基本層IV層上面・基本層V層上面の2面で、出土遺物などから近世の遺構面と考えられる。遺構の確認状況からNo.2トレンチ周辺の遺構密度は高いと推測される。



第39図 G区No.2 トレンチ出土遺物

G区No.2トレンチ出土陶器・土器観察表

図版番号	登録番号	出土地点 道標・層位	種別	器種	部位	法量(cm)			産地	時期	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
第39回1	I-22	Ⅰ層	陶器	擂鉢	口縁部	-	-	(3.8)	岸原系	17C後~18C初	鉛輪。擂目条。	同図1-9
第39回2	I-23	Ⅰ層	陶器	小杯	口縁部~底台部	(5.6)	2.6	(1.8)	岸戸・美濃	18C	灰釉。	同図1-10
第39回3	J-24	SX1	陶器	碗	底部	-	(4.5)	(1.5)	肥前	18C前半	鉛輪。ASA等古瓦片。合気式二重構造内施釉。	同図1-11
第39回4	J-25	SX1	陶器	皿	体部~底部	-	(8.4)	(1.6)	肥前	18C	染付。透井文。	同図1-12
第39回5	J-24	P1確認面	土質	砂	体部	-	-	(3.1)	在地系	18C	外壁面テクスチャ。コロ板状。二次洗削なし。	同図1-13

No.3 トレンチ (第40図、図版8-7-8、図版9-1-2)

N13-W35・36グリッドに位置する。トレンチは3×3mの方形で面積は9m²である。掘削深度は約0.9mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁を行った。I層表土、II層~VII層まで瓦礫、小砾、鉄屑等を含む盛土。VIII層は細砾少量含む近代以降の整地土。IX層は砂粒含む近世の整地土。X層は粘土質シルトで自然堆積層である。遺構確認作業はX層上面で行った。確認した遺構はピット2基である。遺物は基本層から陶磁器類を5点出土したのみである^{[29] [30]}。

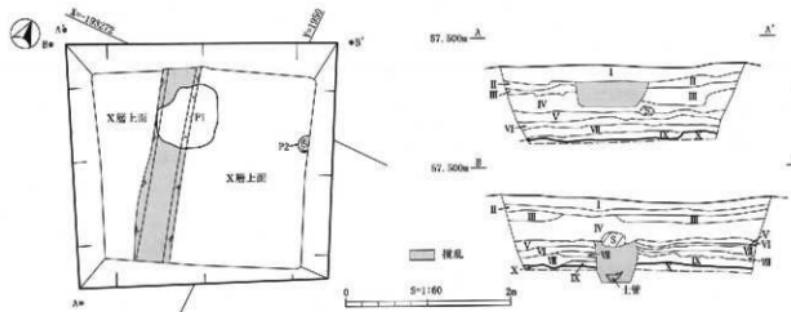
(1) P1・P2 ピット (第40図、図版9-1-2)

P1はトレンチ中央北に位置する。X層上面で確認した。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約82cm、短軸64cmを測る。堆積土は粘土質シルトである。遺物の出土はない。

P2はトレンチ東に位置する。X層上面で確認した。平面形は楕円形で、規模は上端の径約20cmを測る。堆積土は粘土質シルトである。径約18cmの楕円で扁平な棍棒状を伴う柱穴である。遺物の出土はない。

(2) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層X層上面でピット2基を確認した。基本層IX層はNo.2トレンチ基本層IV層に対応することから、基本層IX層は近世の整地土である。遺構がこの整地土の下で検出されること並びにNo.2トレンチの状況より、遺構確認面の基本層X層上面は、近世の遺構面と考える。



G区No.3トレンチ基本層上部註記

層位	上色		土質		土性		備考
	土色No.	土色	土質	粘性	しまり		
I	2SY4/2	暗灰褐色	砂質シルト	なし	なし	現表土。草木根多数。	
II	7SYR4/4	褐色	シルト	ややあり	あり	表土。砂粒多量。	
III	2SY4/3	オリーブ褐色	砂	なし	なし	表土。5~10cmの円礫多量。	
IV	10YR2/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	盛土。瓦礫多量。	
V	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	表土。砂粒・小砾少量。	
VI	10YR17/1	黒色	砂質シルト	なし	あり	表土。瓦礫。径5mm以下の炭化物粒多量。	
VII	2SY4/3	オリーブ褐色	砂	なし	なし	盛土。10cm以下の円礫多量。表層。	
VIII	10YR4/2	灰黃褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	盛土。近世以降。径5mm以下の炭化物粒・瓦礫少量。	
IX	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	盛土上。近世。砂粒少量。	
X	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層。	

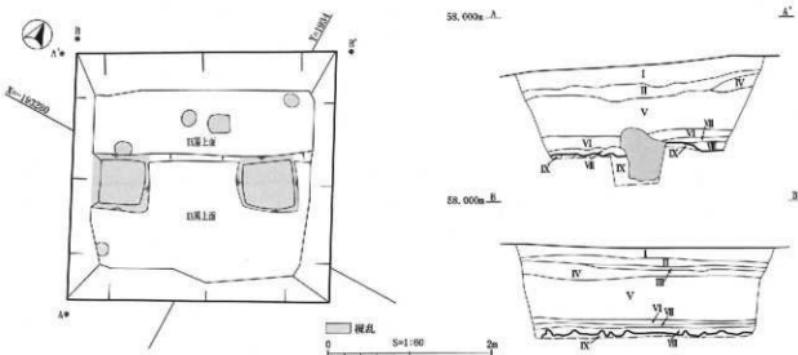
G区No.3トレンチ確認面土上部註記

遺構名	層位	上色		土質		土性		備考
		土色No.	土色	土質	粘性	しまり		
P1	確認面	10YR2/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径1~2cmのにぶい黄褐色粘土質シルト粒多量。	
P2	確認面	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	褐色シルト粒少量。	

第40図 G区No.3トレンチ平面図・断面図

No.4 トレンチ (第41図、図版 9 - 3 ~ 4)

N12・13-W37グリッドに位置する。トレンチは $3 \times 3\text{ m}$ の方形で面積は 9 m^2 である。掘削深度は約 1.0 m を測る。基本層序の作成は北壁、西壁で行った。I 層表土。II 層～VI 層まで瓦礫、小砾を多量に含む盛土。VII 層・VIII 層は砾多量に含む近代の整地土。IX 層から粘土質シルトの自然堆積層である。遺構確認作業はIX 層上面で行ったが、遺構の確認はない。遺物は陶磁器が擾乱および基本層から35点が出土した (AS: p.37)。



G区No.4 トレンチ基本層土質記

層位	土色		土質		参考
	土色No.	土色	粒性	しまり	
I	25Y4/2	暗灰黃色	砂質シルト	ややあり	なし 現表土。炭化物粒・細縫少量。
II	7.5YR4/4	褐色	シルト	ややあり	あり 盛土。砂粒多量。
III	10YR2/1	黒色	砂質シルト	なし	なし 盛土。
IV	25Y4/3	ナリーブ栗色	砂礫	なし	なし 盛土。
V	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし 盛土。瓦礫多量。
VI	10YR5/4	にい青褐色	粘土質シルト	あり	あり 盛土。砂粒・小砾多量。
VII	10YR17/3	黒色	砂質シルト	あり	あり 堆積土。近代。細縫・径5mm以下の炭化物粒多量。
VIII	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	あり	あり 堆積土。近代。中粒多量・砂粒。炭化物粒少量。印西柴付。
IX	10YR5/4	にい青褐色	粘土質シルト	ややあり	あり 自然堆積層。

第41図 G区No.4 トレンチ平面図・断面図

No.5 トレンチ (第42~43図、図版 9 - 5 ~ 6)

N12-W39グリッドに位置する。トレンチは $3 \times 3\text{ m}$ の方形で面積は 9 m^2 である。掘削深度は約 1.7 m を測る。基本層序の作成は北壁、西壁で行った。I 層表土。II 層～XI 層まで瓦礫、細縫を含む盛土。XII 層は粘土質シルトで自然堆積層。XIII 層は砂礫 (段丘礫層) である。遺構確認作業はXII 層上面で行い、性格不明遺構 2 基を確認した。遺物は擾乱及び基本層、SX 2 確認面から磁器14点、瓦片 1 点が出土した。この内 1 点は近世の肥前染付大皿 (第43図 1) である。

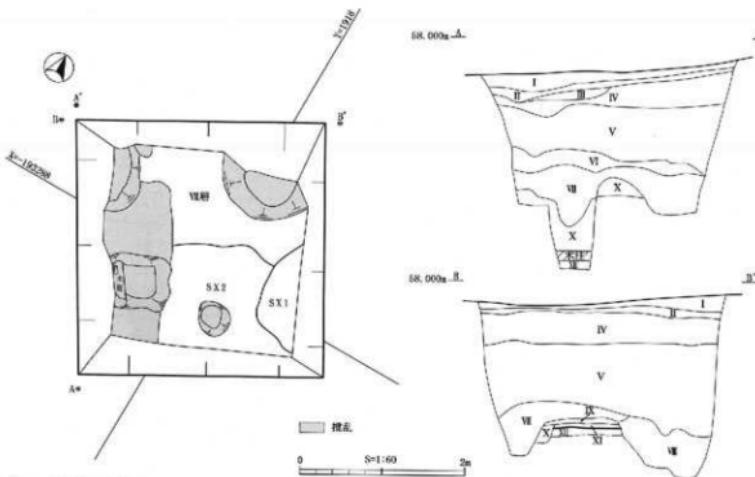
(1) SX1・SX2 性格不明遺構 (第42図、図版 9 - 6)

SX 1 はトレンチ東に位置する。XII 層上面で確認した。南側で SX 2 を切る。平面形は不明で、規模は上端の長軸約 134 cm を測る。堆積土は鉄分多量に含むグライ化した粘土質シルトで、遺物の出土はない。

SX 2 はトレンチ南に位置する。XII 層上面で確認した。北東側で SX 1 、西側で擾乱に切られる。平面形は不明で、規模は上端の長軸約 126 cm を測る。堆積土は粘土質シルトである。遺物は近世の瓦片が 1 点出土した。

(2) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層 XII 層上面で 2 基を確認した。基本層 XII 層は、No. 2 トレンチ基本層 V 層、No. 3 トレンチ基本層 X 層と層位が対応すること、遺構は XI 層を掘り込んでいないことから近世の遺構面と考えられる。



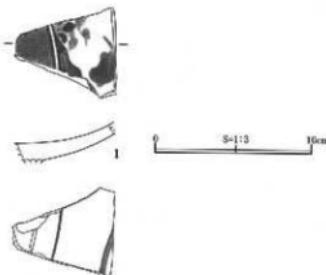
G区No.5 トレンチ基本層付記

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No.	土色		粘性	しまり	
I	2SY4/2	暗赤黄色	砂質シルト	なし	なし	泥炭土。草木植多量。
II	7SYR4/4	褐色	シルト	ややあり	あり	土上。砂粒多量。
III	7SYR2/1	黒色	砂質シルト	なし	なし	土上。径2~3cm黃白色シルトブロックを屑状に多量。
IV	2SY4/3	オリーブ褐色	砂礫	なし	なし	土上。凹穂・砂粒多量。
V	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし	土上。瓦礫・レンガ片多量。
VI	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	土上。砂塵中量。瓦多量。
VII	2SY3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	土上。径1~5cm黃褐色シルトブロック多量。印押染付。
VIII	5Y4/2	灰オリーブ	粘土質シルト	ややあり	ややあり	土上。面塵少量。
IX	10YR4/1	褐色	砂質シルト	なし	あり	土上。面塵少量。
X	5Y4/3	暗オリーブ	粘土質シルト	なし	なし	土上。面塵少量。
XI	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	なし	なし	土上。径1~5cm黃褐色シルトブロック多量。印押染付。
XII	10YR5/4	にじく黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	自然堆積層。斜丘埋層。径15cm以下の円錐多量。
XIII	7SYR4/3	褐色	砂礫	なし	なし	自然堆積層 (斜丘埋層)。径15cm以下の円錐多量。

G区No.5 トレンチ選択堆積土層付記

測定名	層位	土色	土質	土性	備考
SX1	確認前	10YR5/1	褐色	粘土質シルト	あり ややあり 鉄分の沈着多量。グライ化。
SX2	確認前	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	あり あり 15~10mmのにじく黄褐色シルト多量。鉄分の沈着多量。

第42図 G区No.5 トレンチ平面図・断面図



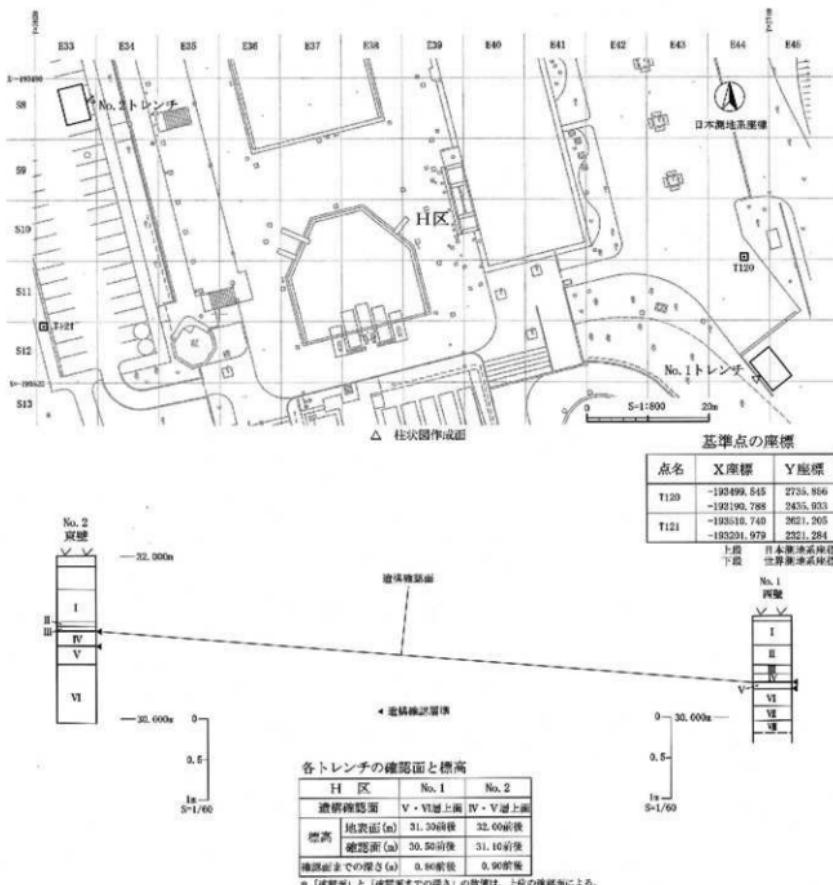
国版番号	登録番号	出土地点	種別	器種	部位
第43回 1	J-26	XI層	磁器	大瓶	体部
			法長 (cm)	产地	時期
-	- (25)	鹿島	18C	豪化平底。単花文。内外面質入。	写真 図版

第43図 G区No.5 トレンチ出土遺物

XI H区の調査成果

1 調査区の設定及び基本層序

H区は西公園プール東側の遊歩道と、プール西側の駐車場に各1箇所ずつトレンチを設定した。トレント番号は東側からNo.1、No.2と名称を付けた。なお対象区は予定路線内である。調査面積は各トレントとも24m²の計48m²である。基本層序はNo.1トレントでは大別8層（I～VII）、No.2トレントでは大別6層（I～VI）から成る。表土、盛土を除く、基本層の対応はなかった。



第44図 H区トレント配置図・基本層序柱状図

2 確認された遺構と遺物

No.1 トレンチ（第45～46図、図版9-7～8、図版10-1～3）

S12-E44・45グリッドを中心位置する。トレンチは北西方向に長軸を設定し、規模は4×6mの長方形で、面積は24m²である。掘削深度は約1.0mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁、南壁で行った。I層表面からV層まで大別8層、細別14層からなる。I層～IV層は大疊、レンガ片、炭化物を含む盛土、V層～VI層までは炭化物を少量含む近世の整地土である。遺構確認作業はVI層上面で行い、性格不明遺構7基を確認した。堆面観察でV層上面から掘り込む遺構を確認したため、遺構確認面は基本層V層上面と基本層VI層上面とした。

遺物は搅乱、基本層及びSX1、SX5、SX7から569点が出土した（図版9-8）。内訳は陶磁器類549点、瓦片18点、土製品1点、その他1点である。近世に属する資料は肥前染付皿（第46図2）、肥前染付碗（第46図3）、肥前染付広東碗（第46図4）がV層から出土している。

(1) SX1 性格不明遺構（第45図、図版10-3）

SX1はトレンチ南側に位置する。V層上面で確認した。性格光明のため南側にサブトレンチを設定し掘り下げる。平面形は不明で、規模は上端の長軸約298cm、短軸約240cmを測る。さらにトレンチ外に拡がる。堆積土は2層からなる。1層は細葉少量、炭化物多量含む砂質シルト。2層は炭化物、中疊含む砂質シルトである。出土遺物は49点で全て近世に属する。切込御神酒徳利（第46図5）、吳黒釉鉢（第46図6）、土製品の碁石（第46図8）が1層、唐津三島手象嵌大鉢（第46図7）が2層から出土している。

(2) SX2 性格不明遺構（第45図、図版10-3）

SX2はトレンチ西側に位置する。V層上面で確認した。堆積状況把握のため、サブトレンチを設定し一部掘り下げるを行った。北側でSX7を切る。平面形は不明である。規模は上端の長軸約230cm、短軸約190cmを測る。さらにトレンチ外に拡がる。堆積土は大別3層からなる。1層は炭化物を微量含む砂質シルト、2層は砂質シルト、3層は炭化物を微量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

(3) SX3～7 性格不明遺構（第45図、図版10-3）

SX3はトレンチ中央に位置する。VI層上面で確認した。北側でSX6を切っている。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約70cm、短軸約54cmを測る。上面より礫が多量に検出された。堆積土は炭化物少量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

SX4はトレンチ中央に位置する。VI層上面で確認した。SX5とSX6を切る。平面形は不整楕円形で、規模は上端の長軸102cm、短軸70cmを測る。上面より礫が多量に検出された。堆積土は炭化物を少量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

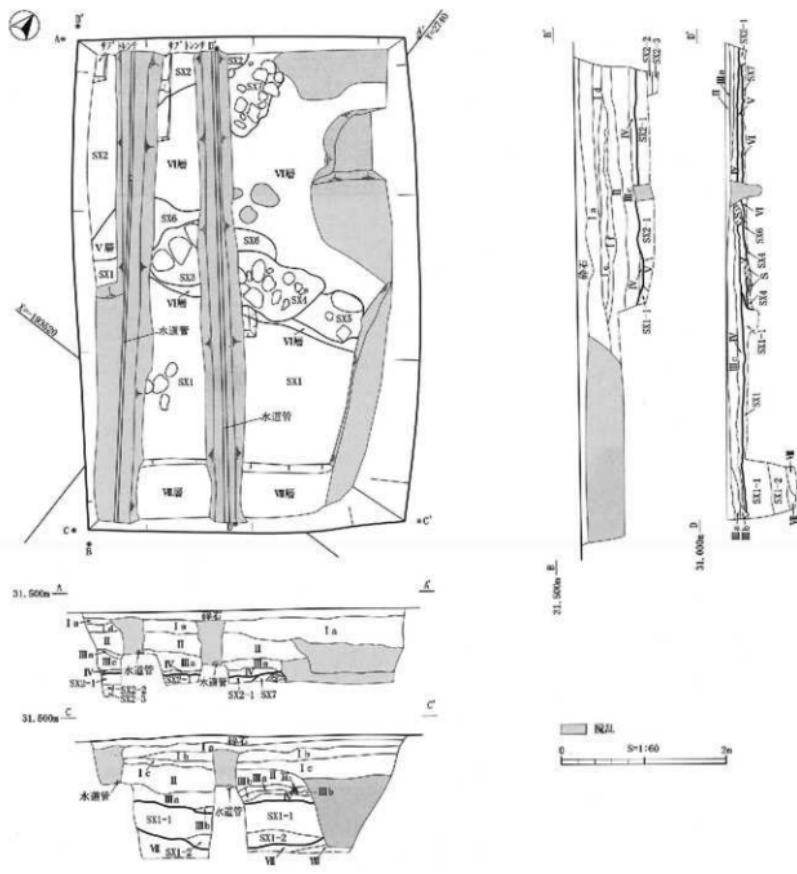
SX5はトレンチ中央東に位置する。VI層上面で確認した。西側でSX4に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸70cm、短軸60cmを測る。上面より礫が多量に検出された。堆積土は炭化物少量含む砂質シルトである。遺物は堀跡鉄輪鉢（第46図9）が1点出土した。

SX6はトレンチ中央西に位置する。VI層上面で確認した。南側でSX3、SX4に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約152cm、短軸約100cmを測る。堆積土は炭化物多量に含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

SX7はトレンチ北側に位置する。VI層上面で確認した。西側でSX2に切られる。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約110cm、短軸60cmを測る。上面より礫が多量に検出された。堆積土は炭化物少量含む砂質シルトである。遺物は肥前染付深皿（第46図10）が1点出土した。

(4) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層V層上面と基本層VI層上面で7基を確認した。基本層V層は、V層および遺構出土遺物がすべて近世の遺物で近代以降の遺物を混入しないことから、近世の整地土と考える。遺構確認面はV層上面、VI層上面の2面で近世の遺構面と考える。遺構の確認状況からNo.1トレンチの周辺の遺構密度は高いと推測される。



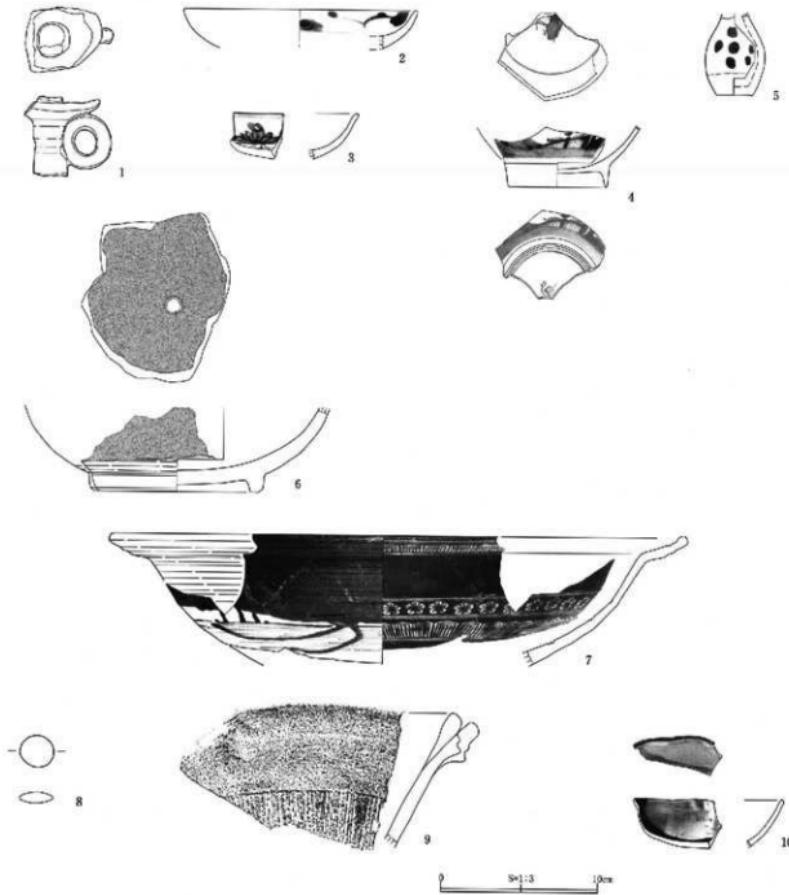
H区No.1トレンチ基本層位計記

層位	土色		土質		土性		備考
	土色No.	上色	粘土質シルト	砂	砂粒	しまり	
I-a	10YR17/1	黒色	粘土質シルト	ややあり	なし	盛土。大塊・レンガ片多量。砂粒少量。	
I-b	25Y4/2	暗灰黃色	砂	なし	あり	盛土。砂粒・礫物中量。	
I-c	10YR2/1	黒色	砂	なし	あり	盛土。径1cm以下の炭化物多量。礫物中量。	
I-d	25Y6/4	にふい黄白色	砂	なし	なし	盛土。粗砂。	
I-e	10YR4/2	灰黃褐色	シルト	なし	なし	盛土。径5mm以下の焼土粒・炭化物粒微量。	
I-f	25Y5/4	黄褐色	砂質シルト	なし	なし	盛土。径5mm以下の炭化物粒。燒土粒少量。	
II	10YR4/1	褐灰色	砂	なし	あり	盛土。径5mm以下の黄褐色シルト粒多量。燒土粒微量。	
III-a	10YR4/2	灰黃褐色	砂質シルト	なし	あり	盛土。径5mm以下の黄褐色シルト粒・黄褐色シルト粒多量。炭化物粒・燒土粒微量。	
III-b	25Y5/6	黄褐色	シルト	なし	なし	盛土。砂粒少量。	
IV	10YR3/1	黑褐色	砂	なし	なし	盛土。径5mm以下の炭化物粒多量。燒土粒少量・小礫少量。	
V	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	盛土。近黄。径5mm以下の炭化物粒少量。	
VI	25Y4/2	暗灰黃色	砂質シルト	なし	なし	盛地土。近黄。V崩前より砂粒の粒が小さい。炭化物粒微量。	
VI	10YR4/4	褐色	シルト	あり	あり	盛地土。近黄。径2~3cmのにふい黄褐色砂質シルトブロック少量。炭化物粒微量。	
Ⅶ	10YR5/3	にふい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	盛地土。近黄。径5mm以下の黄褐色砂質シルト粒・黄褐色シルト粒多量。	

第45図 H区No.1 トレンチ平面図・断面図

H区No.1トレンチ遺構堆積土十層記

遺構名	層位	土色		土質	土性		備考
		土色No.	土色		粘性	しまり	
SX1	1	25Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	ややあり	炭化物少量。径3cm以下の炭化物多量。
SX1	2	10Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	径2cm以下の黄褐色シルトブロック多量。炭化物粒中量。中纏少見。
SX2	1	25Y3/2	黒ナリーベル	砂質シルト	なし	あり	細粒砂から成る。炭化物粒多量。
SX2	2	25Y7/3	浅黄色	砂質シルト	なし	なし	径5mm以下の黄褐色シルト粒中量。
SX2	3	10YR4/2	灰黃褐色	砂質シルト	なし	なし	径5mm以下の炭化物粒少量。
SX3	2	25Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	5~30cmの繩。径2cm以下の炭化物少量。黄褐色シルト粒多量。
SX4	2	25Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	5~30cmの繩。径2cm以下の炭化物少量。黄褐色シルト粒多量。
SX5	2	25Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	5~30cmの繩。径2cm以下の炭化物少量。黄褐色シルト粒多量。
SX6	2	25Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	径2cm以下の炭化物少量。黄褐色シルト粒多量。
SX7	2	25Y3/3	黒ナリーベル	砂質シルト	なし	あり	5~30cmの繩少量。径3mm以下の炭化物少量。



第46図 H区No.1 トレンチ出土遺物

H区No.1トレント出土陶器層序表

図版番号	登録番号	出土地点 施設・部位	種別	器種	部位	法量(cm)			産地	時期	備考	写真 回版
						口径	底径	厚さ				
第46図1	I-25	Ⅲ層	陶器	灯明具	上部	—	(4.9)	—	瑪	19C前半	発現。鉄箱 朱付。草花文。	図版1-1
第46図2	J-27	V層	磁器	直	口縁部～底部	(14.4)	—	(2.4)	肥前	18C	朱付。花文。	図版1-16
第46図3	J-28	V層	磁器	直	口縁部～底部	—	—	(2.3)	肥前	18C	朱付。花文。	図版1-17
第46図4	J-29	V層	磁器	碗	底部～底部	—	(6.0)	(3.8)	肥前	19C	朱付。底東側。見込日文。	図版1-18
第46図5	J-30	SX1・1層	陶器	神奈川利 脚部～底部	—	2.2	(5.1)	—	切込	19C前半	花文(五弁)。灰釉。須彌紋。透明釉。	図版1-19
第46図6	J-26	SX1・1層	陶器	鉢	体部～底部	—	(10.6)	—	境	19C前半～中葉末	黒釉。自裂有り。	図版1-20
第46図7	J-27	SX1・1層	陶器	大鉢	口縁部～底部	(37.6)	—	(8.1)	肥前	17C後半	三島子象鼻。薄弁文。花文。	図版1-21
第46図8	J-28	SX2・堆積層	陶器	盆	口縁部～底部	—	—	(8.4)	境?	18C以降	灰釉。脚付7枚。片口。	図版1-22
第46図9	J-28	SX2・堆積層	陶器	深皿	口縁部～底部	(16.6)	—	(2.8)	肥前	18C末～19C前半	朱付。口沿。	図版1-23

H区No.1トレント出土土器層序表

図版番号	登録番号	出土地点 施設・部位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	時期	備考	写真 回版
					長径	短径	厚さ				
第46図8	P-2	SX1・1層	土製品	釜	21	20	0.6	21	近世	在施系?おはじき?	図版1-24

No.2 トレント (第47~48図、図版10~4~8)

S8-E33グリッドに位置する。トレントは北方向に長軸を設定し、規模は4×6mの長方形で面積は24m²である。掘削深度は約2.0mを測る。基本層序の作成は北壁、西壁、東壁で行った。I層盛土からVI層砂層まで大別6層、細別9層からなる。I層は瓦礫、コンクリート塊を含む盛土。II層・III層は砾、炭化物を含む盛土。IV層は炭化物粒を多量に含む近世の乾燥土。V層から砂質シルトの自然堆積層となる。遺構確認作業はV層上面で行い、ピット7基、性格不明遺構12基を確認した。壁面観察でIV層を掘り込む遺構を確認したため遺構確認面は基本層IV層上面と基本層V層上面とした。

遺物は搅乱、基本層及びSX1・3・4確認面、SX6堆積土1層、SX7・11確認面から254点が出土した(図版10~8)。内訳は陶磁器類236点、瓦片11点、石製品3点、金属製品2点、土製品1点、繩文上器1点である。IV層及び各遺構の出土遺物の多くは近世に属するもので、IV層からは土製品の碁石(第48図10)が出上している。

(1) P1~P7 ピット (第47図、図版10~8)

P1、P2はトレントの東側、P3~P7はトレントの西側に位置する。いずれもV層上面で確認した。P1、P2はSX12を切り、P3はSX9を切りSX8に切られる。P5はSX10に切られ、SX11を切っている。平面形はP4が方形で、規模は1辺約26cm、他のピットは円形で、規模は上端の径約15~35cmを測る。堆積土は炭化物を少量含む砂質シルト。遺物の出土はない。

(2) SX1・SX2 性格不明遺構 (第47図、図版10~8)

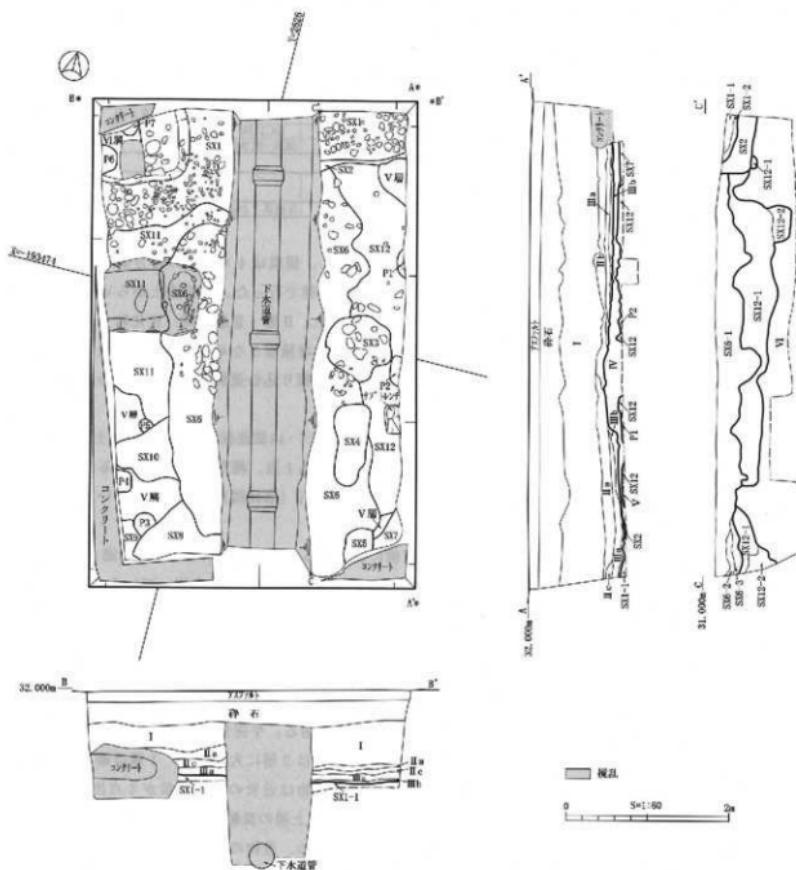
トレントの北側に位置する。V層上面で確認した。東壁の断面観察からIV層を掘り込んでいることを確認したため、本来の遺構確認面はIV層上面である。SX1はSX2、SX11を切る。平面形は不明で、規模は上端の長軸約384cm、短軸約130cmを測る。さらにトレント外に拡がる。堆積土は2層に大別され、1層は砾・炭化物を多量に含む砂質シルト、2層は細砾を少量含む砂質シルトである。遺物は近世の陶磁器類が4点出土している。SX2はSX1に切られ、SX6、SX12を切る。平面形は不明で、規模は上端の長軸約106cm、短軸約76cmを測る。さらにトレント外に拡がる。堆積土は小砾を少量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

(3) SX3~SX5 性格不明遺構 (第47図、図版10~8)

トレントの東に位置する。V層上面で確認した。SX3はSX6、SX12を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約82cm、短軸約72cmを測る。堆積土は砾多量に含む砂質シルトである。遺物は近世の肥前染付皿(第48図1)が出土した。SX4はSX6、SX12を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約100cm、短軸約36cmを測る。堆積土は炭化物粒を多量に含む砂質シルト。遺物は近世の磁器2点が出土した。SX5はSX6、SX7を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約36cm、短軸約32cmを測る。堆積土は炭化物を多量に含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

(4) SX6 性格不明遺構 (第47図、図版10~8)

トレントの中央に位置する。V層上面で確認した。SX1~SX5に切られ、SX8、SX10~SX12を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約502cm、短軸約234cm、深さ90cmを測る。底面は起伏がある。搅乱壁の断面観察から堆積土は4層に大別された。1層から3層は砾多量に含む砂質シルト、4層は炭化物少量含む砂質シ



H区No.2トレンチ基本層土層記述

層位	土色		土質	土性		備考
	土色No.	土色		粘性	しまり	
I	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	盛土。コンクリートガラ・円錐多量。瓦砾。
IIa	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	盛土。にぶい黄褐色砂多量。径5~10mmの炭化物多量。
IIb	10YR4/4	褐色	砂	なし	あり	盛土。混入物少なく均一。
IIc	10YR4/3	にぶい青褐色	砂	なし	あり	盛土。径5~10mmの円錐多量。
IIIa	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり	盛土。径1~3cmの灰黄色砂ブロック少量。径2~5mmの炭化物粒少量。
IIIb	2SY4/2	暗灰褐色	砂質シルト	ややあり	あり	盛土。混入物少なく均一。
IV	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	整地土。近隣、にぶい青褐色砂・径2~5mmの炭化物粒多量。円錐。
V	10YR5/3	にぶい青褐色	細粒砂	あり	あり	自然堆積層。
VI	2SY5/4	青褐色	砂	なし	なし	自然堆積層。

第47図 H区No.2 トレンチ平面図・断面図

III区No.2トレンチ遺構堆積土層記

遺構名	層位	土色	土質	上性		備考
				粘性	しまり	
P1	確認面	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり ややあり	径2~5mmの炭化物粒少量。
P2	確認面	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり ややあり	径2~5mmの炭化物粒少量。
P3	確認面	10YR3/3	暗褐色	シルト	ややあり ややあり	暗褐色砂質粒状に多量。
P4	確認面	10YR4/3	灰褐色	シルト	ややあり	径2~5mm褐色シルト粒多量。
P5	確認面	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	径5mm以下の大炭化物粒少量。
P6	確認面	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	径5mm以下の大炭化物粒少量。
P7	確認面	25Y4/2	暗灰褐色	砂質シルト	なし	径5mm以下の大炭化物粒多量。
SX1	1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	あり あり	径5~10cmの塊。径2~5mmの炭化物多量。
SX2	2	10YR4/1	暗灰色	砂質シルト	ややあり ややなし	径3~5mmの小円錐少量。
SX3	確認面	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり なし	大塊多量。
SX4	確認面	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり なし	径2~5mmの炭化物粒多量。
SX5	確認面	10YR3/1	墨褐色	砂質シルト	ややあり なし	径2~5mmの炭化物粒多量。
SX6	1	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり なし	径10cm大の円錐。
SX6	2	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり なし	径10~20cm大の円錐。暗灰褐色砂ブロック・炭化物粒少量。
SX6	3	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり あり	径10cm大の円錐。暗灰褐色。径2~5mmの炭化物多量。
SX7	4	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり なし	径2~5mmの炭化物粒少量。
SX7	確認面	10YR4/2	灰青褐色	砂質シルト	ややあり なし	径5mm以下の炭化物粒少量。
SX8	確認面	10YR3/1	灰青褐色	砂質シルト	ややあり あり	灰青褐色。径2~5mmの炭化物少量。
SX9	確認面	10YR4/2	灰青褐色	砂質シルト	ややあり ややあり	にがい黄褐色砂多量。
SX10	確認面	10YR4/2	灰青褐色	砂質シルト	ややあり なし	径2~5mmの炭化物粒を少量。
SX11	1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり あり	径2~5mmの炭化物粒多量。
SX11	2	25Y4/2	暗灰褐色	砂質シルト	ややあり あり	径5mm以下の暗褐色砂質シルト粒多量。
SX11	3	25Y5/3	暗褐色	砂	ややあり なし	暗褐色砂質シルトブロック。径2~5mmの炭化物粒少量。
SX12	1	25Y4/3	暗灰褐色	砂	なし	暗褐色砂質シルト。径2~5mmの炭化物粒多量。
SX12	2	25Y5/3	暗褐色	砂	なし	径2~5mmの炭化物粒を少量。

ルトである。遺物は堆積土1層より25点が出土した。全て近世に属するもので肥前染付碗（第48図2）、肥前染付碗（第48図3）、肥前染付鉢（第48図4）、大堀相馬鉄砲碗（第48図5）、大堀相馬灰釉蓋（第48図6）、大堀相馬白陶釉碗（第48図7）、硯（第48図8）、砥石（第48図9）等がある。

(5) SX7～SX12 性格不明遺構（第47図、図版10-8）

SX7はトレンチ南東角に位置する。V層上面で確認した。SX5に切られ、SX12を切る。平面形は不明で、規模は上端の長軸は約42cm、短軸は約22cmを測る。さらにトレンチ外に拡がる。堆積土は炭化物粒を含む砂質シルトで、遺物は鍛先と考えられる金属製品が1点出土した。

SX8はトレンチ南西に位置する。V層上面で確認した。SX6に切られ、SX9、P3を切る。平面形は不明で、規模は上端の長軸は約108cm、短軸は約66cmを測る。さらにトレンチ外に拡がる。堆積土は炭化物を少量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

SX9はトレンチ南西角に位置する。V層上面で確認した。P3、SX8に切られる。平面形は不明で、上端の長軸は約50cm、短軸は約20cmを測り、トレンチ外に拡がる。堆積土は砂質シルトである。遺物の出土はない。

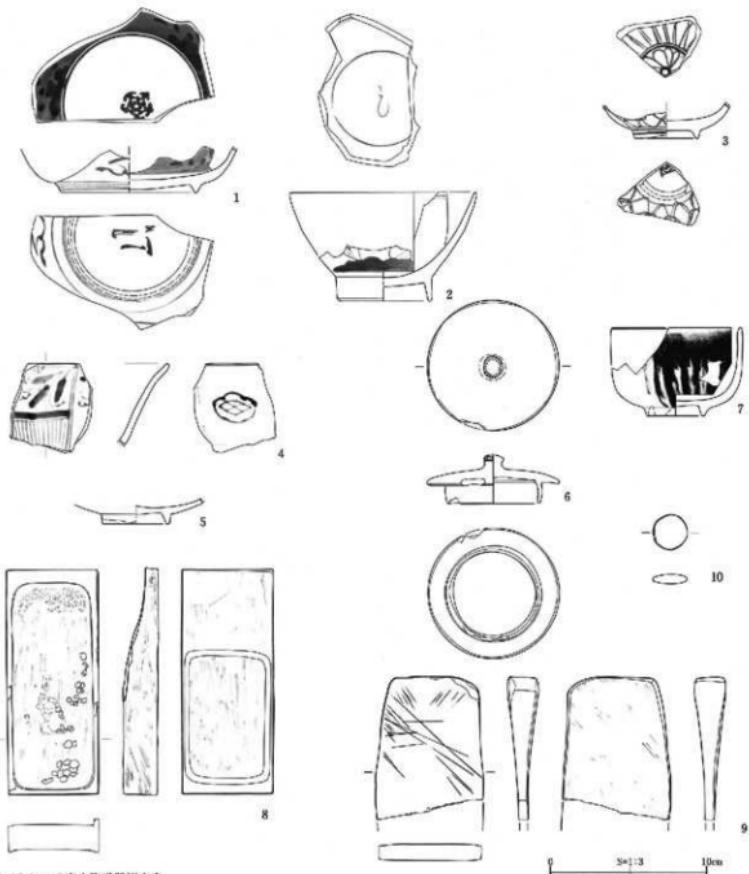
SX10はトレンチの南西に位置する。V層上面で確認した。SX6に切られ、P5、SX11を切る。平面形は楕円形で、規模は上端の長軸約70cm、短軸約64cmを測る。さらにトレンチ外に拡がる。堆積土は炭化物粒を少量含む砂質シルトである。遺物の出土はない。

SX11はトレンチ西側に位置する。V層上面で確認した。SX1・SX6・SX10、P5に切られる。形状は不明で、規模は上端の長軸約400cmである。さらにトレンチ外に拡がる。搅乱壁の断面観察から堆積土は3層に大別され、1層・2層は炭化物粒を含む砂質シルトで、3層は炭化物粒を含む砂層である。遺物は堆積土1層から繩文時代中期の土器片が1点出土した。

SX12はトレンチ東側に位置する。V層上面で確認した。SX2～SX4・SX6・SX7、P1・P2に切られる。平面形は不明で、規模は上端の確認長軸は500cm、さらにトレンチ外に拡がる。搅乱壁の断面観察から堆積土は2層に大別される。1層は炭化物をやや多く含む砂層、2層は炭化物を少量含む砂層である。遺物の出土はない。

(6) 遺構の確認面と時期

遺構は基本層IV層上面・基本層V層上面で19基を確認した。IV層の出土遺物は近世を主体としていることから近世の整地とを考える。遺構確認面は基本層IV層上面・基本層V層上面の2面で、近世の遺構面と考える。遺構の確認状況からNo.2トレンチ周辺の遺構密度は高いと推測される。



H区No.2トレンチ出土石製品観察図

四版番号 番号	登録 遺構・層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			産地	時期	備考	写真 図版
					長径	短径	厚さ				
第48図 1 J-32	SX3-1層	織部	重	体部～底部	—	(8.4)	(2.8)	肥前	17C末～18C前半	軸、ねじ。22×27mm (底)。鉄門柱頭。直角柱頭。	図版1-3
第48図 2 J-33	SX6-1層	織部	碗	口縁部～底部	(11.6)	(6.1)	6.8	肥前	18C末～19C前半	染付。広輪足。	図版1-4
第48図 3 J-34	SX6-1層	織部	碗	体部～底部	—	(4.0)	(2.3)	肥前	18C中頃～後半	染付。直筋目文。足邊有文。高台裏面。直筋目文。	図版1-5
第48図 4 J-35	SX6-1層	織部	鉢	口縁部～底部	—	—	(5.3)	肥前	18C	染付。直筋し成形。草花文。	図版1-6
第48図 5 I-29	SX6-1層	陶器	瓶	体部～底部	—	4.2	(2.1)	大坂相馬	18C	鉄袖・灰袖の掛け分け。	図版1-7
第48図 6 I-30	SX6-1層	陶器	壺	口縁部～底部	8.2	5.8	3.1	大坂相馬	18C後半	灰袖。つまみに刻目。外側貫入。	図版1-8
第48図 7 I-31	SX6-1層	陶器	壺	口縁部～底部	(8.2)	5.6	3.6	大坂相馬	18C後半	白済釉。焰流底。	図版1-9

N=1:3 10cm

H区No.2トレンチ出土石製品観察表

四版番号 番号	登録 遺構・層位	種別	石質	法量 (cm)			重量 (g)	時期	備考	写真 図版
				長径	短径	厚さ				
第48図 8 K-2	SX6-1層	鏡	粘板岩	14.0	5.7	2.0	284.4	近世	黒色。被熱によると思われる剥落が著しい。	図版1-10
第48図 9 K-3	SX6-1層	鏡石	凝灰岩	(8.9)	6.7	1.9	135.9	近世	4面に使用痕。1面は条痕著しい。	図版1-11

H区No.2トレンチ出土土製品観察表

四版番号 番号	登録 遺構・層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	時期	備考	写真 図版
				長径	短径	厚さ				
第48図10 P-3	H層	土製品	瓦石	22	2.1	0.6	2.5	近世	在地系?おはじき?	図版1-12

第48図 H区No.2 トレンチ出土遺物

XII まとめ

この調査は、高速鉄道東西線建設事業及び都市計画道路川内旗立線（川内工区）の建設に伴い、確認・試掘調査として、前年度に引き続き行われた2年次の調査となる。調査区は仙台城跡及びその隣接地、川内A遺跡の隣接地、西公園地区を対象に22箇所のトレンチを設定した。野外調査は平成17年7月25日から同年11月1日まで行った。調査面積は421m²である。

各区の確認遺構及び出土遺物

A区（仮称国際センター駅部周辺：川内A遺跡隣接地）

2箇所の調査が行われた。No.7トレンチでは溝跡1条を確認した。溝堆積土には近代以降の遺物が混入せず、周辺（川内A遺跡）の状況から近世以前の遺構の可能性が高い。No.8トレンチでは遺構を確認できなかった。

B区（扇坂トンネル部：仙台城跡隣接地試掘調査）

3箇所の調査が行われた。No.7トレンチ・No.8トレンチでは、近代以降の盛土が厚く、遺構面に達することができなかつた。No.9トレンチでは、盛土下に流入土と考えられる層が厚く続き、遺構確認面を検出することが出来なかつた。

C区（亀岡トンネル部：仙台城跡確認調査）

1箇所の調査が行われた。No.6トレンチでは近世の遺構面2面と整地層を確認した。確認された遺構は土坑3基、溝跡4条、ピット2基、性格不明遺構3基である。前年度の調査結果とあわせて周辺には近世の遺構が展開していると考えられる。

D区（仮称西公園駅部周辺）

3箇所の調査が行われた。No.2トレンチ・No.4トレンチでは黒褐色の自然堆積層を確認した。内でもNo.4トレンチの自然堆積層の残存状況は良好であった。No.2トレンチでは近世以前の遺構面を1面確認した。確認された遺構は性格不明遺構1基である。No.3トレンチでは黒褐色の自然堆積層は確認されず、近世と近世以前の遺構面2面と近世の整地層を確認した。確認された遺構は性格不明遺構7基である。

E区（仮称川内駅部：仙台城跡確認調査）

3箇所の調査が行われた。No.1トレンチでは近世の遺構面1面と整地層を確認した。確認された遺構はピット9基、性格不明遺構4基である。No.2トレンチでは近世の遺構面を1面確認した。確認した遺構はピット15基、性格不明遺構1基である。No.3トレンチは近代以降に削平されており、近世の遺構は確認できなかつた。E区東側には、近世の遺構の広がりが期待できる。

F区（仮称川内駅部：仙台城跡確認調査）

3箇所の調査が行われた。調査区の大部分は擾乱されているため、近世の遺構は確認できなかつた。No.3トレンチより北へ1mの地点で、アスファルト舗装の陥没により近世の井戸跡1基を確認した。周辺は擾乱により大部分が削平されていると思われるが、井戸跡等の深く掘られた遺構は残存している。

G区（扇坂トンネル部：仙台城跡確認調査）

5箇所の調査が行われた。No.1トレンチでは近世の遺構面1面と整地層を確認した。確認された遺構は性格不明遺構1基である。No.2トレンチでは近世の遺構面2面と整地層を確認した。確認された遺構はピット7基、性格不明遺構3基である。No.3トレンチでは近世の遺構面1面と整地層を確認した。確認された遺構はピット2基である。P2は横石を作り、周辺に建物跡が展開している可能性が高い。No.4トレンチでは遺構を確認できなかつた。No.5トレンチでは近世の遺構面を1面確認した。確認された遺構は性格不明遺構2基である。G区周辺には、近世の遺構が高い密度で分布していると考えられる。

H区（仮称西公園駅部周辺）

2箇所の調査が行われた。No.1トレンチでは近世の遺構面2面と整地層を確認した。確認された遺構は性格不明遺構7基である。No.2トレンチでは近世の遺構面2面と整地層を確認した。確認された遺構はピット7基、性格不明遺構12基である。両トレンチとも近世の遺物が多量に出上しており、遺構の残存状況も良好で、周辺には近世の遺構が広く展開しているものと思われる。

表2 確認遺構集計表

調査区	A区			B区			C区			D区			E区			F区			G区			H区			合計	
	No.7	No.8	No.7	No.8	No.9	No.6	No.2	No.3	No.4	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.1	No.2										
SK						3																				3
SX						3	1	7	4	1									1	3		2	7	12	41	5
SD	1					4																				7
P						2					9	15								7	2					7
合計	1					12	1	7	13	16									1	10	2	2	7	19	91	42

表3 A区出土遺物集計表

トレンチ名	出土層位	調査区分												備考	
		縄文	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦・ 軒平瓦	その他の 瓦	陶器・ 瓦質・ 土質質	磁器	石器・ 石製品	金屬 製品	自然 遺物	土製品	その他	合計		
	A	F	G	H	I	J	K	N	O	P	X	点		明治、近世。	
埋乱	0	1	0	5	7	2	0	0	0	0	0	0	15		
No.7トレンチ	Ⅱ～Ⅳ層	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2		近世。
SD1-1層	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4		縄文。
合計	4	1	0	5	8	3	0	0	0	0	0	0	21		

表4 B区出土遺物集計表

トレンチ名	出土層位	調査区分												備考	
		縄文	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦・ 軒平瓦	その他の 瓦	陶器・ 瓦質・ 土質質	磁器	石器・ 石製品	金屬 製品	自然 遺物	土製品	その他	合計		
	A	F	G	H	I	J	K	N	O	P	X	点			
No.5トレンチ	Ⅲ層	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3		明治以降。
No.9トレンチ	Ⅴ層	9	0	1	1	10	8	0	1	1	0	0	31		縄文、近世、明治以降。
合計	9	0	1	1	11	10	0	1	1	0	0	0	34		

表5 C区出土遺物集計表

トレンチ名	出土層位	調査区分												備考	
		縄文	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦・ 軒平瓦	その他の 瓦	陶器・ 瓦質・ 土質質	磁器	石器・ 石製品	金屬 製品	自然 遺物	土製品	その他	合計		
	A	F	G	H	I	J	K	N	O	P	X	点			
No.5トレンチ	Ⅱ層	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4		縄文～明治。
No.5トレンチ	Ⅲ層	0	0	0	0	6	12	0	0	0	0	0	18		縄文～幕末、明治以降。
No.5トレンチ	Ⅳ層	0	0	0	0	7	4	0	0	0	0	0	11		明治以降。
No.5トレンチ	Ⅴ層	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	5		近世。
合計	0	0	0	0	15	23	0	0	0	0	0	0	38		

表6 D区出土遺物集計表

トレンチ名	出土層位	調査区分												備考	
		縄文	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦・ 軒平瓦	その他の 瓦	陶器・ 瓦質・ 土質質	磁器	石器・ 石製品	金屬 製品	自然 遺物	土製品	その他	合計		
	A	F	G	H	I	J	K	N	O	P	X	点			
No.2トレンチ	Ⅰ層	1	1	0	2	49	117	1	2	0	1	1	175		明治以降を主、近世含む。
No.2トレンチ	Ⅱ層	0	0	0	1	41	87	0	0	0	0	0	129		明治以降を主、近世含む。
No.2トレンチ	Ⅲ層	0	0	0	0	16	32	0	1	1	0	0	50		明治以降を主、近世含む。
No.2トレンチ	Ⅳ層	0	1	0	0	13	27	0	0	0	0	0	41		明治以降を主、近世含む。
No.2トレンチ	Ⅴ層	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		175前半。
No.3トレンチ	Ⅰ層	0	2	2	10	61	104	1	2	0	1	0	183		明治以降を主、近世含む。
No.3トレンチ	Ⅱ層	0	2	0	0	7	19	0	0	0	0	0	28		明治以降。
No.3トレンチ	Ⅲ層	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	20		明治以降を主、近世含む。
No.3トレンチ	Ⅳ層	0	0	0	0	9	3	0	0	0	7	0	7		骨。
No.3トレンチ	Ⅴ層	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	1		近世。
段品	0	1	1	4	17	17	0	0	0	0	0	0	40		明治以降を主、近世含む。
No.4トレンチ	Ⅰ～Ⅲ層	0	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	5		縄文～明治。
No.4トレンチ	Ⅳ層	0	2	0	2	6	27	1	0	0	0	0	38		明治以降を主、近世含む。
合計	1	9	3	20	435	3	5	21	2	1	743	1			

表7 E区出土遺物集計表

トレンチ名	出土層位	調査区分												備考	
		縄文	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦・ 軒平瓦	その他の 瓦	陶器・ 瓦質・ 土質質	磁器	石器・ 石製品	金屬 製品	自然 遺物	土製品	その他	合計		
	A	F	G	H	I	J	K	N	O	P	X	点			
No.1トレンチ	Ⅰ層	0	0	0	0	5	13	0	0	0	0	0	18		明治以降を主、近世含む。
No.1トレンチ	Ⅱ層	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	6		縄文。
No.1トレンチ	Ⅲ層	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3		近世。
No.1トレンチ	Ⅳ層	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3		18C～縄文。
No.2トレンチ	段品	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	6		近世。
No.2トレンチ	Ⅰ層	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2		近世。
No.2トレンチ	Ⅱ層	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5		明治以降。
No.3トレンチ	Ⅰ層	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		近世。
合計	0	0	0	0	16	30	0	1	0	0	0	0	46		

表8 F区出土遺物集計表

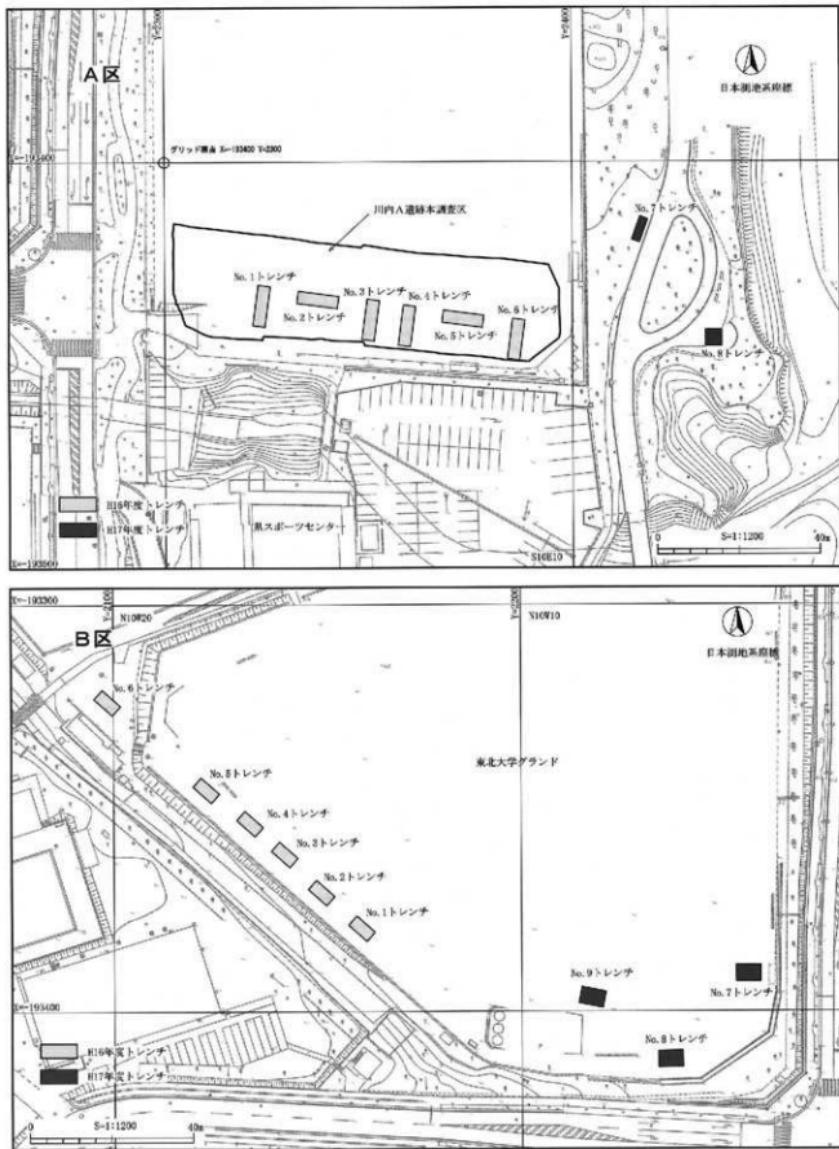
トレンチ名	出土層位 十段	縹文 丸瓦・ 軒丸瓦				平瓦・ 軒平瓦				その他の 瓦	陶器・ 瓦質・ 土器質	磁器	石器・ 石製品	金属 製品	自然 遺物	上製品	その他	合計	備考
		A	F	G	H	I	J	K	N	O							P	X	点
No1トレンチ	埋乱	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	明治以降。
No1トレンチ	瓦盤	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	明治。
No2トレンチ	埋乱	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	明治以降。
No2トレンチ	瓦盤	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	19C～瓦上。
No3トレンチ	瓦盤	0	0	0	0	0	6	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	明治以降を主、近世含む。
No3トレンチ	瓦盤	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	明治以降。
合計		0	0	0	0	8	27	0	0	0	0	0	0	0	0	1	36		

表9 G区出土遺物集計表

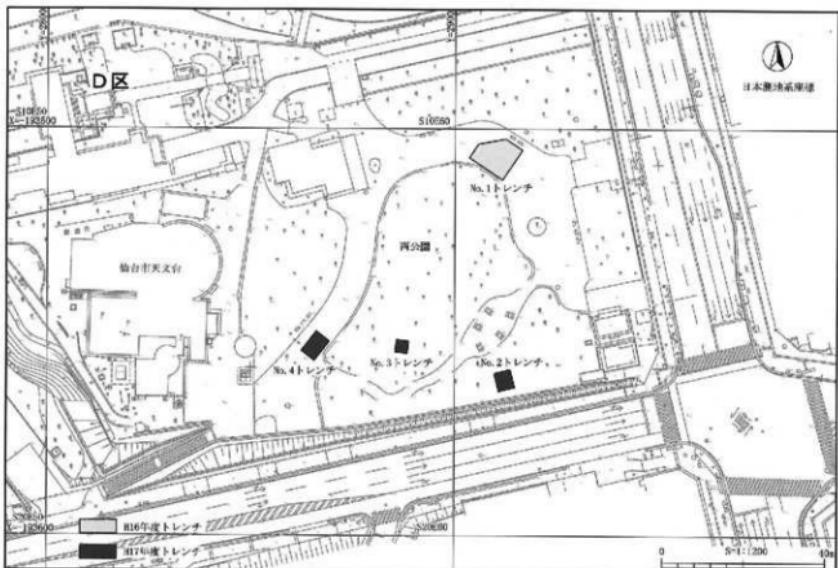
トレンチ名	出土層位 十段	縹文 丸瓦・ 軒丸瓦				平瓦・ 軒平瓦				その他の 瓦	陶器・ 瓦質・ 土器質	磁器	石器・ 石製品	金属 製品	自然 遺物	上製品	その他	合計	備考
		A	F	G	H	I	J	K	N	O							P	X	点
No1トレンチ	埋乱	0	0	0	1	3	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	明治以降を主、近世含む。
No1トレンチ	I層	0	0	0	3	10	76	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	94	明治以降。
No1トレンチ	丁・Ⅲ層	0	0	0	0	6	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	明治以降を主、近世含む。
No1トレンチ	Ⅱ・Ⅳ層	0	1	0	0	6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	明治以降。
No1トレンチ	Ⅲ・Ⅴ層	0	0	0	35	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39	明治以降を主、近世含む。
No1トレンチ	SX1-1層	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	19C・19C～幕末。
No1トレンチ	瓦盤	0	0	0	0	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	19C～幕末。
No1トレンチ	V層	0	0	0	1	11	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	近世。
No1トレンチ	VI層	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	近世。
No2トレンチ	I層	0	0	0	0	2	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	明治以降。
No2トレンチ	SX1-1層	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	近世。
No2トレンチ	瓦盤	0	0	0	0	13	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	19C～幕末。
No2トレンチ	IV・V層	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	近世。
No3トレンチ	埋乱	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	近世、明治以降。
No3トレンチ	瓦盤	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	近世。
No4トレンチ	埋乱	0	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	明治以降。
No4トレンチ	瓦盤	0	0	0	0	0	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	近世、明治以降。
No5トレンチ	埋乱	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	明治以降。
No5トレンチ	瓦盤	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	明治以降。
No5トレンチ	SX2-1層	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	明治以降。
合計		0	3	0	49	70	180	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	301	

表9 H区出土遺物集計表

トレンチ名	出土層位 十段	縹文 丸瓦・ 軒丸瓦				平瓦・ 軒平瓦				その他の 瓦	陶器・ 瓦質・ 土器質	磁器	石器・ 石製品	金属 製品	自然 遺物	上製品	その他	合計	備考	
		A	F	G	H	I	J	K	N	O							P	X	点	
No1トレンチ	埋乱	0	5	3	4	59	122	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	194	明治以降を主、近世含む。	
No1トレンチ	I層	0	0	0	0	25	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	明治以降を主、近世含む。	
No1トレンチ	II・III層	0	0	0	0	16	56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72	明治以降を主、近世含む。	
No1トレンチ	IV・V層	0	1	0	0	23	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	83	明治以降を主、近世含む。	
No1トレンチ	新窓	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	明治以降を主、近世含む。	
No1トレンチ	SX1-1層	0	0	0	0	1	51	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	102	明治以降を主、近世含む。	
No1トレンチ	瓦盤	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	近世。	
No2トレンチ	埋乱	0	0	0	0	0	25	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	48	近世。
No2トレンチ	SX1-2層	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	19C後半。	
No2トレンチ	V層	0	1	0	1	3	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	近世。	
No2トレンチ	SX5-1層	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	19C前半。	
No2トレンチ	SX7-1層	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	19C前半。	
No2トレンチ	VI層	0	0	0	0	1	64	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85	近世を主、わずかに南朝を含む(裏入か)。	
No2トレンチ	SX3-1層	0	1	0	1	4	17	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	19C～19C前半。	
No2トレンチ	SX4-1層	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	近世。	
No2トレンチ	SK6-1層	0	5	0	0	10	8	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	近世。	
No2トレンチ	SX7-2層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	近世。	
No2トレンチ	SX1-2層	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	織文。	
合計		1	16	4	9	349	436	3	2	0	2	3	0	0	0	0	825			



第49図 前年度調査トレンチ配置図（1）



第50図 前年度調査トレンチ配置図(2)

参考文献

- 仙台市教育委員会 2002 「仙台城跡 1 - 平成13年度調査報告書-」(仙台市文化財調査報告書第259集)
- 仙台市教育委員会 2003 「仙台城跡 2 - 平成14年度調査報告書-」(仙台市文化財調査報告書第264集)
- 仙台市教育委員会 2004 「仙台城跡 3 - 平成15年度調査報告書-」(仙台市文化財調査報告書第270集)
- 仙台市教育委員会 2004 「仙台城跡 4 - 平成15年度調査報告書-」(仙台市文化財調査報告書第271集)
- 仙台市教育委員会 1997 「養種園遺跡」(仙台市文化財調査報告書第214集)
- 仙台市教育委員会 2005 「仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(1)概要報告書」(仙台市文化財調査報告書第289集)
- 仙台市史編さん委員会 2004 「仙台市史 通史編 5 近世 3」
- 仙台市史編さん委員会 1994 「仙台市史 特別編 1 自然」
- 仙台市史編さん委員会 1995 「仙台市史 特別編 2 考古資料」
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1994 「東北大学埋蔵文化財調査年報 7」
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1997 「東北大学埋蔵文化財調査年報 8」
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2000 「東北大学埋蔵文化財調査年報 13」
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2005 「東北大学埋蔵文化財調査年報 18」
- 兵庫埋蔵銭調査会 1996 「日本出土銭総覧」
- 九州近世陶磁学会 2000 「九州陶磁の総年」

写 真 図 版



1. A区No.7トレンチ着手前（北より）



2. A区No.7トレンチ北壁断面（南より）



3. A区No.7トレンチ西壁断面南側（東より）



4. A区No.7トレンチ西壁断面北側（東より）



5. A区No.7トレンチ完掘状況（南西より）



6. A区No.8トレンチ着手前（南西より）



7. A区No.8トレンチ北壁断面（南より）



8. A区No.8トレンチIV層上面確認状況（西より）

図版1 A区



1. B区No.7トレンチ着手前（西より）



2. B区No.7トレンチ北壁断面（南より）



3. B区No.7トレンチVI層上面確認状況（南より）



4. B区No.8トレンチ着手前（北より）



5. B区No.8トレンチ南壁断面（北より）



6. B区No.8トレンチXI層上面確認状況（北西より）



7. B区No.9トレンチ着手前（北より）



8. B区No.9トレンチ南壁断面（北より）

図版2 B区(1)



1. B区No.9トレンチX層上面確認状況（東より）



2. C区No.6トレンチ着手前（南より）



3. C区No.6トレンチ北壁断面（南より）



4. C区No.6トレンチ西壁断面南側（東より）



5. C区No.6トレンチ西壁断面北側（東より）



6. C区No.6トレンチVI層上面確認状況（北より）



7. D区No.2トレンチ着手前（北西より）



8. D区No.2トレンチ北壁断面（南より）

図版3 B区(2)・C区・D区(1)



1. D区No.2トレンチ西壁断面（東より）



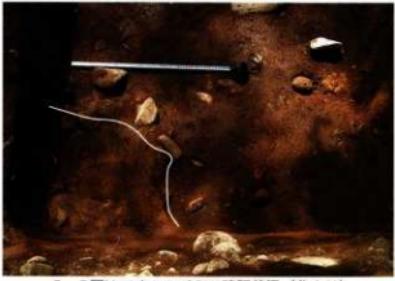
2. D区No.2トレンチⅢ層上面遺構確認状況（南東より）



3. D区No.3トレンチ着手前（南より）



4. D区No.3トレンチ南壁断面（北より）



5. D区No.3トレンチSX1確認状況（北より）



6. D区No.3トレンチSX2発掘状況（東より）



7. D区No.3トレンチⅢ層上面遺構確認状況（西より）



8. D区No.4トレンチ着手前（南より）

図版4 D区(2)



1. D区No.4トレンチ西壁断面（東より）



2. D区No.4トレンチX層上面確認状況（南より）



3. E区No.1トレンチ着手前（北より）



4. E区No.1トレンチ北壁断面（南より）



5. E区No.1トレンチ西壁断面南側（東より）



6. E区No.1トレンチ西壁断面北側（東より）



7. E区No.1トレンチX層上面確認状況（北より）



8. E区No.2トレンチ着手前（西より）

図版5 D区(3)・E区(1)



1. E区No.2トレンチ北壁断面（南より）



2. E区No.2トレンチ西壁断面（東より）



3. E区No.2トレンチIV層上面造構確認状況（東より）



4. E区No.3トレンチ着手前（北より）



5. E区No.3トレンチ西壁断面（東より）



6. E区No.3トレンチV層上面確認状況（南より）



7. F区No.1～No.3トレンチ着手前（西より）



8. F区No.1トレンチ西壁断面（東より）

図版6 E区(2)・F区(1)



1. F区No.1トレンチV層上面確認状況（南より）



2. F区No.2トレンチ北壁断面（南より）



3. F区No.2トレンチV層上面確認状況（南より）



4. F区No.3トレンチ西壁断面（東より）



5. F区No.3トレンチVI層上面確認状況（北より）



6. G区No.1トレンチ着手前（西より）



7. G区No.1トレンチSX1ベルト断面（西より）



8. G区No.1トレンチ北壁断面西側（南より）

図版7 F区(2)・G区(1)



1. G区No.1トレンチ北壁断面東側（南より）



2. G区No.1トレンチV層・VI層上面確認状況（西より）



3. G区No.2トレンチ着手前（北より）



4. G区No.2トレンチ北壁断面（南より）



5. G区No.2トレンチ西壁断面（東より）



6. G区No.2トレンチV層上面造構確認状況（北より）



7. G区No.3～No.5トレンチ着手前（西より）



8. G区No.3トレンチ西壁断面（東より）

図版 8 G区(2)



1. G区No.3 トレンチP2確認状況（西より）



2. G区No.3 トレンチX層上面造構確認状況（南より）



3. G区No.4 トレンチ北壁断面（南より）



4. G区No.4 トレンチIX層上面確認状況（東より）



5. G区No.5 トレンチ西壁断面（東より）



6. G区No.5 トレンチIII層上面造構確認状況（北より）



7. H区No.1 トレンチ着手前（南より）



8. H区No.1 トレンチ西壁断面南側（東より）

図版9 G区(3)・H区(1)



1. H区No.1トレンチ西壁断面（東より）



2. H区No.1トレンチ北壁断面（南より）



3. H区No.1トレンチV層上面確認状況（南より）



4. H区No.2トレンチ着手前（南より）



5. H区No.2トレンチ東壁断面南側（西より）



6. H区No.2トレンチ東壁断面北側（西より）



7. H区No.2トレンチ北壁断面（南より）



8. H区No.2トレンチV層上面確認状況（北より）

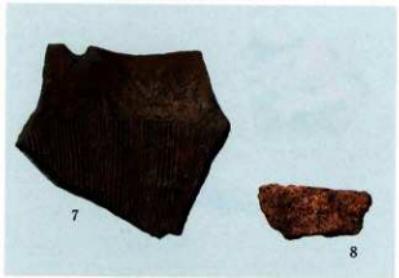
図版10 H区(2)



A区No.7 トレンチ出土遺物



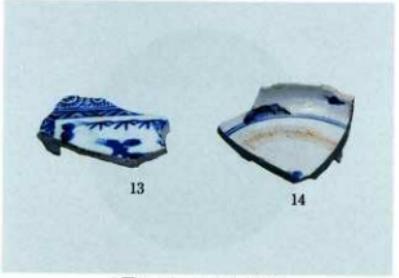
B区No.9 トレンチ出土遺物



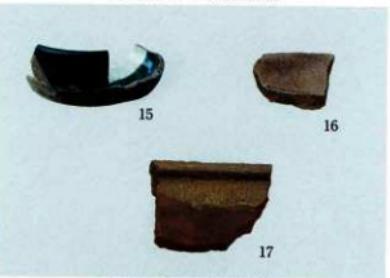
B区No.9 トレンチ出土遺物



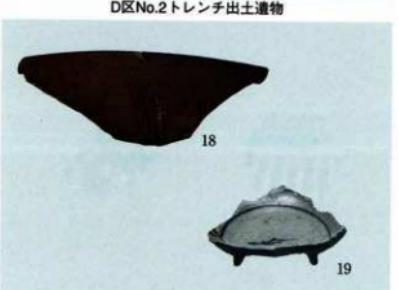
C区No.6 トレンチ出土遺物



D区No.2 トレンチ出土遺物



D区No.2 トレンチ出土遺物



D区No.2 トレンチ出土遺物



D区No.2 トレンチ出土遺物

図版11 A区・B区・C区・D区出土遺物



D区No.3 トレンチ出土遺物



D区No.3 トレンチ出土遺物



D区No.3 トレンチ出土遺物



D区No.4 トレンチ出土遺物



D区No.4 トレンチ出土遺物



D区No.4 トレンチ出土遺物



E区No.1 トレンチ出土遺物

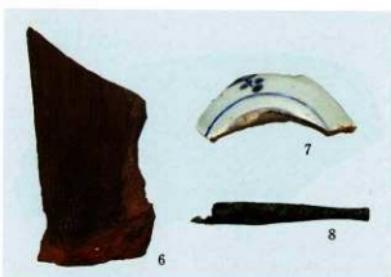


E区No.2 トレンチ出土遺物 22
F区No.1 トレンチ出土遺物 23

図版12 D区・E区・F区出土遺物



G区No.1 トレンチ出土遺物



G区No.1 トレンチ出土遺物



G区No.2 トレンチ出土遺物



G区No.2 トレンチSX1・P1出土遺物



G区No.5 トレンチ出土遺物



H区No.1 トレンチ出土遺物



H区No.1 トレンチSX1出土遺物

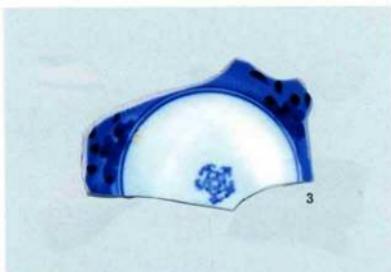


H区No.1 トレンチSX1出土遺物

図版13 G区・H区出土遺物



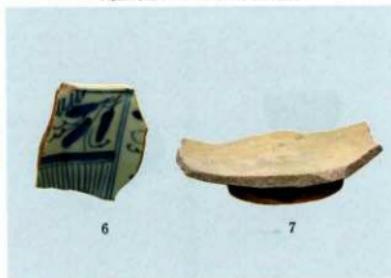
H区No.1 トレンチSX5・7出土遺物



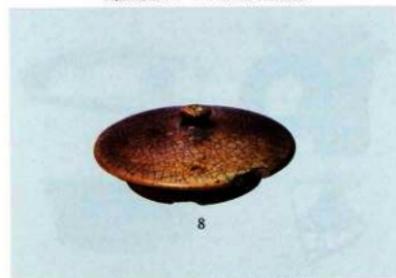
H区No.2 トレンチSX3出土遺物



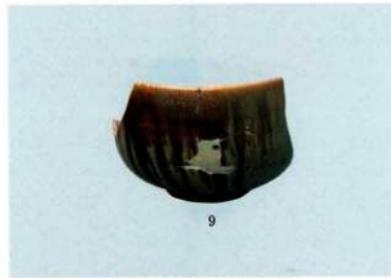
H区No.2 トレンチSX6出土遺物



H区No.2 トレンチSX6出土遺物



H区No.2 トレンチSX6出土遺物



H区No.2 トレンチSX6出土遺物



H区No.2 トレンチSX6出土遺物



H区No.2 トレンチSX3・IV層出土遺物

図版14 H区出土遺物

報告書抄録

ふりがな	せんだいしこうそくでつどうとうざいせんかんけいいせきはくつちょうさ(2)かいようほうこくしょ						
書名	仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(2)概要報告書						
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第302集						
編著者名	佐藤甲二 竹内俊之 山崎良二 土橋尚起 守谷健吾 小林孝彰						
編集機関	仙台市教育委員会						
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号 TEL 022 (214) 8893~8894						
発行年月日	2006年 3月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東經	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
仙台城跡他	宮城県仙台市 青葉区青葉山 川内・桜ヶ丘公園	04100 01033	官城県 38° 15' 33" 38° 15' 38"	140° 51' 45" 140° 50' 59"	発掘調査 2005.7.25~ 2005.11.1	421m ²	仙台市高速鉄道東西線建設事業及び川内旗立線建設に伴う確認・試掘調査
所 収 遺 跡 名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
仙台城跡他	散布地 城船跡 その他の遺構	縄文時代 江戸時代	土坑 ピット・溝跡 性格不明遺構	繩文土器 近世陶磁器 瓦・土製品・石製品			

仙台市文化財調査報告書第302集
仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(2)概要報告書

2006年3月

発行 仙台市教育委員会
宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7-1
文化財課 022(214)8893

印刷 株式会社 東北プリント
本社 仙台市青葉市立町24-24
工場 仙台市若林区鶴代町5-80

